文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営・中核拠点

# 創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム
# 2020年度事業報告書

創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム実施校

**東北大学・熊本大学・大阪府立大学・立教大学**

**2020 年度　年度事業報告書 目次**


1　事業・取組概要 1

1.1　文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」 1

1.2　本取組における背景 1

1.3　創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム 2

2　履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（中核拠点） 3

2.1　「産学連携教育イノベーター育成プログラム」の目的及び人材像 3

2.2　研修プログラムの到達目標 3

2.3　研修プログラムの受講資格 3

2.4　プログラムの教育内容及び教育方法 3

2.5　４大学ごとのコースの特色とプログラム全体の一体性の確保 4

2.6　プログラム実施体制の整備 6

2.7　プログラム開発 6

2.8　プログラム実施 7

2.9　産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム 8

3　創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム（運営拠点） 9

3.1　人材エージェント業務 9

3.2　受講者・修了者データベースシステムを含む人材エージェントシステムの設計・構築 10

3.3　研修プログラムの質保証・標準化 10

3.4　研修プログラムの講師の養成 10

3.5　実務家教員育成・活用全国会議 11

3.6　大学改革を担う実務家教員フェア 11

4　資料（資料目次） 12

5　参考資料 108

# 1　事業･取組概要

## 1.1　文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」（以下「事業」という。）は、国公私立大学、専門職大学、短期大学、専門職短期大学、高等専門学校、及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）において、個別の企業や業界を超えたオープンイノベーションを促進するため、社会人の学び直しも含め、産学がともに人材育成に主体的に参画し、実践的な産学共同教育の場やプログラムを提供するために不可欠な実務家教員（専攻分野における実務の経験及び高度の実務の能力を有する教員）の質・量の充実に資する取組を支援することを通じて、アカデミアと社会を自由に行き来できる学びと社会生活の好循環を醸成し、もって、中長期的かつ持続的に社会の要請に応えることができる産学共同による人材育成システムを構築することを目的とした事業である。

知識を共有・集約することで、様々な社会課題を解決し、新たな価値が生み出される社会である「知識集約型社会」の到来に向け、これまで以上に実務家教員の活躍が促進されることにより、アカデミアと企業等の教育リソースが継続して往還し、教育研究活動の進展において企業等との協力・連携関係が充実していくことを目指し、設置された事業である。（文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業 公募要領」より）

## 1.2　本取組における背景

社会・経済の高度化やグローバル化、さらには人口減少社会の本格化に伴い、一人ひとりの市民・職業人としての資質・能力の重要性が増す一方、日本の人材育成は、大きな課題を抱えたままであり、危うい状況にある。授業外学習時間の少なさに表れる、大学生は勉強しないという日本の常識は、世界の非常識と言わざるを得ない。また、社会人が大学院・大学等で学び直すリカレント教育は、何十年も重要性が叫ばれ続けながら、依然として低調であり、日本の社会人は世界で一番学ばないとも言われる。これらの問題の背景として、新卒一括採用やいわゆる終身雇用を含む日本的雇用慣行の在り方が指摘されてきた。

長年にわたって変わりそうで変わらなかった高等教育と産業界の関係が、ようやく今、変革に向けて動き出している。中央教育審議会の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（2018 年 11 月）は、次の通り、雇用慣行の問題に触れつつ、産学共同による人材育成が大学教育改革の推進力の一つとなることへの期待感を示した。「これまでの雇用慣行を見直す動きが見え始めている中、これらの動きは、高等教育の変化の大きな後押しになる。労働集約型経済から知識集約型経済への転換を真剣に考えていく際に、高等教育と産業界等との協力関係は欠かせない。経済・社会の発展をもたらす高等教育の在り方について、人材を育成する側と人材を活用する側で議論と理解を深めていく必要がある」。また、日本経済団体連合会と国公私立大学による「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の共同提言（2019 年 4 月）は、メンバーシップ型採用としての新卒一括採用に加え、ジョブ型採用も含め、多様な採用形態に秩序をもって移行すべきであるとするとともに、産学共同での大学教育プログラムの検討やリカレント教育の活性化方策の検討などを謳った。

産学の連携により、学生がインターンシップで実社会を経験しながら、社会と結合した大学で

の学びに注力することが卒業後の活躍につながる社会、リカレント教育など社会人となっても学び続け、チャレンジし続ける時代がようやく到来するか、重大な岐路を迎えている。本取組は、このような方向での教育・雇用一体改革を軌道に乗せることに貢献すべく、学びと社会をつなぐことにより、学生の大学教育への動機付けを高めるとともに、社会人をリカレント教育へ惹き付けることを目指す。このため、特定の業種・職種などに限定した取組ではなく、汎用性・普遍性の高い取組となることを基本コンセプトとする。

本取組が目指すのは、産学が連携して実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現、未来を拓く人材の各界への輩出である。そのためにも、その中心的役割を担う実務家教員を育成する研修プログラムの提供が重要となる。本取組では、各コース共通の人材像として、「学びと社会をつなぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する教育イノベーター」を掲げる。

実務家教員に対して、産学間における人材と知の往還について先導的役割を求めるのみならず、学習成果のエビデンスに基づく効果的教授法の産学両方における普及についても役割を果たすことを期待して取り組む。日本の高等教育と企業内教育に共通する問題として、教員（講師）が学生（受講者）に一方的に語る講義（講演）形式への偏りがある。実務家教員の育成・活用を通じ、教員・講師が話すことよりも学生・受講者が学ぶことに焦点を置き、学習活動を効果的に促進することで、学習成果の獲得・向上を確保することを目指す。

### 1.3　創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム

国公私立４大学が幅広い企業・団体と連携して全国的コンソーシアムを設立し、多様な業種・職種の実務家を対象に、学びと社会をつなぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する教育イノベーターを人材像とする研修プログラムとして、履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」を開発・実施するとともに、ｅポートフォリオでマッチングを図る人材エージェントを構築・運用し、人材と知の循環を推進する。以って、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現及び創造と変革を先導する人材の輩出に貢献する。

## 2　履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（中核拠点）

### 2.1 「産学連携教育イノベーター育成プログラム」の目的及び人材像

本プログラムの目的は、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することである。

育成する実務家教員の人材像は、「学びと社会をつなぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する教育イノベーター」である。それは、学びと社会をつなぐことにより、学生の大学教育への動機付けを高めるとともに、社会人をリカレント教育へ惹き付けることができる教育者である。また、実務経験に基づく実践知と関連する理論・方法論など普遍的な学術知とをブリッジし、両者の対話・循環による相乗効果を目指す先導者である。さらに、国際連携により海外の先進的知見を採り入れつつ、教員・講師が話すことよりも学生・受講者が学ぶことに焦点を置き、学習活動を効果的に促進することで、学習成果の獲得・向上を確保する教育をデザインし実践できる変革者である。

本プログラムは、各実施校の汎用的な専門性を活かし、東北大学はリベラルアーツ教育、熊本大学はインストラクショナルデザイン、大阪府立大学はアントレプレナーシップ教育、立教大学はリーダーシップ教育のコースを設ける。全コース共通に、基礎をオンラインで学び、教育イノベーターに必要な実践力を培う。

### 2.2　研修プログラムの到達目標

本プログラムは、学校教育法に基づく履修証明プログラムとする。上述の人材像に必要な到達目標として、次の３つの学習成果の獲得を掲げる。これらの到達目標については、学校教育法に基づく履修証明書の交付に当たり、目標ごとに到達度を示すポートフォリオ評価を添えることにより、プログラム全体の学習成果を明示する。

- 大学教員として教育を担うための基礎的知識・スキル・態度
- 各実施校のコースごとに設定する専門領域（汎用的な専門性）における教育実践力
- 学びと社会をつなぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する「教育イノベーター」としての実践力

### 2.3　研修プログラムの受講資格

本プログラムの受講資格は、次の両方を充たすものとする。

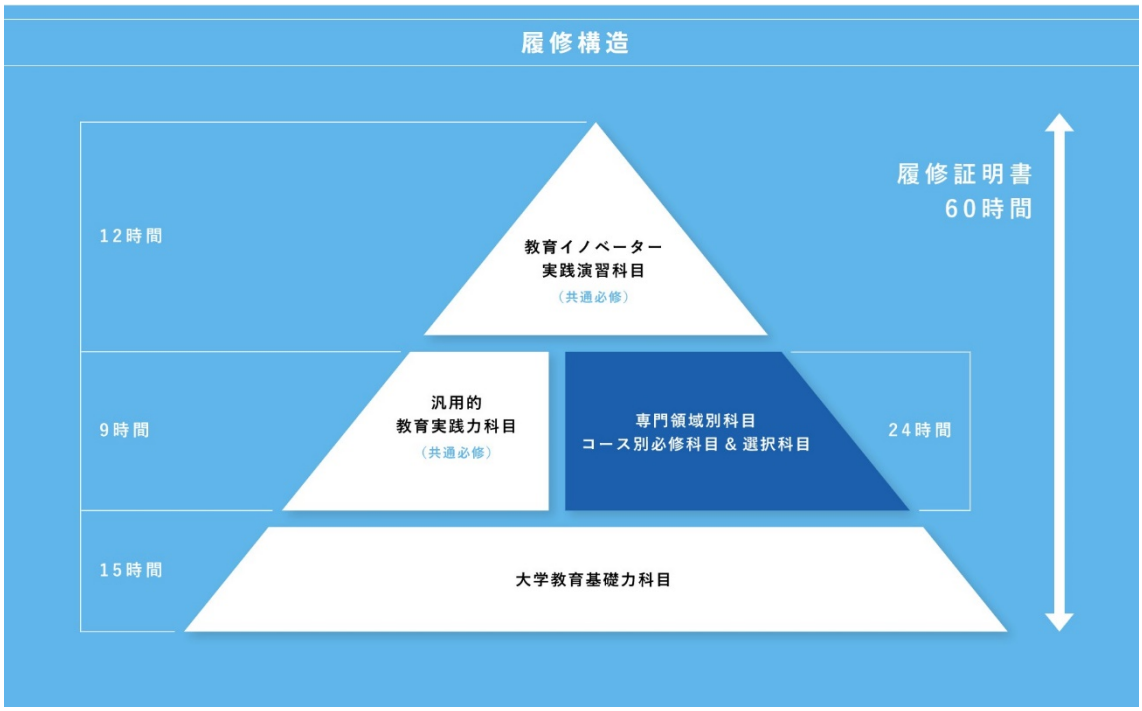
- 大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- 原則として専門的技術的又は管理的な職務において５年以上の実務経験を有する者

### 2.4　プログラムの教育内容及び教育方法

本プログラムでは、計 60 時間の学習を修了した者には履修証明制度に基づく履修証明書が交付される。

大学教員としての教育基礎力（基礎的知識・スキル・態度）をオンライン研修で共通に学ぶ「大学教育基礎力科目」（15 時間）を履修した上で、「汎用的教育実践力科目」（9 時間）でインストラクショナルデザイン、シラバス作成、研究指導について実践的な演習に取り組み、各大学の強みや専門性を活かして提供される「専門領域別科目」（4 大学の提供する 4 コースのいずれかを履修。一部は選定コース大学以外の学習項目も取得可とする。計 24 時間以上。）、これらの履修をベースに教育イノベーターとして活躍していくための資質・能力を確保するための「教育イノベーター実践演習科目」（12 時間）から成る。本プログラムの科目構成・履修構造は、図表 1 の通りである。

**図表 1　産学連携教育イノベーター育成プログラムの科目構成と履修構造**




本プログラムでは、大学教育の現状についての正確な認識、教育方法や学習評価等の基礎的な知識の獲得、実務経験の体系化・構造化、実務と関連する学問分野との関連付けについての学習、並びに、研究倫理等の理解は、大学教育基礎力科目においてカバーされており、シラバスや教材作成、模擬授業を含めた体験型研修（実習）の実施は、汎用的教育実践力科目及び教育イノベーター実践演習科目において取り扱われる。また、研究推進に当たって必要な能力や研究指導力の修得は、汎用的教育実践力科目において、実務家教員ならではの役割を活かせる内容として盛り込んでいる。

### 2.5　4 大学ごとのコースの特色とプログラム全体の一体性の確保

専門領域別科目は、4 大学のそれぞれの強みを活かしたコースを特徴づける科目であり、東北大学はリベラルアーツ教育、熊本大学はインストラクショナルデザイン、大阪府立大学はアントレプレナーシップ教育、立教大学はリーダーシップ教育、という多くの業種・職種で汎用的に必要とされる資質・スキルを獲得させる教育を担い得る実務家教員を育成するための科目である。

各コースの特色とその基盤となる実績は、図表 2 の通りである。

**図表 2　実施校の実績・強みと専門教育実践力育成コース**

| 実施校 | 実施校の実績・強み | 専門教育実践力育成コース |
|---|---|---|
| 東北大学 | 大学教員育成に関する総合的な教育関係共同利用拠点：<br>大学教員準備研修、履修証明プログラム（BP）、高等教育リテラシー・教学マネジメント等セミナー、動画配信 | 産学連携リベラルアーツ教育指導力育成コース |
| 熊本大学 | 日本のインストラクショナルデザイン（ID）のメッカ：オンライン実務家教育として日本初の e ラーニング専門家養成大学院（社会人大学院）、教育関係共同利用拠点 | インストラクショナルデザイン指導力育成コース |
| 大阪府立大学 | イノベーション創出型研究者養成：<br>産学連携科目、インターンシップ等を年約 500 人が受講 | アントレプレナーシップ教育指導力育成コース |
| 立教大学 | 産学連携によるリーダーシップ教育：<br>コア・カリキュラムとしてのビジネス・リーダーシップ・プログラム（BLP）等 | リーダーシップ開発力育成コース |

**東北大学の「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」**は、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）を含む教育実践、大学教員準備研修・新任教員研修や大学のリーダー育成のための履修証明プログラム（BP）など、大学教員育成に関する総合的な教育関係共同利用拠点として、海外大学との国際連携を活用して最先端のプログラムを日本に適合するよう内製化する形で開発・実施してきた知見の蓄積を活かし、産学連携によるリベラルアーツ教育を担う実務家教員の育成を目指す。

**熊本大学の「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」**は、企業内教育訓練を含む教育の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザイン（ID）の日本におけるメッカとも言える存在として、米国等における先進的取組と連携しつつ、日本初の e ラーニング専門家養成大学院「教授システム学専攻」を設置・運営してきたオンライン実務家教育の専門性に基づき、学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務家教員の育成に取り組む。

**大阪府立大学の「アントレプレナーシップ教育力育成コース」**は、イノベーション創出型研究者養成カリキュラムとして、多数の企業の協力を得て大学院の正式科目として設置した産学連携科目・インターンシップにおいて、毎年約 500 人もの受講者を輩出してきた実績を活かし、アントレプレナーシップ教育を担う実務家教員を育成していく。

**立教大学の「リーダーシップ開発力育成コース」**は、全国にその名を知られる「ビジネス・リーダーシップ・プログラム（BLP）」等の成果に基づき、チームでのプロジェクト実行等を通してビジネス・リーダーシップを体験的・段階的に身に付けさせるリーダーシップ教育を広く日本の高等教育において展開していく実務家教員の輩出を目指す。

プログラムのキャップストーンとなる**教育イノベーター実践演習科目**は、本プログラムの人材像すなわち「学びと社会をつなぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する教育イノベーター」としての資質・能力を担保する科目として、受講者の成果発表会に産業界から参加を得て産学共同人材育成を実質化するとともに、リフレクションレポートの査読者に他の実施校の教員も加わり、プログラムの一体性・標準性の確保と教育の質保証を図る。

## 2.6 プログラム実施体制の整備

本拠点では、連携各校と協議の上、当初 2021 年度開始の 4 校同時履修証明プログラム開始を一部繰上げ、東北大学、熊本大学の 2 校は 2020 年度から提供を開始した。プログラムの開発・実施を進めるにあたり、2019 年度に続き、各大学にて 2020 年度の体制の整備を行った。

**東北大学**では、プレ FD や大学新任教員研修プログラム等の開発・実施経験のある人材を受講アドバイザーとして委嘱し、プログラム全体及び産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）の受講者支援を行った。具体的には、受講者の学習進捗状況を把握し、非同期型のオンライン学習である基礎力科目については 2 週間に 1 回受講者をサポートするメルマガを熊本大学の受講アドバイザーと協働して作成・配信した。受講者の学習が進むに連れて、質問が基礎的な内容から具体的かつ核心的な内容に発展していったが、受講アドバイザーはこれに対応して回答を行った。さらに、東北大学が担当する汎用的教育実践力科目の一部、専門領域別科目における産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）、教育イノベーター実践演習科目について、科目及び学習項目の内容やルーブリック等を講師と共に開発した。また、これらを受講者ハンドブックとして冊子及びデジタル・ハンドブックに纏めた。

**熊本大学**では、2019 年度に続き、中核拠点における開発を担当する特任教員（特定事業研究員）を 1 名雇用し、中核拠点のコンテンツ開発の進捗状況確認と調整を行うとともに、進捗状況をコンテンツ開発の例会にて報告し、学内にて情報共有をおこなった。また、東北大学に同じく、インストラクショナルデザイン指導力育成コース受講者のための受講者アドバイザーとして、受講者支援を行った。受講者の進捗状況を把握し、例会で共有し、必要に応じ介入策などを検討・実施した。これにより、受講者からの質問にもタイムリーに対応できた。

**大阪府立大学**では、特認助教 1 名を引き続き雇用し、コンテンツ開発のための環境調査、実務家教員へのニーズ把握、教育スキルの涵養等の業務に従事するとともに、2021 年度のコース開講準備作業に従事した。さらに、2021 年 4 月から業務に従事するコーディネーターの公募を行い、新規雇用に向けた調整を行った。

**立教大学**では、助教を雇用することにより、立教大学が提供する専門領域別科目「リーダーシップ開発力育成コース」について、具体的な学習内容、成績評価基準等、科目開発を行った。その他、RA や学生アルバイトを雇用して細かな準備・確認を実施し、2021 年度からのコース提供が可能となった。

## 2.7 プログラム開発

**東北大学と熊本大学**は、2020 年 11 月 1 日より履修証明プログラムを開講した。大学教育基礎力育成科目（15 時間）、汎用的教育実践力科目（ 9 時間）の開発・提供のほか、専門教育実践力育成科目、教育イノベーター実践演習科目（12 時間）の設計を行った。

**大学教育基礎力科目**では、12 学習項目のうち、2019～2020 年度にかけて作成した 10 の学習項目においてテロップ付き動画コンテンツを作成した。**熊本大学**では、大学教育基礎力科目の全体設計及び監修を担当し、また、各学習項目におけるクイズと科目全体の成果を図るレポート課題との設計を行った。学習項目のクイズの開発・作成については、初めに全体方針を決定した後、各学習項目の講師と連携してクイズを作成し、Moodle 上で実装した。その後、講師が作成または熊本大学にて改編した内容に対して改めて講師と確認して、確定とした。同科目では、形成的評

価とそれに伴う改善活動を実施し、科目の品質を高めた。適切な協力者（インストラクショナルデザインなどに関するエキスパート）を選定し、作成した指示書を基に協力者へ評価を依頼した。協力者から得た評価結果を開発チームで分析し、改善策とチーム内の役割分担を定めた。最後に、例会にて改善結果を確認し、不十分であった場合には再度改善を行った。**東北大学**では、主に動画の作成・編集を担当し、熊本大学と協働して各学習項目における各種コンテンツ（動画、スライド、指定された必読文献や関連情報など）を LMS（Moodle）上で編集し、掲載した。また、実装された Moodle の機能や内容確認など、事務局として全体確認を行った。

受講者の学習利便性に配慮した環境整備として、動画コンテンツ（令和元年度作成済）について、日本語テロップを抽出し、Moodle 上のテキストをクリックすることで、動画の該当部分に即時に移動できるシステムを開発・実装した。

**汎用的教育実践力科目**は、3 つの学習項目で構成され、かつ同期での演習となることから、限られた学習時間の中で演習当日の内容が充実するよう、一部の学習項目で動画の事前学習を取り入れて当日に臨むなど、事前・当日・事後の学習内容や時間に配慮して各講師と開発を行った。

2021 年度からコース提供を開始する大阪府立大学及び立教大学では、下記のとおり開発を行った。

**大阪府立大学**では、専門領域別科目「アントレプレナーシップ教育力育成コース」として、大阪府立大学大学院共通教育科目として開講されている「MOT コンサル演習」及び「ベンチャービジネス演習」について、実務家教員育成の視点から、追加すべき要素の検討を行うために、株式会社イノベーターズキャリアと協働し、2021 年度のプログラム開始に科目開発を行った。

**立教大学**では、専門領域別科目「リーダーシップ開発力育成コース」として、2019 年度に行った情報収集や理論設計に基づき、科目開発を行った。受講者広報に用いるため、プログラム内容に基づき、具体的な受講方法、成績評価基準等科目概要の詳細作成を行うと共に、事前学習に用いる動画コンテンツの作成を行った。これにより、2021 年度の本格開講が可能となった。

### 2.8 プログラム実施

2020 年度は、履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」として、「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」（東北大学）及び「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」（熊本大学）の 2 コースを提供した。本プログラムは、年度当初、2020 年 9 月より開始予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、対面型をオンライン型に変更し、2020 年 11 月 1 日より開講した。2020 年度プログラムの内容は「4.1 産学連携教育イノベーター育成プログラム募集要項、他」（p.13）参照。

2020 年度の受講者募集は、2020 年 7 月 1 日～8 月 5 日にかけて募集を行った。第一次審査として書類選考を行った後、第二次審査として、一次審査を通過した応募者全員に対してオンライン面接を実施した。最終的には、2020 年度プログラム提供大学（東北大学・熊本大学）の教員で構成する選考会議を経て、計 56 名が合格した。（内、「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」41 名、「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」15 名。）評価指標である 50 名を上回る受講者を得ることができた。受講者の属性特徴として、年齢は 30～40 代 48%、50 代 43%。職階別は役員 21%、管理職 59%、専門職等 20%。全体のうち、東証一部上場企業所属者は 30%であった。「4.5 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020 受講者属性」（p.86）参照。

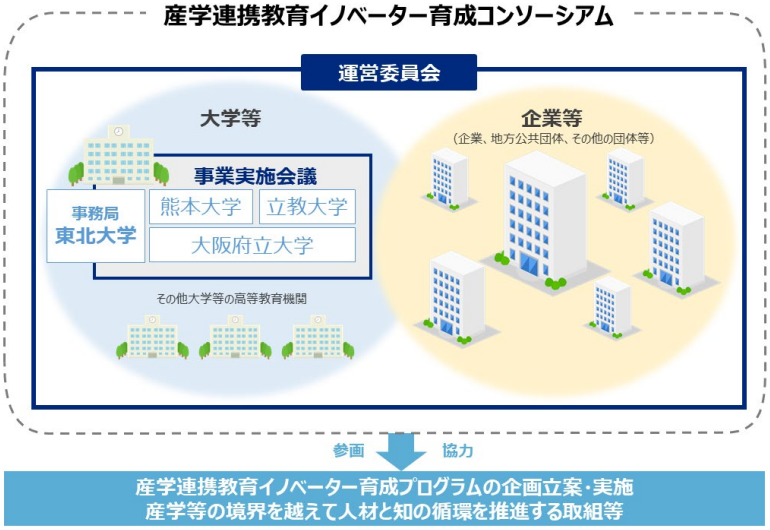
2020 年度は、履修証明プログラム（60 時間）の内、11 月 1 日～1 月末に「大学教育基礎力科目」（15 時間）、2 月上旬に「汎用的教育実践力科目」（9 時間）を提供した。実施後、「大学教育基礎力科目」（2020 年 11 月 1 日～令和 3 年 1 月 31 日実施）と、オンライン同期型・演習型の「汎用的教育実践力科目」（2021 年 2 月 23・27・28 日実施）について、受講者に対して事後アンケートを実施した。その結果、学習の難易度・分量は適切であったこと、自身の業務経験を活用して各課題について考えることができたこと、受講アドバイザーの配置は適切かつ有効であること等が確認できた。「4.6 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020 受講者アンケート」（p.88）参照。

なお、「専門領域別科目」（24 時間）は 2021 年 3 月～5 月、「教育イノベーター実践演習科目」（12 時間）は、2021 年 5 月～6 月にかけて実施する予定である。本プログラムは社会人向けの講座として、受講者は最短 1 年、最長 3 年間在籍が可能な設計としており、最短で 2021 年 7 月に第 1 期生が修了する予定である。

## 2.9 産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム

産学連携により実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現、未来を拓く人材の各界への輩出することを目的に、2020 年 7 月 1 日に「産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム」を設立した。この取組は、本事業において中核拠点に採択された 4 大学が、幅広い企業・団体と連携して全国的コンソーシアムを設立し、多様な業種・職種の実務家を対象に、学びと社会をつなぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する教育イノベーターを人材像とする、実務家教員育成研修プログラムを開発・実施するとともに、産学間で人材と知の循環を推進し、創造と変革を先導する人材の輩出への貢献を図るものである（図表 3 参照）。

**図表 3 コンソーシアム組織イメージ**




会員は、設立時から事業実施大学 4 校、企業 17 社、地方公共団体 4 団体、その他の団体 2 団体、計 27 組織で構成されている。詳細は「4.7 産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム規約」（p.94）参照。

## 3　創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム（運営拠点）

文部科学省の事業全体の運営拠点としての取組「実務家教員育成・活用ナショナルシステム」では、採択された他の 3 中核拠点（各拠点代表校：名古屋市立大学、社会情報大学院大学、舞鶴工業専門高等学校）による研修プログラムを含む全ての研修修了者を対象に、学びの履歴を e ポートフォリオとして蓄積するデータベースとキャリア支援により、大学とのマッチングを図る人材エージェントを構築・運用し、人材と知の循環を推進する。また、事業全体の情報発信のため、ワンストップのポータルサイトを開発・運用する。

東北大学の大学教員育成の専門性と熊本大学のオンライン実務家教育の専門性の最適な組合せにより、人材エージェントほか運営拠点の機能を十全に果たしていく（図表 4 参照）。

**図表 4　運営拠点としての基本コンセプト：実務家教員育成･活用ナショナルシステム**

各中核拠点との連携・取りまとめを実施し、本事業全体のポータルサイトを開発・運用する。このため、他拠点と共に「実務家教員育成・活用全国会議」を定期開催する。

### 3.1　人材エージェント業務

総合的な FD 拠点としての東北大学の知見に基づき、他の中核拠点と本拠点の人材像等から大学教員・実務家教員としての専門知識・能力を抽出・整理してリストアップし、熊本大学において、非同期型遠隔オンライン大学院教育の実施及び種々の学習支援システムの運用に当たって教育専門家と ICT 専門家が日常的に緊密に協働してきた経験を活かして、研修修了者のデータを研修からマッチングへシームレスに接続できる e ポートフォリオとして収集・管理するデータベースを構築する。その際、個々の研修プログラム修了者が実務家教員候補としての強みや特長を示すことができる形で、研修の履修状況・職歴・学歴等の個人情報をデータ化する。

以上を実現するため、既存のシステムを調査し、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）が運営し、既に国内の高等教育機関に広く普及している既存のサービス「researchmap」と「JREC-

IN」を拡張・活用することにより、受講者・修了者データベース及び人材エージェントシステムの一部を実現することとした。具体的には、既存の研究者データベースである「researchmap」を土台として、学習者がプログラム内の学びを e ポートフォリオとして掲載、修了者を一覧表示できる仕組みおよび運用案を作成した。

また、「researchmap」の利用と併せて、既存の研究者人材マッチングサービスである「JREC-IN」への登録を促し、マッチングへつなげるための仕組みおよび運用案を作成した。さらに、中核拠点の研修プログラム受講者に対し、キャリア支援の一環として、「researchmap」および「JREC-IN」を活用して、どのようにキャリアアピールにつなげるのかを学習できる「キャリアサポートに関するオンラインセッション」を、大学教育基礎力科目終了後から汎用的教育実践力科目までの間（2021 年 2 月～3 月）に計 4 回シリーズで提供した。「4.4 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020 キャリアサポート」（p.84）参照。

### 3.2 受講者･修了者データベースシステムを含む人材エージェントシステムの設計･構築

・人材エージェントシステムについて、JST と連携し、高等教育関係者に広く認知されている JST 運用の既存システム「researchmap」及び「JREC-IN」を活用した仕組みづくりに着手した。JST とは、2020 年 11 月 30 日、12 月 18 日、2021 年 2 月 18 日の計 3 回、オンライン打合せを行い、「researchmap」及び「JREC-IN」の機能や活用方法、今後の改善・展開の可能性等について協議を行った。

人材エージェントシステムについて、具体的には、既存の研究者データベースである「researchmap」を土台として、学習者が実務経験や研修プログラムでの学びの成果を e ポートフォリオ化し、「researchmap」に掲載する仕組みを試行的に整備した。これを受け、2021 年 2 月から、「産学連携教育イノベーター育成プログラム」受講生が「researchmap」の利用を試行的に開始し、さらに、既存の研究者人材マッチングサービスである「JREC-IN」への登録も行うなど、求人機関とのマッチングにつなげるための仕組みの整備を進めた。こうした取組を通して、「JREC-IN」とのデータ連携やマッチングシステムの利用方法に関する課題を洗い出すことができた。

受講者・修了者データベースについて、JST と連携し、JST が実施する博士人材キャリア開発事業と本事業による実務家教員向けのデータベースの開発について意見交換を行い、基本コンセプトの策定に着手することができた。

### 3.3 研修プログラムの質保証･標準化

FD・プレ FD の総合的な拠点としての東北大学の知見の蓄積と、企業内教育研修等で活用されるインストラクショナルデザイン（ID）に関する熊本大学の専門性を活かし、研修効果を高め、大学教員としての質保証を図るため、中核拠点間で標準化の取組を推進する。その一環として、本拠点が開発したオンライン研修の他拠点での活用も推奨する。

### 3.4 研修プログラムの講師の養成

本取組の研修プログラムが軌道に乗った段階になると思われる事業 4 年目（2022 年度）に、中核拠点以外の大学等における研修プログラム講師の養成研修を開始する。

### 3.5　実務家教員育成･活用全国会議

2020 年 12 月 15 日に運営拠点及び全国 4 つの中核拠点関係者、並びに文部科学省高等教育局専門教育課担当者等 計 56 名が参加し、「第 1 回 実務家教員育成・活用全国会議」を開催した。2019 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、開催中止を余儀なくされたことから、事業関係者全体が集まる初の場として、各拠点における取組の進捗、研修プログラムの開発・実施状況、研修プログラムにおける課題等を共有し、共通課題を抽出することができた。

本会議の実施を通して、本事業全体として、「実務家教員」の社会的認知を向上させていく必要があることが改めて認識された。受講者の実務経験や研修プログラムにおける学びの成果を見える化し、就職につなげる総合的なシステム構築が必要であることについても共通理解を図ることができた。同会議の内容は、『月刊 先端教育』（2021 年 3 月号, p72-73）に掲載された。

### 3.6　大学改革を担う実務家教員フェア

令和 3 年 3 月 20 日（土祝）にリアルタイム配信にて「大学改革を担う実務家教員フェア 2021（第 2 回)」（兼コンソーシアム講演会）を開催した。

本フェア全体は、文部科学省、一般社団法人 日本経済団体連合会より後援得ることができ、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校（中核拠点 4 つ）が主催して開催した。

第 1 部は、中核拠点の一つである社会情報大学院大学が中心となって設立する日本実務教育学会による『日本実務教育学会設立記念シンポジウム「実務家教員と研究者教員の境界線はどこにあるのか？」』を開催し、大学における研究者教員と実務家教員の役割や今後の展開について 3 名のパネリストと共にディスカッションを行った。

第 2・3 部は、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校が主催した。第 2 部は『大学教員を目指す社会人のための基礎講座』として、大学における実務家教員や社会人学生の役割について、現在、実務家教員として大学で活躍する 4 名による講演とパネルディスカッションを実施した。第 3 部は、『「実務家教員育成プログラム」受講のススメ』として、実務家教員を目指す社会人を対象に、実務家教員育成プログラムの開発や提供を進めてきた中核拠点 4 つの取組に関し、これまでの成果及び今後の予定を紹介した。

本フェアを通して、同様の機会を今後も継続して提供することを求める声が多く寄せられた。また、実務家教員の社会的認知を広げ、その社会的地位の確立を促していく必要性について、参加者から有益な意見を得ることができた。

参加者は 362 名（実人数)、内訳は、第 1 部 282 名、第 2 部 267 名、第 3 部 196 名であった。また、参加者の約半数は産業界等からであり、本事業に関する社会的関心が高いことを確認することができた。全参加者の内、延べ 92 名（回収率 25.3%）よりアンケートの回答を得た。満足度平均は 3.4（4 件法）であった。各部の満足度は、第 1 部 3.5、第 2 部 3.4、第 3 部 3.3 となった。自由記述で「特に役立ちそうと思ったこと」「わかりにくいと思ったこと」について意見を求めた結果、本フェアの意義や改善点が明確になったほか、実務家教員研修プログラムに関するニーズや疑問点等も収集することができた。アンケートにおいて、本フェアを継続すべきとの声が 94%を上回り、継続開催の必要性について確認することができた。「4.9 大学改革を担う実務家教員フェア 2020」（p.99）参照。

## 4　資料

**資料目次**

4.1 産学連携教育イノベーター育成プログラム募集要項、他---------- 13

4.2 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020 ハンドブック---------- 26

4.3 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信---------- 66

4.4 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020 キャリアサポート ---------- 84

4.5 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020 受講者属性---------- 86

4.6 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020 受講者アンケート---------- 88

4.7 産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム規約 ---------- 94

4.8 産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム運営委員会---------- 99

4.9 大学改革を担う実務家教員フェア 2020 ---------- 99

4.10 持続的な産学共同人材育成システム構築事業 HP---------- 103

4.11 事業実施会議及び関係組織打合せ---------- 105

4.12 運営拠点としての関係組織打合せ---------- 106

4.13 広報関係（一部抜粋） ---------- 107

2020 年度 東北大学･熊本大学　履修証明プログラム

# 産学連携教育イノベーター育成プログラム 募集要項

## 1. 目的

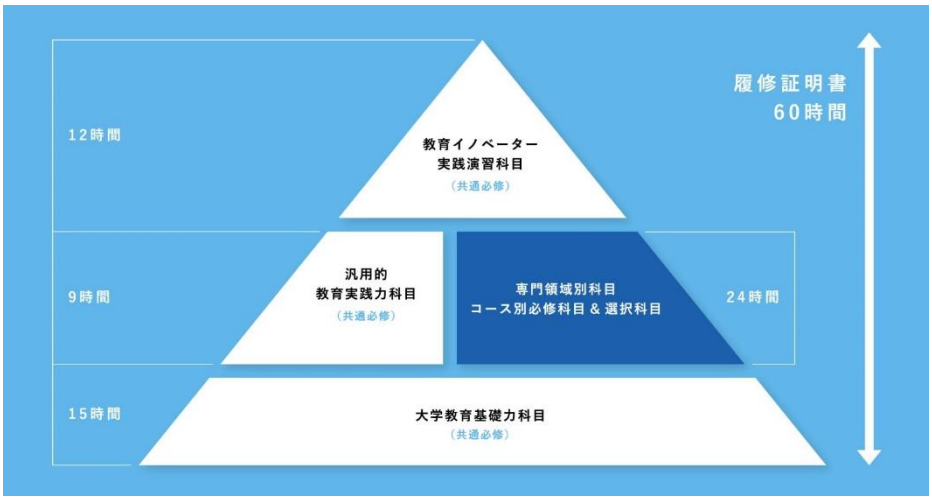
産学の連携により、学生がインターンシップで実社会を経験しながら、社会と結合した大学での学びに注力することが卒業後の活躍につながる社会、リカレント教育など社会人となっても学び続け、チャレンジし続ける時代がようやく到来するか、重大な岐路を迎えています。このような中で教育・雇用一体改革を軌道に乗せることに貢献すべく、学びと社会をつなぐことにより、学生の大学教育への動機付けを高めるとともに、社会人をリカレント教育へ惹き付けることを目指します。

本プログラムでは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。

## 2. プログラム概要：履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」

履修証明プログラムとは、社会人等を対象に大学の教育・研究資源を活かし、一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、プログラム修了者には、学校教育法 105 条に基づき履修証明書（Certificate）が交付されます*1。

「産学連携教育イノベーター育成プログラム」は、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択された「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の取組の一環です。同取組では、実務家教員を育成する研修プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（以下、プログラム）*2 を提供します。




*1：履修証明制度は、教育機関等における学習成果を職業キャリア形成に活かす観点から、現在政府全体で検討・推進している「ジョブ・カード制度」においても、「職業能力証明書（ジョブ・カード・コア）」として位置付けられています。履修証明プログラムを各種資格の取得と結び付けるなど、目的・内容に応じて職能団体や地方公共団体、企業等と連携した取組も期待されています。

*2：2020 年度は東北大学及び熊本大学のみ開講。2021 年度より大阪府立大学「アントレプレナーシップ教育力育成コース」及び立教大学「リーダーシップ開発力育成コース」を開講予定。

プログラムは 4 つの科目で構成されています。その一つである「専門領域別科目」は、次のコースよりいずれかを選択してください。

**東北大学「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」**は、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）を含む教育実践、大学教員準備研修・新任教員研修や大学のリーダー育成のための履修証明プログラム（BP）など、大学教員育成に関する総合的な教育関係共同利用拠点として、海外大学との国際連携を活用して最先端のプログラムを日本に適合するよう内製化する形で開発・実施してきた知見の蓄積を活かし、産学連携によるリベラルアーツ教育を担う実務家教員の育成を目指します。

**熊本大学「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」**は、企業内教育訓練を含む教育の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザイン（ID）の日本におけるメッカとも言える存在として、米国等における先進的取組と連携しつつ、日本初の e ラーニング専門家養成大学院「教授システム学専攻」を設置・運営してきたオンライン実務家教育の専門性に基づき、学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務家教員の育成を目指します。

コースを提供する当該大学にて履修登録されます。修了した際には、履修大学の学長名において履修証明書が発行されます。
（詳細は別紙「産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要」を参照）

## 3. プログラムの達成目標

本プログラムが育成する実務家教員「産学連携教育イノベーター」の人材像に必要な到達目標として、次の 3 つの学習成果の獲得を掲げています。これらの到達目標については、目標ごとに到達度を示すポートフォリオ評価を添えることにより、プログラム全体の学習成果を明示します。

① 大学教員として教育を担うための**基礎的知識・技能・態度を身につける**
② 各コース（東北大学「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」及び熊本大学「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」）に設定する**専門領域（汎用的な専門性）における教育実践力を身につける**
③ 学びと社会を繋ぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する**「教育イノベーター」としての変革力を身につける**

## 4. 応募資格

下記、①②の両方を充たす者。
① 大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
② 原則として専門的技術的又は管理的な職務において 5 年以上の実務経験を有する者

## 5. 定員　50 名（2 コース合計数）

## 6. 費用

① 入学金：なし
② 受講料：300,000 円
審査結果通知書と共に振込依頼書を送付します。指定日（10 月中予定）までに振込を完了させてください。支払われた受講料は、返金いたしません。プログラムを途中で辞退された場合でも同様です。
③ その他：集合研修等（演習や模擬授業等）への参加にかかる旅費・宿泊費等は自己負担とします。

## 7. 応募方法

① 応募期間：2020 年 7 月 1 日（水）～8 月 5 日（水）

② 応募書類：文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」産学連携教育イノベーター育成プログラム　ウェブサイト（https://jitsumuka.jp/innovator/）にて応募書類をダウンロードし、必要事項を記載の上、提出すること。

・申請書

必要事項を入力してください。本人確認のため、写真の貼付は必須です。

・志望理由書（A4 × 2 ページ以内）

以下の(1)～(3)の項目を見出しとして設定し、記述してください。

(1) 受講動機、(2) 現代の大学教育への関心・問題意識、(3) プログラム修了後の抱負

・承諾書（内容の規定なし）※企業などの所属先より派遣される方のみ提出

所属先の了承のもと、当プログラムを受講していることの確認書類として、所属部署の長等の承諾書が必要です。

③ 申請先：産学連携教育イノベーター育成プログラム ウェブサイトより申請すること。

エントリー用 URL：https://jitsumuka.jp/innovator/entry2020/

## 8. 選考方法･日程

選考基準に基づき、一次審査（書類審査）及び二次審査（オンライン面接）による選考を行う。

| | |
|---|---|
| 応募書類締切 | 2020 年 8 月 5 日（水） |
| 一次審査（書類審査）結果通知 | 2020 年 8 月中旬予定（メール通知） |
| 二次審査（オンライン面接） | 2020 年 8 月 24 日（月）～9 月 1 日（火）<br>※オンライン面接の日時は、応募者と調整の上決定 |
| 二次審査結果通知 | 2020 年 9 月中旬～下旬 |
| 受講関連資料送付 | 2020 年 9 月下旬 |

## 9. 2020 年度スケジュール※1

| | |
|---|---|
| 受講開始日 | 2020 年 11 月 1 日（日） |
| 大学教育基礎力科目（オンライン学習） | 2020 年 11 月～2021 年 1 月 |
| 汎用的教育実践力科目・専門領域別科目・教育イノベーター実践演習科目（オンライン学習及び対面演習※2） | 2021 年 2 月～6 月 |
| 修了日 | 2021 年 7 月下旬 |

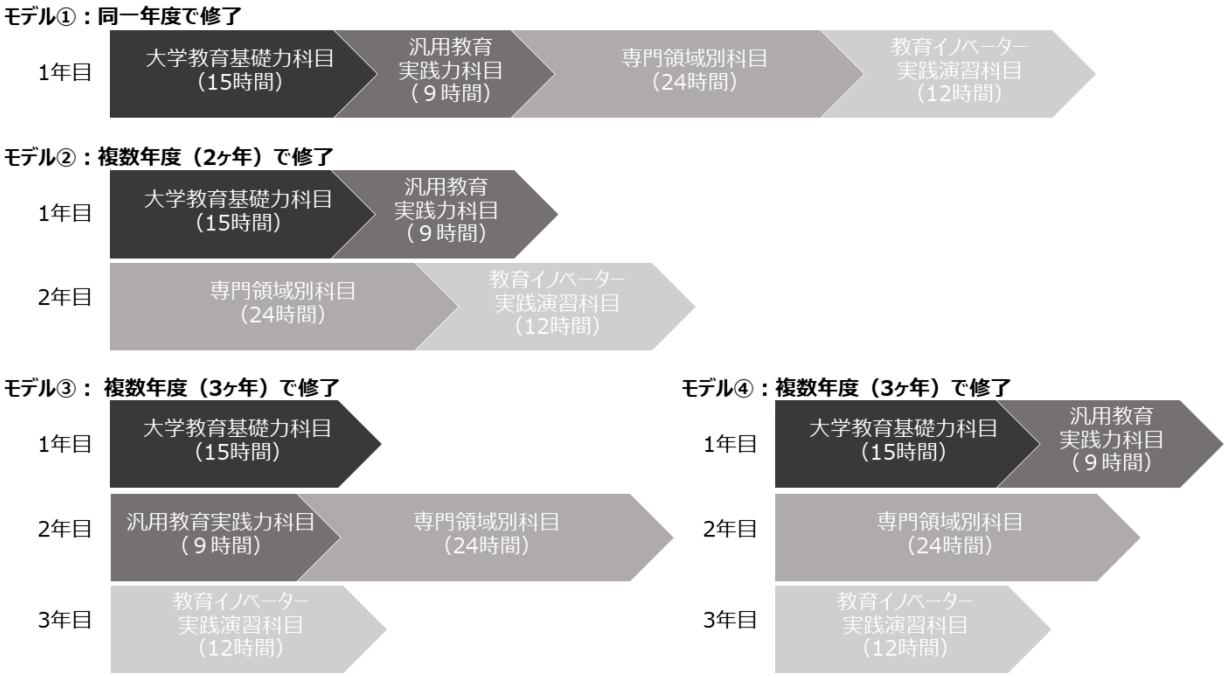
※1：詳細は別紙「産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要」及び「産学連携教育イノベーター育成プログラム 日程表」を参照してください。

※2：新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、日程や実施方法等の変更を行う可能性があります。

## 10. 在籍期間

本プログラムの在籍期間は 3 ヶ年とする。プログラムの受講については、下記モデルを参照。

### 受講モデル（参考）




## 11. 修了要件

① 開講期間内（3 ヶ年以内）に本研修プログラムの 60 時間の課程を履修し、全科目に合格すること。

② 履修大学において、教授会に相当する機関での認定を受けること。

※①②の修了要件を全て満たした場合に、学校教育法第 105 条に基づき履修証明書が授与されます。

**【問い合わせ先】**

産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局
東北大学 高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター（担当：稲田・西村）
〒980-8576 仙台市青葉区川内 41
Tel: 022-795-4471　　Fax: 022-795-4749
Email: innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

2020 年度 東北大学･熊本大学 履修証明プログラム

# 産学連携教育イノベーター育成プログラム 科目概要

## ① 大学教育基礎力科目（15 時間：共通必修）※オンライン

**【目的】**大学で授業を担当するのに必須となる基礎的な知識・技能を修得することを目的とします。
**【学習目標】**大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つとともに、インストラクショナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、教育目標（期待される学習成果）の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的知識・スキルを修得し、それらの応用により、実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行うことを目指します。
**【授業方法】**受講生は、各学習項目に関する Web 上の動画を視聴し（オンライン学習：0.5 時間）、各項目について、Moodle 上で小テストに解答した上で、Moodle 掲示板上で講義内容に関する疑問・考察内容等を投稿するとともに、他受講生の投稿を読み、コメントを行う（Web コメント：0.5 時間）。最後に、本科目で学んだことに関する「大学教育基礎力レポート」の作成に取り組みます（レポート：3.0 時間）。
**【成績評価方法】**全ての学習項目において、小テストで 6 割以上正解すること、Moodle 掲示板へ投稿すること、並びに、他者の投稿にコメントすることを、大学教育基礎力レポートの提出前に充たさなければならない前提条件とします。大学教育基礎力レポートの評価は、100 点満点で、チェックリストによって評価します。同レポートの評価が 60 点以上であれば、本科目は合格とします。

| 学習項目 | | 講　師 | 時間 | 概　要 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 大森 不二雄<br>（東北大学 教授）<br>杉本 和弘<br>（東北大学 教授） | 1.0 | 本プログラムの目的、概要、特徴、進め方等に関する説明及び意見交換を行い、受講のレディネスを高めます。 |
| 2 | 大学教育制度論 | 大森 不二雄<br>（東北大学 教授）<br>杉本 和弘<br>（東北大学 教授） | 1.0 | 大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける 3 つの変化について学びます。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考えます。 |
| 3 | 学生・学習支援論 | 岡田 有司<br>（東京都立大学 准教授）<br>佐藤 智子<br>（東北大学 准教授） | 1.0 | 大学生の抱える心理的・発達的問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学びます。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方を考えます。 |
| 4 | カリキュラムマネジメント | 杉谷 祐美子<br>（青山学院大学 教授） | 1.0 | 大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するための「カリキュラムマネジメント」の考え方や活用方法について学びます。 |
| 5 | インストラクショナルデザイン | 鈴木 克明<br>（熊本大学 教授） | 1.0 | 教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン（ID）」の基礎理論や具体的手法について学びます。 |
| 6 | 授業設計論 | 平岡 斉士<br>（熊本大学 准教授）<br>合田 美子<br>（熊本大学 准教授） | 1.0 | 学習目標、評価方法、教授方法を整合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考えます。 |
| 7 | 教育改善論 | 高橋 哲也<br>（大阪府立大学 副学長）<br>緒方 広明<br>（京都大学 教授） | 1.0 | 大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティチューショナル・リサーチ（IR）」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集･分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス（LA）」について学び、組織的な教育改善のあり方について考えます。 |
| 8 | 大学における倫理 | 山内 保典<br>（東北大学 准教授） | 1.0 | 知の生産・活用に携わるプロフェッショナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ（学術的誠実性）を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学びます。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 学習評価論 | 松下 佳代<br>（京都大学 教授） | 1.0 | 「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学びます。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考えます。 |
| 10 | オンライン授業実践論 | 根岸 千悠<br>（大阪大学 特任助教）<br>浦田 悠<br>（大阪大学 特任講師）<br>佐藤 浩章<br>（大阪大学 准教授）<br>村上 正行<br>（大阪大学 教授） | 1.0 | オンライン授業は、対面授業とどう違うのでしょうか。オンライン授業やｅラーニングに役立つツール・手法を用いた実践事例を紹介しつつ、オンライン授業の実践時に配慮すべき 10 のポイントについて学びます。 |
| 11 | ICT 等先端技術活用教育論 | 戸田 真志<br>（熊本大学 教授）<br>松葉 龍一<br>（熊本大学 准教授）<br>喜多 敏博<br>（熊本大学 教授）<br>甲斐 晶子<br>（熊本大学 非常勤講師） | 1.0 | ICT 等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場において SNS アプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学んでいきます。 |
| 12 | 実務家教員論 | 松井 利之<br>（大阪府立大学 教授）<br>広瀬 正<br>（大阪府立大学 特認教授） | 1.0 | 実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学びます。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考えます。 |
| 大学教育基礎力レポート | | | 3.0 | 12 の学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出します。 |

## ②汎用的教育実践力科目（9 時間：共通必修）※演習

**【目的】**大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得することを目的とします。
**【学習目標】**インストラクショナルデザイン、シラバス作成、研究指導について、集合・対面型のワークショップを通して、実際の教育現場で活用・応用できるようになることを目指します。
**【授業方法】**受講生は、各学習項目に関するワークショップに参加し（3.0 時間）、ワークを通して 1～3 の学習項目ごとに成果物（授業計画やシラバス等）を完成させます。
**【成績評価方法】**各学習項目（各演習）受講後の成果物について、到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。汎用的教育実践力科目を全体として合格するには、3 つの学習項目の全てを合格する必要があります。

| 学習項目 | | 講　　師 | 時間 | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | インストラクショナルデザイン演習 | 鈴木 克明<br>（熊本大学 教授）<br>平岡 斉士<br>（熊本大学 准教授）<br>合田 美子<br>（熊本大学 准教授） | 3.0 | 大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、授業や教育プログラムの設計方法についてワークショップ形式で実践的に学びます。 |
| 2 | シラバス作成演習 | 串本 剛<br>（東北大学 准教授） | 3.0 | 教育目標・学習活動・学習成果の把握を構造化しながら、1 学期・15 回分の授業設計をいかに行うのか。実際のシラバス作成を通してワークショップ形式で学びます。 |
| 3 | 研究指導演習 | 出江 紳一<br>（東北大学 教授）<br>倉重 知也<br>（㈱イグニタス 代表取締役） | 3.0 | 教員が学生に考えるヒントを与え、動機づけ、励まし、対話を行いながら、課題遂行を促す「コーチング」技術を用いた研究指導について、ワークショップ形式で学びます。 |

## ③専門領域別科目（選択必修 24 時間：いずれか１コースを選択）※オンライン･演習

### 産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学提供コース）

**【目的】**大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた 21 世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようになることを目的とします。

**【学習目標】**リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを広く学んだ上で、近年注目を集める STEM 教育及び産学連携教育、並びに、大学教育の質保証に関する国際的な最新動向について学びます。その後、アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーや PBL 型授業を設計し、実際に学生を相手に授業を行うことを通して、実践的な授業マネジメント力の修得を目指します。

**【授業方法】**１）受講生は、1～8 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：各 30 分～1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 2.0～2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。２）9・10 の各学習項目については、講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなど指導を受け（5 時間）、授業設計（4 時間）を行った上で、模擬授業（振り返りを含む）を実施します（3 時間）。学習項目 9・10 の学習時間はそれぞれ 12 時間となります。

**【履修方法】**１）学習項目 1～8 から少なくとも 4 項目を選択して学習します。そのうち 1～4 から 2 項目以上を選択（選択必修）、1～8 から残り 2 項目以上選択することができます。２）学習項目 9・10 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。

**【成績評価方法】**学習項目 1～8 については、4 項目の小レポートについて到達度をルーブリックで評価します。また、学習項目 9・10 については、それぞれの成果物（模擬授業を含む）について到達度をルーブリックで評価します。各学習項目を 100 点満点で採点し、60 点以上で当該項目を合格とします。専門領域別科目を全体として合格するには、上記の履修方法に従い、学習項目 1～8 のうち少なくとも 4 項目、学習項目 9・10 のうち少なくとも 1 項目、それぞれ合格する必要があります。

| 学習項目 | | 講　　師 | 時間 | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | リベラルアーツ教育論 | 吉田 文<br>（早稲田大学 教授） | 3.0 | リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育 （教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。<br>**※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」（動画視聴）** |
| 2 | STEM・文理融合教育論 | 山田 礼子<br>（同志社大学 教授） | 3.0 | 米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策と STEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。<br>**※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」（動画視聴，英語による講演・日本語字幕）** |
| 3 | 産学連携教育論 | 吉本 圭一<br>（九州大学 名誉教授） | 3.0 | 国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。<br>**※e-learning「産学連携教育の国際動向―学術と職業を往還する WIL―」（動画視聴）** |
| 4 | 教育質保証論 | 深堀 總子<br>（九州大学 教授） | 3.0 | 2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。<br>**※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（動画視聴）** |
| 5 | 基盤的 ID 論 | 鈴木 克明<br>（熊本大学 教授） | 3.0 | ID の基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。**※e-learning** |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6 | 教材設計演習 | 平岡 斉士<br>（熊本大学 准教授） | 3.0 | 自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。**※e-learning** |
| 7 | 動機づけ理論活用演習 | 都竹 茂樹<br>（熊本大学 教授） | 3.0 | 多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。**※e-learning** |
| 8 | e ポートフォリオ導入演習 | 松葉 龍一<br>（熊本大学 准教授）<br>久保田 真一郎<br>（熊本大学 准教授） | 3.0 | 受講者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について習得します。<br>**※e-learning** |
| 9 | リベラルアーツ・セミナー実践演習 | 大森 不二雄<br>（東北大学 教授）<br>杉本 和弘<br>（東北大学 教授）<br>宇野 健司<br>（㈱大和総研 調査本部副部長） | 12.0 | 受講者が主体となって、アクティブラーニングによるセミナー型リベラルアーツ教育の授業を設計し、実際に模擬授業を行うことを通して、教育実践力を高めます。 |
| 10 | PBL 設計・運営演習 | 松岡 洋佑<br>（㈱イノベスト 代表取締役/名古屋大学 招聘教員）<br>菱山 諒<br>（㈱イノベスト 取締役/ 一橋大学 非常勤講師） | 12.0 | 受講者が主体となって、企業等の実課題に取り組む PBL 型授業を設計・運営し、相互フィードバックを通して、教育実践力を高めます。 |

## インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学提供コース）

**【目的】**大学の授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善するためのスキル修得、並びに、改善された設計を実践するための教育環境構築のためのスキルの修得を目的とします。

**【学習目標】**

・ 学習者が生涯にわたって活用できるスキル習得を目指した授業設計ができる。
・ 学習目標と評価情報と教授方法の整合性を満たした授業設計ができる。
・ 授業を効果的・効率的・魅力的にするための授業設計の改善案を提示できる。
・ 授業を効果的・効率的・魅力的にするために各種テクノロジを用いた学習環境を構築できる。

**【授業方法】**受講生は、各学習項目に関する Web のコンテンツを閲覧し、Web 上で指示されるタスク・課題に取り組みます。他の学習者との相互コメントを通じて、自己のスキル習得の練習と実践を行います。

1）受講生は、1～8 の学習項目については、Web 上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧し（オンライン学習：各 30 分～1 時間）、Web 上で指示される小レポートの作成その他の課題に取り組みます（事後学習：各 2.0～2.5 時間）。各学習項目の学習時間は 3 時間となります。2）9・10 の各学習項目については、講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなど指導を受け（5 時間）、授業設計（4 時間）を行った上で、模擬授業（振り返りを含む）を実施します（3 時間）。学習項目 9・10 の学習時間はそれぞれ 12 時間となります。

**【履修方法】**1）学習項目 1～8 から少なくとも 4 項目を選択して学習します。そのうち 1～4 から 2 項目以上を選択（選択必修）、1～8 から残り 2 項目以上選択することができます。2）学習項目 9・10 のいずれか少なくとも 1 項目を選択して学習します（選択必修）。

**【成績評価方法】**各学習項目に用意された 3～5 程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。すべての課題の合格基準を満たすことで合格とします。

| 学習項目 | | 講　　師 | 時間 | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 基盤的 ID 論 | 鈴木 克明<br>（熊本大学 教授） | 3.0 | ID の基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。**※e-learning** |
| 2 | 教材設計演習 | 平岡 斉士<br>（熊本大学 准教授） | 3.0 | 自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。**※e-learning** |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 動機づけ理論活用演習 | 都竹 茂樹<br>（熊本大学 教授） | 3.0 | 多様な事例に対して ARCS モデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。**※e-learning** |
| 4 | e ポートフォリオ導入演習 | 松葉 龍一<br>（熊本大学 准教授）<br>久保田 真一郎<br>（熊本大学 准教授） | 3.0 | 受講者自身の e ポートフォリオを構成することで、e ポートフォリオの設計や運用について習得します。<br>**※e-learning** |
| 5 | リベラルアーツ教育論 | 吉田 文<br>（早稲田大学 教授） | 3.0 | リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育 （教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。<br>**※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」（動画視聴）** |
| 6 | STEM・文理融合教育論 | 山田 礼子<br>（同志社大学 教授） | 3.0 | 米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策と STEM 教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。<br>**※e-learning「STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際 STEM プログラム」（動画視聴，英語による講演・日本語字幕）** |
| 7 | 産学連携教育論 | 吉本 圭一<br>（九州大学 名誉教授） | 3.0 | 国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。<br>**※e-learning「産学連携教育の国際動向―学術と職業を往還する WIL―」（動画視聴）** |
| 8 | 教育質保証論 | 深堀 總子<br>（九州大学 教授） | 3.0 | 2000 年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。<br>**※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（動画視聴）** |
| 9 | 大人の学びへと誘う教育改善演習 | 鈴木 克明<br>（熊本大学 教授）<br>喜多 敏博<br>（熊本大学 教授）<br>平岡 斉士<br>（熊本大学 准教授）<br>合田美子<br>（熊本大学 准教授）<br>長岡千香子<br>（熊本大学 研究員） | 12.0 | 学習目標、評価方法、授業方法の高度化・拡張のためのアイデアを提示し、それを用いた授業改善計画を提案する練習をします。 |
| 10 | 既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習 | 戸田真志<br>（熊本大学 教授）<br>平岡 斉士<br>（熊本大学 准教授）<br>長岡千香子<br>（熊本大学 研究員） | 12.0 | 既存のツールやサービスを活用した学習環境を構築の例を参考にして、学習者自身の授業設計を各種ツールやサービスで実現します。 |

## ④教育イノベーター実践演習科目（12 時間：共通必修）

**【目的】**これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになることを目的とします。
**【学習目標】**実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した新規の取組案（授業、カリキュラム、プロジェクトの案等）の発表・討論を行うとともに、リフレクションレポートを作成することを通じ、本プログラム全体の学びと成長を振り返ることを目指します。
**【授業方法】**受講生が自ら構想した新規の取組案について、①事前準備（5.0 時間）、②対面指導（1.0 時間）、③成果発表会（3.0 時間）、④振り返り・講評（1.0 時間）を行った上で、⑤リフレクションレポート（2.0 時間）を作成・提出します（計 12.0 時間）。
**【成績評価方法】**成果発表会での発表内容を含むリフレクションレポートについて、到達度をルーブリックで評価します。100 点満点で採点し、60 点以上で合格とします。

| 学習項目 | | 講　　師 | 時間 | 概　　要 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | キャップストーン・プロジェクト | 大森 不二雄<br>（東北大学 教授）<br>杉本 和弘<br>（東北大学 教授）<br>鈴木 克明<br>（熊本大学 教授）<br>戸田 真志<br>（熊本大学 教授） | 12.0 | 受講生が自ら構想した新規取組案について、①事前準備、②対面指導、③成果発表会、④振り返り・講評を行った上で、⑤リフレクションレポートを作成・提出します。プログラムを通して修得した知識とスキルの統合と振り返りを行うことを通して「教育イノベーター」としての総まとめを行います。 |

2020 年度 東北大学・熊本大学 履修証明プログラム

# 産学連携教育イノベーター育成プログラム 日程表

| 科目 | 実施日（期間） | 時間帯 | | 学習項目 | 実施方法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大学教育基礎力科目 | 2020 年 11 月 1 日（日） | 午後 | 1 | オリエンテーション | オンライン（同期） |
| | 2020 年 11 月 1 日（日）<br>～2021 年 1 月 31 日（日） | | 2 | 大学教育制度論 | オンライン（非同期） |
| | | | 3 | 学生・学習支援論 | |
| | | | 4 | カリキュラムマネジメント | |
| | | | 5 | インストラクショナルデザイン | |
| | | | 6 | 授業設計論 | |
| | | | 7 | 教育改善論 | |
| | | | 8 | 大学における倫理 | |
| | | | 9 | 学習評価論 | |
| | | | 10 | オンライン授業実践論 | |
| | | | 11 | ICT 等先端技術活用教育論 | |
| | | | 12 | 実務家教員論 | |
| | | | | 大学教育基礎力レポート | レポート |
| 汎用的教育実践力科目 | 2021 年 2 月 6 日（土） | 午後 | 1 | インストラクショナルデザイン演習 | オンライン（同期） |
| | 2021 年 2 月 20 日（土） | 午後 | 2 | シラバス作成演習 | |
| | 2021 年2 月 23 日（火祝） | 午後 | 3 | 研究指導演習 | |
| 専門領域別科目（産学連携リベラルアーツ教育力育成コース） | 2021 年 3 月 1 日（月）<br>～4 月 30 日（金） | | 1 | リベラルアーツ教育論 | オンライン（非同期） |
| | | | 2 | STEM・文理融合教育論 | |
| | | | 3 | 産学連携教育論 | |
| | | | 4 | 教育質保証論 | |
| | | | 5 | 基盤的 ID 論 | |
| | | | 6 | 教材設計演習 | |
| | | | 7 | 動機づけ理論活用演習 | |
| | | | 8 | e ポートフォリオ導入演習 | |
| | 2021 年 5 月 8 日（土）<br>～9 日（日）※2 日間 | 終日 | 9 | リベラルアーツ・セミナー実践演習 | 対面（東京：予定）<br>&<br>他地域とオンライン<br>（同期） |
| | 2021 年 5 月 15 日（土）<br>～16 日（日）※2 日間 | 終日 | 10 | PBL 設計・運営演習 | |
| 専門領域別科目（インストラクショナルデザイン指導力育成コース） | 2021 年 3 月 1 日（月）<br>～4 月 30 日（金） | | 1 | 基盤的 ID 論 | オンライン<br>（非同期） |
| | | | 2 | 教材設計演習 | |
| | | | 3 | 動機づけ理論活用演習 | |
| | | | 4 | e ポートフォリオ導入演習 | |
| | | | 5 | リベラルアーツ教育論 | |
| | | | 6 | STEM・文理融合教育論 | |
| | | | 7 | 産学連携教育論 | |
| | | | 8 | 教育質保証論 | |
| | 調整中 | | 9 | 大人の学びへと誘う教育改善演習 | 対面（東京：予定）<br>&<br>他地域とオンライン<br>（同期） |
| | 調整中 | | 10 | 既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習 | |
| 教育イノベーター実践演習科目 | 2021 年 6 月 12 日（土）<br>～13 日（日）※2 日間 | 終日 | | キャップストーン・プロジェクト | 対面（東京：予定）<br>&<br>他地域とオンライン<br>（同期） |

※新型コロナウイルス感染症の影響にかんがみ、実施方法や日程・会場の変更を行う可能性があります。

**【対面を実施する場合の会場（予定）】**

① 東京：23 区内の会場
② 仙台：東北大学 川内北キャンパス（宮城県仙台市青葉区川内 41）
③ 熊本：熊本大学 黒髪キャンパス（熊本市中央区黒髪 2-39-1）

大学を変える、日本を変える
ガラパゴス化した人材育成を変革する
教育イノベーターへ

文部科学省
「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」

## 実務家教員育成研修プログラム

# 産学連携
# 教育イノベーター
# 育成プログラム

## 2020年11月開講 受講者募集

── 問い合わせ(E-mail)
innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

── 応募・詳細　下記ホームページまたはQRコードよりご応募ください
https://jitsumuka.jp/innovator/

提供 | 事業名称「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」
産学連携教育イノベーター育成プログラム実施校(東北大学・熊本大学・大阪府立大学・立教大学)

# 大学教育イノベーションを先導する実務家教員を育成します

産学連携教育イノベーター育成プログラムは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。

## Q.産学連携教育イノベーターとは？

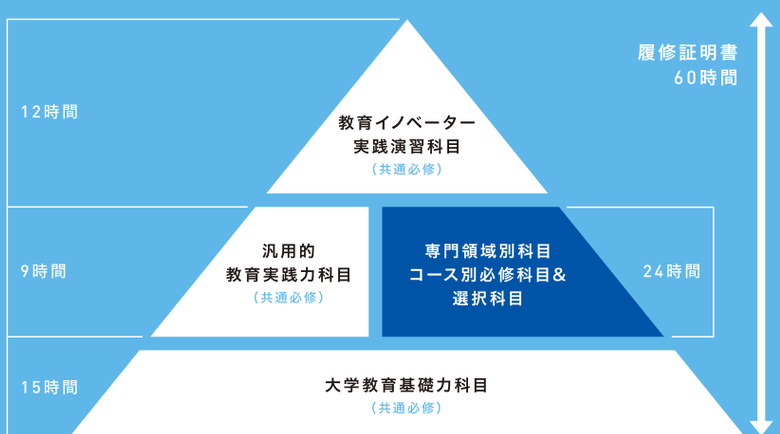
## A.産業界の知見と教育実践力を併せ持つ、ハイブリッド人材

| 実務経験を学習可能な知に転換し、<br>プロの教育力（教え方＝学ばせ方）を獲得 | 学びと社会をつないで学生の心に火を点け、<br>社会人の学び直しにも貢献 |
|---|---|

**ガラパゴス化した人材育成を変革し、日本を元気にする主役 ＝ 産学連携教育イノベーター**

## プログラムの科目構成と履修構造

インストラクショナルデザイン（ID）による研修設計




「専門領域別科目」は、次の2コースよりいずれかを選択します

**1 東北大学**

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース**

産学連携によるリベラルアーツ教育やプロジェクト型学習を担う実務家教員を育成

**2 熊本大学**

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース**

学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務家教員を育成

※2020年度は東北大学・熊本大学の2コースを提供。大阪府立大学・立教大学の提供コースは2021年度から提供予定です。

## プログラムの特徴

**社会人の学びやすさ**

いつでもどこでも学べるオンライン研修、実践的な演習や模擬授業等は土日に開講するなど社会人も受講しやすいプログラム設計

**ニーズに合わせた在籍期間**

自身の環境や状況に応じて、プログラムの在籍期間（上限３ヶ年）を選択することが可能

**多彩な講師陣**

大学という「現場」を知る多彩な講師陣が教育に関する知識・スキルを教示

**履修証明プログラム**

体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラム。修了者には学校教育法105条に基づき履修証明書を交付

## 2020年度開講案内

＼ 仙台・熊本のほか、東京でも開講 ／

開講期間：2020年11月1日（日）～ ／ 定員：50名 ／ 受講料：30万円 ／ 応募期間：2020年7月1日（水）～8月5日（水）

| 応募資格 | 次の①②の両方を充たす者 | ①大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者<br>②原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する者 |
|---|---|---|

応 募 方 法 ： 産学連携教育イノベーター育成プログラム ホームページ（https://jitsumuka.jp/innovator/）またはQRコードよりご応募ください

問い合わせ ：〈E-mail〉 innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp

産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター）

# 産学連携教育イノベーター育成プログラム2020

ハンドブック

v2021.4.2

## 【本ハンドブックの活用方法】

このハンドブックには、履修証明プログラム**「産学連携教育イノベーター育成プログラム」**（2020年度）のセミナー日程、学習内容、課題の締切、注意事項など、プログラムを受講するために必要な情報を記載しています。

本プログラムについて知りたいこと、確認したいことが生じた場合には、メールで問い合わせる前に、以下を参考に本ハンドブックの記載事項を確認してください。

### プログラムについて確認したい


■このプログラムの目的は？ ☞P.4
■履修証明プログラムとは？ ☞P.6
■履修の期間は？ ☞P.7
■長期履修したいときには？ ☞P.7
■修了要件は？ ☞P.8
■全体の日程表は？ ☞P.33〜


### 受講にまつわるサポートについて確認したい


■問い合わせ先は？ ☞P.2
■欠席する場合は？ ☞P.2
■学習システムの使い方は？ ☞P.36
■Moodleの使い方は？ ☞P.36
■リフレクション/振り返りって何？ ☞P.38
■大学教育に関する文献をもっと知りたい ☞P.39
■大学の授業についてもっと知りたい ☞P.39


### 各項目について確認したい


■授業の実施方法は？
☞P.9〜の各学習項目のページへ
■学習にかかる時間は？
☞P.9〜の各学習項目のページへ
■提出課題の内容は？
☞P.9〜の各学習項目のページへ
■課題の締切はいつ？
☞P.9〜の各学習項目のページへ
☞P.33〜の日程表のページへ
■課題の評価方法は？
☞P.9〜の各学習項目のページへ
■選択科目の履修方法は？ ☞P.20,25
■最終課題の内容は？ ☞P.30

## 【各種問い合わせ先】

履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」の**各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡、及びキャリア 関連**についてのお問い合わせは、**各コース担当者**へご連絡ください。

### 産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

**クラスA（責任教員）**
**大森 不二雄**（Fujio Ohmori）
東北大学 高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター長、教授

**クラスB（責任教員）**
**杉本 和弘**（Kazuhiro Sugimoto）
東北大学 高度教養教育・学生支援機構
教育評価分析センター長、教授

**クラスA・B共通（受講アドバイザー）**
**今野 文子**（Fumiko Konno）
東北大学 高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター 専門研究員
**連絡先：inv.pro@grp.tohoku.ac.jp**

### インストラクショナルデザイン指導力育成コース

**クラスC（責任教員）**
**鈴木 克明**（Katsuaki Suzuki）
熊本大学 教授システム学研究センター
センター長、教授
連絡先：ksuzuki@kumamoto-u.ac.jp

**クラスC（受講アドバイザー）**
**張　暁紅**（Xiaohong Zhang）
熊本大学 教授システム学研究センター
特定事業研究員
**連絡先：inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp**

その他のお問い合わせについては、下記プログラム事務局までご連絡ください。

### 産学連携教育イノベーター育成プログラム事務局

**Email: inv.pro@grp.tohoku.ac.jp**
**TEL: 022-795-4471　FAX: 022-795-4749**
東北大学高度教養教育・学生支援機構　大学教育支援センター（CPD）
（担当：稲田・塚部）
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内41
東北大学 川内北キャンパス 川北合同研究棟 2階 201

# Contents

**1．産学連携教育イノベーター育成プログラムの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・4**

1－1　目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
1－2　プログラムの構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
1－3　コースの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
1－4　身に付ける能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
1－5　履修証明プログラムとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
1－6　プログラムの提供方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
1－7　受講モデルと受講期間の延長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
1－8　修了要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

**2．各科目の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9**

2－1　①大学教育基礎力科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
2－2　②汎用的教育実践力科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
2－3　③専門領域別科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
2－4　④教育イノベーター実践演習科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

**3．プログラムの日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33**

**4．学習システムへのログイン方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36**

**5．学習のための参考情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38**

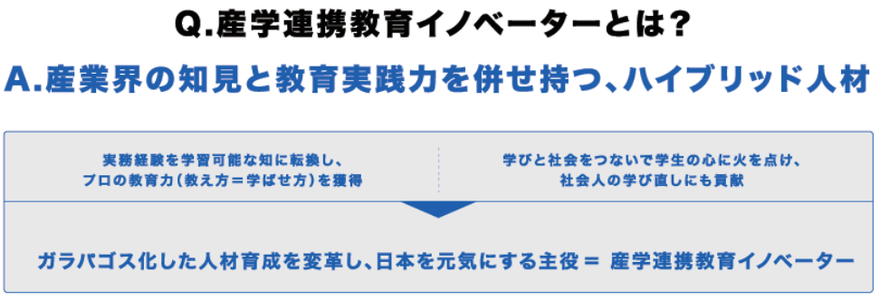
5－1　リフレクション・振り返りとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
5－2　参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
5－3　メールマガジン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

# 1 産学連携教育イノベーター育成プログラムの概要

**「産学連携教育イノベーター育成プログラム」**は、文部科学省**「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」**に採択された**「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」**の取組の一環です。同取組では、実務家教員を育成する研修プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」（以下、プログラム）を提供します。

## 1-1　目的

本プログラムでは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う**実務家教員を育成**することを目的としています。




本プログラムで育成する実務家教員の人材像は、**「学びと社会をつなぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する教育イノベーター」**です。それは、学びと社会をつなぎ学生の大学教育への動機付けを高め、社会人をリカレント教育へ惹き付けることができる**教育者**、そして、実務経験に基づいた実践知と、これに関連する理論・方法論など普遍的な学術知とをブリッジし、両者の対話・循環による相乗効果を目指す**先導者**を意図しています。さらに、国際連携により海外の先進的知見を採り入れつつ、教員・講師が話すことよりも学生・受講者が学ぶことに焦点を置いて学習活動を効果的に促進し、学習成果の獲得・向上を実現する教育をデザインし実践できる**変革者**を目指します。

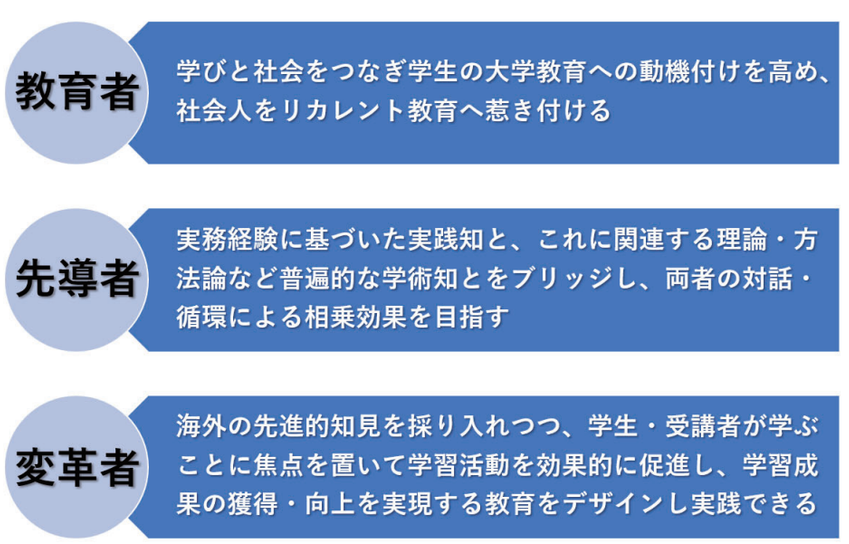



図.　育成する人材像

## 1-2　プログラムの構成

本プログラムは4つの科目で構成されています。

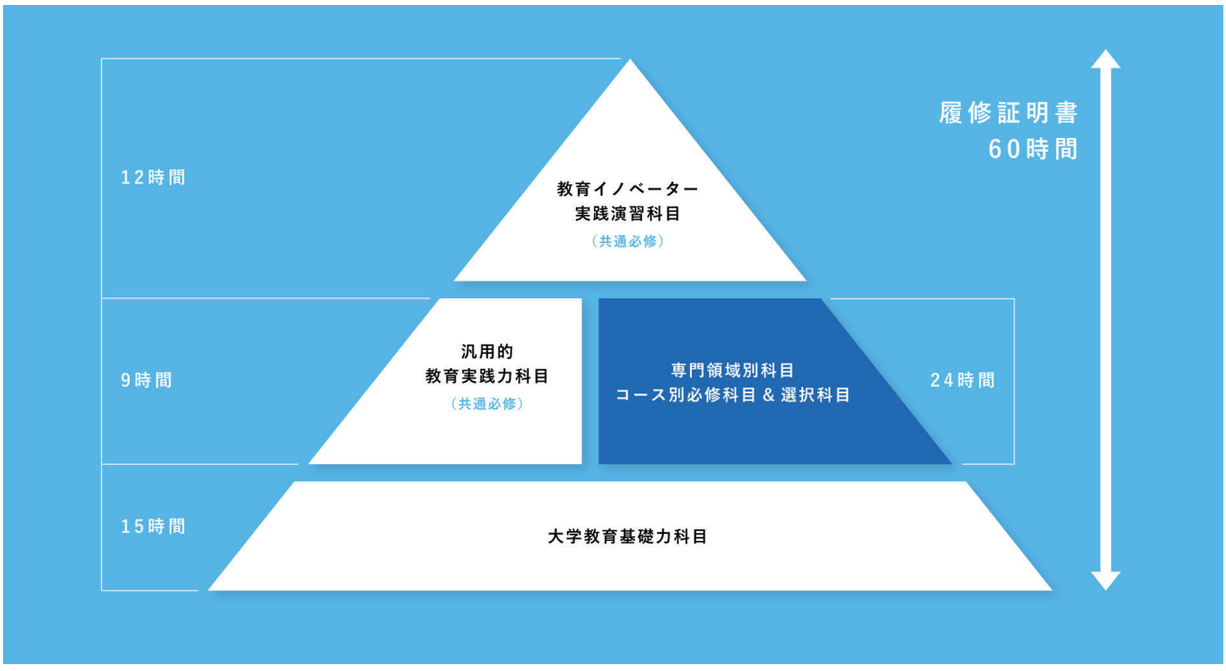



図.　産学連携教育イノベーター育成プログラムの構成

まず、大学教員としての教育基礎力（基礎的知識・スキル・態度）をオンライン研修で共通に学ぶ**「大学教育基礎力科目」（15時間）**を履修したうえで、教育方法のスキルを演習形式で学ぶ**「汎用的教育実践力科目」（9時間）**、汎用的専門性獲得のための**「専門領域別科目」（24時間）**を履修します。これらの履修をベースに、教育イノベーターとして活躍していくための資質・能力を確保するための**「教育イノベーター実践演習科目」（12時間）**を履修します。

計60時間のプログラムを修了した際には、「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」（東北大学提供）は東北大学総長名にて、「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」（熊本大学提供）は熊本大学教授システム学研究センター長名にて**履修証明書が発行**されます。

## 1-3　コースの概要

プログラムを構成する科目のうち、**専門領域別科目**として、2020年度は**「産学連携リベラルアーツ教育力育成コース」**（東北大学提供）と**「インストラクショナルデザイン指導力育成コース」**（熊本大学提供）を開講します。

受講者はコースを提供する当該大学にて履修登録されます。

表.　専門領域別科目の概要

| | |
|---|---|
| **【東北大学】<br>産学連携リベラルアーツ教育力育成コース** | アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーやPBL（プロジェクト・ベースト・ラーニング）を含む教育実践、大学教員準備研修・新任教員研修や大学のリーダー育成のための履修証明プログラム（BP）など、大学教員育成に関する総合的な教育関係共同利用拠点として、海外大学との国際連携を活用して最先端のプログラムを日本に適合するよう内製化する形で開発・実施してきた知見の蓄積を活かし、**産学連携によるリベラルアーツ教育を担う実務家教員**を育成します。 |
| **【熊本大学】<br>インストラクショナルデザイン指導力育成コース** | 企業内教育訓練を含む教育の効果・効率・魅力を高めるインストラクショナルデザイン（ID）の日本におけるメッカとも言える存在として、米国等における先進的取組と連携しつつ、日本初のｅラーニング専門家養成大学院「教授システム学専攻」を設置・運営してきたオンライン実務家教育の専門性に基づき、**学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を産学に普及できる実務家教員**を育成します。 |

## 1-4　身に付ける能力

本プログラムが育成する実務家教員「産学連携教育イノベーター」の人材像に必要なスキル・能力として、次の3つの学習成果の獲得を掲げています。目標ごとに到達度を示すポートフォリオ評価を添えることにより、プログラム全体の学習成果を明示します。

① 大学教員として教育を担うための**基礎的知識・技能・態度を身につける**
② コース毎に設定する専門領域（汎用的な専門性）における**教育実践力を身につける**
③ 学びと社会を繋ぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する**「教育イノベーター」としての変革力を身につける**

## 1-5　履修プログラムとは

本プログラムは、学校教育法に基づく**「履修証明プログラム」**です。履修証明プログラムとは、社会人等を対象に大学の教育・研究資源を活かし、一定の教育計画の下に編成された体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムで、プログラム修了者には、学校教育法105条に基づき**履修証明書（Certificate）が交付されます。**

履修証明制度は、教育機関等における学習成果を職業キャリア形成に活かす観点から、現在政府全体で検討・推進している「ジョブ・カード制度」においても、「職業能力証明書（ジョブ・カード・コア）」として位置付けられています。履修証明プログラムを各種資格の取得と結び付けるなど、目的・内容に応じて職能団体や地方公共団体、企業等と連携した取組も期待されています。

## 11-6　プログラムの提供方法

本プログラムの**提供方法は学習項目ごとに異なります**。本ハンドブックの「２．各科目の内容（p.9）」およびメールやWeb上で提供される最新の状況を参照し、確認してください。

本プログラムでは、**Moodleと呼ばれるe-learningプラットフォームを活用**します。Moodleの使い方については「4. 学習システムへのログイン方法（p.36）」を参照してください。

本プログラムで予定している研修の提供方法は次の通りです。

- **オンライン（同期型e-learning）**：実施日程が設定されており、当該時間帯にアクセスして受講
- **オンライン（非同期型e-learning）**：日時を問わず、期間内に自由にアクセスして受講
- **対面・集合型**：実施日程と会場が設定されており、実際に指定の場所に集って受講
- **個人・グループコンサル型**：実施日程が設定されており、当該時間帯にアクセスして受講

上記のうち、**オンライン（同期型）**におけるアクセス先（zoom等URL）の詳細は、適宜担当者から連絡します。また、**対面・集合型で実施が予定されている研修の会場**（予定）は以下の通りです。

①**東京**：23区内の会場
②**仙台**：東北大学 川内北キャンパス（宮城県仙台市青葉区川内41）
③**熊本**：熊本大学 黒髪キャンパス（熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1）

## 1-7　受講モデルと受講期間の延長

本プログラムの**受講生としての在籍期間は最長で3ヶ年**（2023年2月まで）です。複数年度にまたがる受講については次の図に示すモデルを参考にしてください。

2カ年で修了する場合には、例えば、1年目に「大学教育基礎力科目」と「汎用的教育実践力科目」を受講し、2年目に「専門領域別科目」と「教育イノベーター実践演習科目」を受講します。

3カ年で修了する場合には、例えば、1年目に「大学教育基礎力科目」を受講し、1年目もしくは2年目に「汎用的教育実践力科目」、2年目に「専門領域別科目」を受講し、3年目に「教育イノベーター実践演習科目」を受講します。また、この場合、1年目の「大学教育基礎力科目」は2021年1月（受講開始から3ヶ月間以内）に受講を修了させる必要はなく、同一年度内における期間の延長が可能です。

なお、本プログラムでは、図内の**モデル①「同一年度で修了」を基本**とし、**受講期間の延長を希望する場合には、その必要が明らかになった時点で各コース受講アドバイザーへメールをし、長期履修と希望の申出**を行ってください。

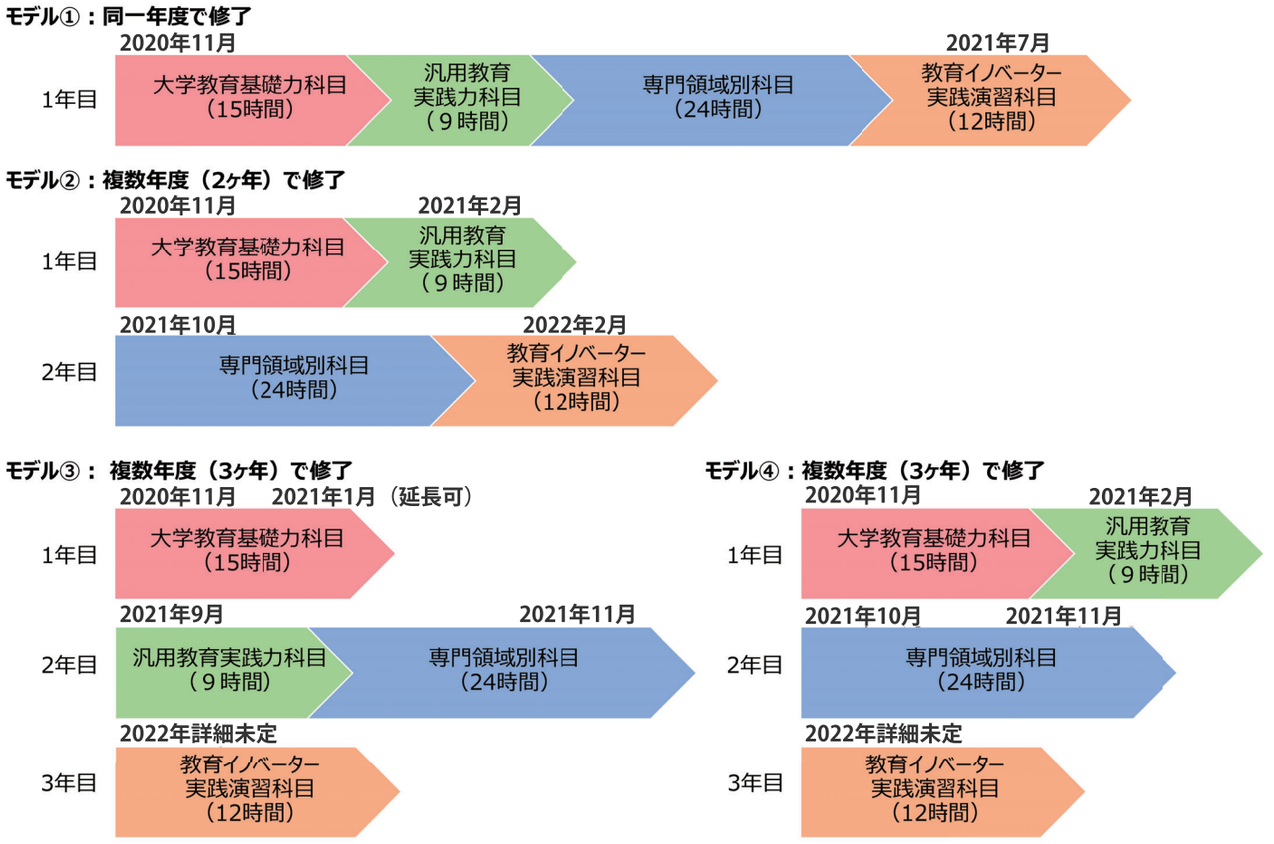



図.　受講モデル（参考）

## 1-8　修了要件

本プログラムの修了要件は下記のとおりです。

① 開講期間内（3ヶ年以内：2023年2月まで）に本プログラムの**60時間の課程を履修し、全科目に合格**すること。
② 履修大学において、**教授会に相当する機関での認定**を受けること。

# 2 各科目の内容

本章では、本プログラムの各科目の詳細について説明します。

表．産学連携教育イノベーター育成プログラムの各科目の概要

| | | |
|---|---|---|
| **①大学基礎教育科目** | | |
| <br>**オンライン（非同期／同期）** | **共通必修 15時間** | 大学で授業を担当する際に必須となる基礎的な知識・技能を修得する |
| **②汎用的教育実践力科目** | | |
| <br>**オンライン（同期）** | **共通必修 9時間** | 大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得する |
| **③専門領域別科目** | | |
| <br>**項目により異なる**<br>**※要確認！** | **選択必修 24時間** | **産学連携リベラルアーツ教育力育成コース**：大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた21世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようになる<br>**インストラクショナルデザイン指導力育成コース**：大学の授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善するためのスキル修得、並びに、改善された設計を実践するための教育環境構築のためのスキルを修得する |
| **④教育イノベーター実践演習科目** | | |
| <br>**対面／オンライン（同期）** | **共通必修 12時間** | これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになる |

**e-learning**

本科目は Moodle を利用した
非同期型 e-learning で実施します

※オリエンテーションは同期型 e-learning により実施します

【受講の流れ】

**動画の視聴、必読文献を読む**

**Moodle 上でクイズに回答**

**掲示板に疑問・考察を投稿**

**他受講生の投稿にコメント**

**大学教育基礎力レポートを作成**

# ①大学教育基礎力科目

## 共通必修15時間

### 目的

大学で授業を担当する際に必須となる**基礎的な知識・技能を修得**する。

### 学習目標

**大学教育の動向や大学教員の役割・責務・倫理について正確な認識を持つ**とともに、インストラクショナルデザインやカリキュラムデザイン等の観点から、**教育目標（期待される学習成果）の設定、学習評価、教育内容、教育方法、教材作成等に関する基礎的知識・スキルを修得**し、それらの応用により、**実務経験の体系化・構造化とその学問的知識との関連付けを行う**ことを目指す。

**授業方法**：オリエンテーション終了後、**気になった学習項目から学習**を始めること

①各学習項目に関する**Web上の動画を視聴**
②各学習項目の**必読文献**を読む（学習項目10を除く）
③各学習項目についてMoodle上で**クイズ**に解答
④Moodle掲示板上で各学習項目に関する**疑問・考察内容等を投稿**
⑤Moodle掲示板上で各学習項目に関する他受講生の投稿を読み、**コメント**
⑥全学習項目について①～⑤の学習終了後に**「大学教育基礎力レポート」**を作成

**学習所要時間**：各学習項目**1時間**＋レポート**3時間**

| | |
|---|---|
| 講義動画視聴 | 0.5時間 |
| 必読文献を読む／クイズ／掲示板への投稿・コメント | 0.5時間 |
| 「大学教育基礎力レポート」の作成 | 3.0時間 |

### 成績評価方法

**全ての学習項目**において、下記の条件を満たすこと。
①**クイズで6割以上正解**すること
②Moodle**掲示板への投稿**を実施すること
③**他者の投稿にコメント**すること
上記を**大学教育基礎力レポートの提出前に充たさなければならない前提条件**とする。大学教育基礎力レポートの評価は**チェックリスト**（p.14参照）によって評価する（100点満点）。同レポートの評価が**60点以上**で本科目は合格とする。

## 1　オリエンテーション（1.0 時間）

**2020 年 11 月 1 日（日）13:30〜15:45**（13:30〜14:30 は必須、14:45〜15:45 は任意参加）

課題やクイズ等については、オリエンテーション時に説明

本プログラムの目的、概要、特徴、進め方等に関する説明及び意見交換を行い、受講のレディネスを高めます。

※オンライン（同期型：zoom）で実施。詳細は別途連絡。

## 2　大学教育制度論（1.0 時間）

**2020 年 11 月 1 日（日）〜2021 年 1 月 31 日（日）**【提出締切】2021 年 1 月 31 日（日）23:59

大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける3つの変化について学びます。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考えます。

## 3　学生・学習支援論（1.0 時間）

**2020 年 11 月 1 日（日）〜2021 年 1 月 31 日（日）**【提出締切】2021 年 1 月 31 日（日）23:59

大学生の抱える心理的・発達的問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学びます。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方を考えます。

## 4　カリキュラムマネジメント（1.0 時間）

**2020 年 11 月 1 日（日）〜2021 年 1 月 31 日（日）**【提出締切】2021 年 1 月 31 日（日）23:59

大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するための「カリキュラムマネジメント」の考え方や活用方法について学びます。

## 5　インストラクショナルデザイン（1.0 時間）

**2020年11月1日（日）～2021年1月31日（日）**　【提出締切】2021年1月31日（日）23:59

鈴木 克明
（熊本大学 教授）

教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン（ID）」の基礎理論や具体的手法について学びます。

## 6　授業設計論（1.0 時間）

**2020年11月1日（日）～2021年1月31日（日）**　【提出締切】2021年1月31日（日）23:59

平岡 斉士
（熊本大学 准教授）

合田 美子
（熊本大学 准教授）

学習目標、評価方法、教授方法を整合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考えます。

## 7　教育改善論（1.0 時間）

**2020年11月1日（日）～2021年1月31日（日）**　【提出締切】2021年1月31日（日）23:59

高橋 哲也
（大阪府立大学副学長）

緒方 広明
（京都大学 教授）

大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティチューショナル・リサーチ（IR）」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集・分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス（LA）」について学び、組織的な教育改善のあり方について考えます。

## 8　大学における倫理（1.0 時間）

**2020年11月1日（日）～2021年1月31日（日）**　【提出締切】2021年1月31日（日）23:59

山内 保典
（東北大学 准教授）

知の生産・活用に携わるプロフェッショナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ（学術的誠実性）を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学びます。

## 9　学習評価論（1.0 時間）

**2020年11月1日（日）～2021年1月31日（日）**　【提出締切】2021年1月31日（日）23:59

松下 佳代
（京都大学 教授）

「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学びます。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考えます。

## 10 オンライン授業実践論（1.0 時間）

**2020年11月1日（日）～2021年1月31日（日）** 【提出締切】2021年1月31日（日）23:59

根岸 千悠
（大阪大学 特任助教）

浦田 悠
（大阪大学 特任講師）

佐藤 浩章
（大阪大学 准教授）

村上 正行
（大阪大学 教授）

オンライン授業は、対面授業とどう違うのでしょうか。オンライン授業やeラーニングに役立つツール・手法を用いた実践事例を紹介しつつ、オンライン授業の実践時に配慮すべき10のポイントについて学びます。
※必読文献なし

## 11 ICT 等先端技術活用教育論（1.0 時間）

**2020年11月1日（日）～2021年1月31日（日）** 【提出締切】2021年1月31日（日）23:59

戸田 真志
（熊本大学 教授）

松葉 龍一
（熊本大学 准教授）

喜多 敏博
（熊本大学 教授）

甲斐 晶子
（熊本大学 非常勤講師）

ICT等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場においてSNSアプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学んでいきます。

## 12 実務家教員論（1.0 時間）

**2020年11月1日（日）～2021年1月31日（日）** 【提出締切】2021年1月31日（日）23:59

松井 利之
（大阪府立大学 教授）

広瀬　正
（大阪府立大学 特認教授）

実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学びます。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考えます。

## ★ 大学教育基礎力レポート（3.0 時間）

11の学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出します。

**【レポート課題】大学教育基礎力科目での学びを今後の教育実践にどう活かしていくか、論じてください。**

その際、この科目で学んだ11の学習項目（オリエンテーション以外）のうち、任意の3項目を選択して、当該項目の学習から得たもの及び当該項目の学習で生じた疑問点について調べたことを述べた上で、総合的に考察してください。

**1項目で述べること：**
**①学習項目を受講して得たこと**
**②疑問点と疑問について調べたこと**

また、選択した学習項目ごとに項を立てて述べた上で、最後に総合考察の項を立てて述べる構成、すなわち4つの項からなる構成とすること。

**【提出方法】**
Moodle上で提出する。
ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか

**【提出締切】2021年1月31日（日）23:59**

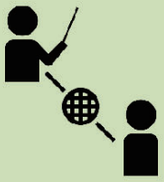
**【チェックリストと配点】**
レポートは下記のチェックリストにより評価する。60点以上を合格とする。

| | | 配点 |
|---|---|---|
| 項目 1 | 学習項目を受講して得たことが書かれている | 10 |
| | 疑問点と疑問点について調べたことが書かれている | 10 |
| 項目 2 | 学習項目を受講して得たことが書かれている | 10 |
| | 疑問点と疑問点について調べたことが書かれている | 10 |
| 項目 3 | 学習項目を受講して得たことが書かれている | 10 |
| | 疑問点と疑問点について調べたことが書かれている | 10 |
| 総合 | ３つの項目から学んだことをどのように実践に活かすか | 20 |
| | 主張の明確さ、論理的な構成 | 20 |
| | 合計 | 100 |

〔注〕点数は各ポイントの最大の点数であり、各ポイントを０点～10点または20点で評価する。言及してある学習項目が３つに満たないものや総合的考察が書かれていない答案は合計点数が高くても合格とはしない。誤字・脱字や語彙・引用の問題等も、減点対象となる。

**オンライン・ワークショップ**

本科目は同期型の e-learning
で実施します



【受講の流れ】

**ワークショップに参加**

**成果物を完成させる**

# ②汎用的教育実践力科目

## 共通必修9時間

### 目的

大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な**実践的な知識・スキルを修得**する。

### 学習目標

**インストラクショナルデザイン、シラバス作成、研究指導**について、ワークショップ（演習）を通して、**実際の教育現場で活用・応用できるようになる**ことを目指す。

### 授業方法

①各学習項目に関する**ワークショップ（演習）に参加**
②各学習項目で課される**成果物**を完成させる

### 学習所要時間：各3時間

| | 事前学習 | 演習 | 事後学習 |
|---|---|---|---|
| 1. 研究指導演習 | 0.5時間 | 2.0時間 | 0.5時間 |
| 2.インストラクショナルデザイン演習 | 0.0時間 | 3.0時間 | 0.0時間 |
| 3. シラバス作成演習 | 0.0時間 | 3.0時間 | 0.0時間 |

### 成績評価方法

各学習項目（各演習）受講後の成果物について、**到達度をルーブリックで評価**する。各学習項目を100点満点で採点し、**60点以上**で当該項目を合格とする。汎用的教育実践力科目を全体として合格するには、**3つの学習項目の全てに合格する必要**がある。

## 1　研究指導演習（3.0 時間）

**2021 年 2 月 23 日（火祝） 13:30〜16:40**（13:30〜15:30 は必須、15:30〜16:40 は任意参加）

出江 紳一
（東北大学教授）

倉重 知也
（㈱イグニタス 代表取締役）

教員が学生に考えるヒントを与え、動機づけ、励まし、対話を行いながら、課題遂行を促す「コーチング」技術を用いた研究指導について、ワークショップ形式で学びます。

**※受講に際して事前・事後学習が設定されています。**

### 事前学習

事前にMoodle上で「コーチング技能を活用した院生指導」に関する講義動画（30分程度）を視聴してください。動画コンテンツは2月1日午後にMoodle上で公開します。

### 演習後のグループコーチングセッションと振り返り（任意参加）

演習（2時間）後に、さらに学びを深めたい方向けに「グループコーチングセッション（45分間）と振り返り（15分間）」（計1時間）を予定しています。任意参加の内容ですが、セッション開始後の途中退室はご遠慮ください。

### 提出する成果物：

**【趣旨】**
本演習の成果は「コーチングを学んで現場の教育をどうしたか」「学生をどれだけ成長させることができたか」であると考えます。それらを念頭に置き、事前学習、および演習を行いながら学んだこと、記録に残しておきたいこと等をまとめた**「自分だけのコーチングノート」を作成**してください。各自、事前にコーチングの関連することをまとめる専用の「ノート」（媒体は問わない）を用意してください。また、事後学習（30分を想定）として演習の時間内に作成したノートを自分なりにまとめなおし、それをもとに**今後の教育方針を記述**したものを成果物として提出してください。

**【提出方法と締切】**
Moodle上で提出する。
ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか

**【提出締切】2021年3月8日（月）23:59**

**【成果物の評価に用いるルーブリック（チェックリスト）】**

| チェック項目 | 配点*3 |
|---|---|
| ① コーチとしてのスタンスを理解していることが記述内容から読み取れる | 0〜20点 |
| ② コーチングの３原則*1を理解していることが記述内容から読み取れる | 0〜20点 |
| ③ コーチングフロー*2について説明がなされている | 0〜20点 |
| ④ 上記に基づいて、今後の教育方針について検討し、論述されている | 0〜20点 |
| ⑤ 「自分だけのコーチングノート」としての創意工夫がなされている | 0〜20点 |
| 合計 | 0〜100点 |

*1　双方向、個別対応、継続
*2　アイスブレーク, 目標の明確化, 現状の明確化, ギャップの明確化, 行動計画, フォロー
*3　①〜③は自らの実践体験が書かれていれば20点、知識の記載のみの場合は12点、記載がなければ0点。実践体験は演習中の実習体験を含む。④と⑤は、記載されていれば20点、記載がなければ0点。

## 2　インストラクショナルデザイン演習（3.0 時間）

**2021 年 2 月 27 日（土） 13:30〜16:30**

鈴木 克明
（熊本大学 教授）

平岡 斉士
（熊本大学 准教授）

合田 美子
（熊本大学 准教授）

大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、授業や教育プログラムの設計方法についてワークショップ形式で実践的に学びます。
※受講に際して事前・事後学習の設定はありません。

### 提出する成果物：最終レポート

**【趣旨】**最終レポートは「インストラクショナルデザイン演習」での内容を振り返り、そこで学んだことをまとめて自身の授業改善に生かすアクションプラン（行動計画）としてまとめるものです。最終レポートには学んだことが反映され、かつ、次の実践に役立つ内容が盛り込まれているかどうかをチェックするために、以下の合格基準・ルーブリックで評価します。

**【提出方法と締切】**

Moodle上で提出する。

ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか

**【提出締切】2021年3月8日（月）23:59**

**【合格基準】**

| 1）自分自身が担当する科目の設計案の分析が、「授業設計の点検ワークシート」の全項目を網羅した形で述べられていること。 | | | |
|---|---|---|---|
| | Excellent | OK | NG |
| （1）科目名 | 2 | 1 | 0 |
| （2）誰に何を教えようとしているか（受講者数・同科目他担当教員の有無の想定を含む） | 2 | 1 | 0 |
| （3）それは何故か（前提・後続科目の有無の想定を含む） | 4 | 2 | 0 |
| （4）どうやって教えるか（授業ルーチン含む）<br>※授業ルーチン＝毎回の授業でやること、決まりごと | 5 | 3 | 0 |
| （5）その教え方をするのは何故か（講義をしない可能性とその理由も） | 5 | 3 | 0 |
| （6）単位取得の要件は何か（最終試験をしない可能性の検討と、結論を下した理由も） | 5 | 3 | 0 |
| （7）それは科目の目標と合致しているか（合致していると判断した理由も） | 5 | 3 | 0 |
| （8）設計を変えないい点は何か（ワークショップ当日に考えたこと：(10) と同じでなくて良い） | 5 | 3 | 0 |
| （9）設計を変えたい点は何か（ワークショップ当日に考えたこと：(11) と同じでなくて良い） | 5 | 3 | 0 |
| 2）1）で扱った科目の設計案について、行動計画（アクションプラン）が以下の全項目を含んだ形で述べられていること。 | | | |
| | Excellent | OK | NG |
| (10) 設計を変えないこと（2つ以上）とそれぞれの理由<br>（ワークショップで学んだことが反映されていることを期待する） | 20 | 12 | 0 |
| (11) 設計を変えようと思うこと（2つ以上）とそれぞれの理由<br>（ワークショップで学んだことが反映されていることを期待する） | 20 | 12 | 0 |
| (12) ワークショップ省察：収穫だと思ったこと3つ<br>（内容は不問、自己の優先順位によるトップ3を書くこと） | 10 | 6 | 0 |
| (13) 改訂前後のシラバス（案）<br>（添付がなくても不合格にはならないが添付を推奨する） | 6 | 4 | - |
| (14) その他、レポートをまとめる上で必要だと判断した事項についての説明や資料（任意） | 6 | 4 | - |
| 合計 | 100 | 60 | 0 |
| ※ただし、NG があるものは 60 点以上であっても不合格（＝再提出要求） | | | |

注記：レポートには、採点・添削者の便宜を図ることに協力する意味で、上記の（1）〜（12）の通し番号を付けた見出しを使用してください。また、（11）について、変更する事項が全くない場合（たとえば、最初の授業設計案が完璧であることが判明した場合など）には、（10）と（11）の合計が4つ以上になることを合格の要件とします。ただし、理由が記述されていない事項は、数に入れないので注意してください。

## 3　シラバス作成演習（3.0 時間）

**2021 年 2 月 28 日（日） 13:30〜16:30**

串本 剛
（東北大学 准教授）

説得力あるシラバスを作るためには、授業の目標・活動・評価を構造化することが欠かせません。本演習では、オリジナルのワークシートを使いながら、構造的な授業設計のコンセプトを学びます。

※受講に際して事前・事後学習の設定はありません。

**提出する成果物：授業デザインワークシート**（ワークショップ内で配布）

**【趣旨】**シラバス作成の前提として，授業の目標，成績評価方法，授業の内容を構造化した授業設計を行う

**【提出方法と締切】**
Moodle上で提出する。
ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか

**【提出締切】2021年3月8日（月）23:59**

**【成果物の評価に用いるルーブリック（チェックリスト）】**

| |
|---|
| 1. 授業の目標［25 点満点］：基礎点 10＋満たしている要件×5 |
| ・ 単位修得の目安となる学修成果が記述されている<br>・ 幅広い目標の領域が考慮されている<br>・ 教育課程の目的に照らして目標の妥当性が検証されている |
| 2. 成績評価方法［25 点満点］：基礎点 10＋満たしている要件×5 |
| ・ 目標に適した課題を設定している<br>・ 採点基準の事前提示を含んだ計画となっている<br>・ 学生へのフィードバックを含んだ計画となっている |
| 3. 授業の内容［25 点満点］：基礎点 10＋満たしている要件×5 |
| ・ 教室内外の学修活動で構成できている<br>・ 能動的学習が取り入れられている<br>・ 想定学修時間の合計が、単位数に見合っている |
| 4. 構造化［25 点満点］：基礎点 10＋満たしている要件×5 |
| ・ 配点と配分率の差が、10 ポイント以上開いている目標がない<br>・ 配点と配分率の差が、5 ポイント以上開いている目標がない<br>・ 配点と配分率の差の合計が、5 ポイント未満である |

**e-learning／対面**

本科目の実施形態は
学習項目により異なります

※e-learning（非同期）または対面・集合型およびそのオンライン配信が予定されています

【受講の流れ】

**＜学習項目 1～8＞**

**動画等の視聴・閲覧**

**小レポートの作成等の課題**

**＜学習項目 9･10＞**

**講師の授業の受講等の指導**

**授業の設計**

**模擬授業の実施と振り返り**

# ③専門領域別科目
# 産学連携リベラルアーツ教育力育成コース
## （東北大学提供コース）

## 選択必修24時間

### 目的

大学と産業界が緊密に連携することで、**質保証がなされた21世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できる**ようになる。

### 学習目標

**リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセス**を広く学んだ上で、近年注目を集める**STEM教育**及び**産学連携教育**、並びに、**大学教育の質保証に関する国際的な最新動向**について学ぶ。その後、**アクティブラーニングによるリベラルアーツ・セミナーやPBL型授業を設計**し、実際に学生を相手に授業を行うことを通して、**実践的な授業マネジメント力の修得**を目指す。

### 授業方法

**【学習項目1～8】**

①各学習項目に関する**Web上の動画その他のコンテンツを視聴・閲覧**
②Web上で指示される**小レポートの作成その他の課題**に取組む

**【学習項目9・10】**

①講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなどの**指導を受ける**
②自身の**授業を設計**する
③**模擬授業**を実施し、その**振り返り**を行う

### 学習所要時間

| **学習項目1～8：各3.0時間** | |
|---|---|
| ・オンライン学習：Web上の動画等の視聴・閲覧 | 0.5～1.0時間 |
| ・事後学習：小レポート／その他の課題 | 2.0～2.5時間 |
| **学習項目9・10：各12.0時間** | |
| ・講師の授業の受講等の指導 | 5.0時間 |
| ・授業設計 | 4.0時間 |
| ・模擬授業の実施と振り返り | 3.0時間 |

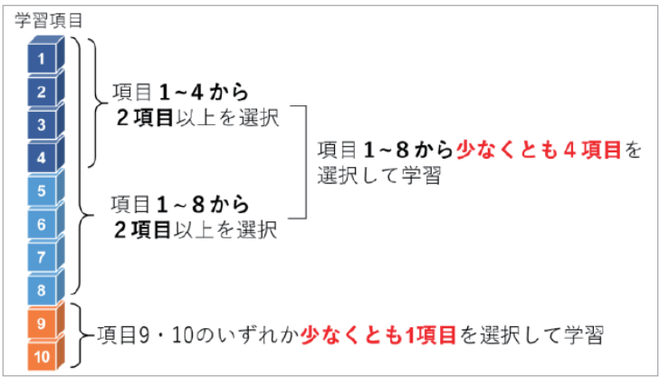
### 成績評価方法

学習項目1～8は**小レポート**、学習項目9・10は**成果物**（模擬授業含む）の到達度を**ルーブリックで評価**し、100点満点中**60点以上を合格**とする。専門領域別科目を全体として合格するには学習項目1～8の少なくとも4項目、学習項目9・10のうち少なくとも1項目にそれぞれ合格する必要がある。

【履修方法】

③学習項目1～8から少なくとも4項目を選択して学習します。そのうち1～4から2項目以上を選択（選択必修）、1～8から残り2項目以上選択することができます。

④学習項目9・10のいずれか少なくとも1項目を選択して学習します（選択必修）。




## 1　リベラルアーツ教育論（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金）【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

吉田 文
（早稲田大学 教授）

リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。※**e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」（動画視聴）**

## 2　STEM・文理融合教育論（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金）【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

山田 礼子
（同志社大学 教授）

米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策とSTEM教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。※**e-learning「STEM高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際STEMプログラム」（動画視聴，英語による講演・日本語字幕）**

## 3　産学連携教育論（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金）【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

吉本 圭一
（九州大学 名誉教授）

国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。
※**e-learning「産学連携教育の国際動向―学術と職業を往還するWIL―」（動画視聴）**

## 4　教育質保証論（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金）　【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

深堀 總子
（九州大学 教授）

2000年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。※**e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（動画視聴）**

## 5　基盤的 ID 論（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金）　【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

鈴木 克明
（熊本大学 教授）

IDの基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。
※**e-learning**

## 6　教材設計演習（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金）　【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

平岡 斉士
（熊本大学 准教授）

自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。
※**e-learning**

## 7　動機づけ理論活用演習（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金）　【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

都竹 茂樹
（熊本大学 教授）

多様な事例に対してARCSモデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。
※**e-learning**

## 8　e ポートフォリオ導入演習（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金）　【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

松葉 龍一
（熊本大学 准教授）

久保田 真一郎
（熊本大学 准教授）

受講者自身のeポートフォリオを構成することで、eポートフォリオの設計や運用について習得します。
※**e-learning**

## 9　リベラルアーツ・セミナー実践演習（12.0 時間）

**2021年5月8日（土）～9日（日）　※自身のセッションが含まれるどちらか一日に出席**

受講者が主体となって、アクティブラーニングによるセミナー型リベラルアーツ教育の授業を設計し、実際に模擬授業を行うことを通して、教育実践力を高めます

### 演習の概要

【定員】20名程度
【本演習に関する事前インストラクション】
　**実施日：2021年4月10日（土）13:00～15:00予定**
演習の実施に先駆けて、本演習の流れと取組み内容に関する説明をオンラインセッションで行います。**参加は任意。後日の動画視聴も可能**です。

① **授業参観：講師らによる授業を事前に2件参観する**（学習時間：5時間）
- 参観に際し、予習を行う（2件の授業で合計 1 時間程度）
- 研究者教員と実務家教員の授業を参観する（学習時間：3時間）
- 参観修了後、希望者に対しQ&Aセッションを行う（任意参加）
- 参観授業についてリフレクションする（リフレクティブジャーナルの執筆）（学習時間：1時間）

**【提出物】リフレクティブジャーナル（A4x1枚程度、様式指定なし）**
**【提出方法】Moodle上で提出する（ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか）**
**【提出締切】2021年5月7日（金）**

② **模擬授業を設計する**（学習時間：4時間）
- 学習目標、評価方法、予習課題、授業法、授業中の学習活動、必要な教材の作成などの設計を行う
- 必要に応じて講師からの助言を得る
- 1時間程度の学習時間を想定して設計した予習課題を事前に提出する

**【提出物】**◦**模擬授業プラン（様式あり）**
　◦**予習課題（A4x1枚程度、様式指定なし）**
**【提出方法】Moodle上で提出する（ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか）**
**【提出締切】2021年4月30日（金）**

③ **模擬授業を実施する**（学習時間：3時間）
- 模擬授業を実施する（20分間）
- ディスカッションとリフレクションを実施する（10分）
- 自分の同じセッション他受講生の模擬授業を参観する

**【提出物】**◦**ピアレビューフィードバックシート（様式あり）**
**【提出方法】Moodle上で提出する（ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか）**
**【提出締切】2021年5月17日（月）**

### 評価方法

模擬授業等をルーブリックにより評価します。
ルーブリックを含む評価の詳細は、演習実施前に受講生に周知します。

## 10　PBL 設計・運営演習（12.0 時間）

**2021年5月15日（土）～16日（日）終日　※2日間**

受講者が主体となって、企業等の実課題に取り組むPBL型授業を設計・運営し、相互フィードバックを通して、教育実践力を高めます。

### 演習の概要

① **講師による授業を事前に2件参観する**（学習時間：4時間）※参観対象授業一覧参照

・参観に際し、予習を行う（2件の授業で合計1時間程度）
・実務家教員（松岡）の授業を参観する（学習時間：3時間）
・参観修了後、希望者に対しQ&Aセッションを行う（任意参加）

**【提出物】参観感想シート（様式あり）**
**【提出方法】Moodle上で提出する、ファイル形式：MSWord**
**【提出締切】2021年5月14日（金）**

② **Day1 (5/15)：講義を受け、模擬授業を設計する**（学習時間：5時間）

・講義（同期・双方向型オンラインで実施、3時間）において、学習目標、評価方法、課題、PBL提示課題設定、授業法、授業中の学修活動、必要な教材の作成、企業連携の方法、企業人参加形式などの設計について学ぶ
・必要に応じて講師からの助言を得る
・講義後、自己学習として模擬授業を設計する（2時間）

**【提出物】模擬授業案（様式あり）**
**【提出方法】Moodle上で提出する**
**ファイル形式：Excel, PowerPoint**
**【提出締切】2021年5月15日（土）23:59**

③ **Day2 (5/16)：模擬授業を実施する**（学習時間：3時間）

・模擬授業を実施する（一人10分、学習者役として学生5名程度、企業人役として企業人２名程度が参加）
・相互フィードバックを実施する（一人5分）
・自身の授業の開園計画とアクションプランシート（様式あり）を作成する

**【提出物】授業改善計画とアクションプランシート（様式あり）**
**【提出方法】Moodle上で提出する、ファイル形式：MSWord**
**【提出締切】2021年5月24日（月）23:59**

### 評価方法

模擬授業等をルーブリックにより評価します。
ルーブリックを含む評価の詳細は、演習実施前に受講生に周知します。

**e-learning／対面**

本科目の実施形態は
学習項目により異なります

※e-learning（非同期）または対面・集合型およびそのオンライン配信が予定されています

【受講の流れ】

**<学習項目 1～8>**

**コンテンツの閲覧**

**タスク・課題の実施と相互コメント**

**<学習項目 9・10>**

**講師の授業の受講等の指導**

**授業の設計**

**模擬授業の実施と振り返り**

# ③専門領域別科目
# インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学提供コース）

## 選択必修24時間

### 目的

大学の**授業の設計を効果的・効率的・魅力的に改善**するためのスキル修得、並びに、**改善された設計を実践するための教育環境構築**のためのスキルの修得を目的とする。

### 学習目標

●学習者が**生涯にわたって活用できるスキル習得を目指した授業設計**ができる
●**学習目標と評価情報と教授方法の整合性**を満たした授業設計ができる
●授業を効果的・効率的・魅力的にするための**授業設計の改善案**を提示できる
●授業を効果的・効率的・魅力的にするために**各種テクノロジを用いた学習環境を構築**できる

### 授業方法

**【学習項目1～8】**
①各学習項目に関する**Web上のコンテンツを閲覧**
②Web上で指示される**タスク・課題**に取組む
③他学習者との**相互コメント**を通じて自己のスキルの**練習と実践**を行う
**【学習項目9・10】**
①講師の授業を実際に学生と一緒に受講するなどの**指導を受ける**
②自身の**授業を設計**する
③**模擬授業**を実施し、その**振り返り**を行う

### 学習所要時間

**学習項目1～8：各3.0時間**

| | |
|---|---|
| ・オンライン学習：Web上の動画等の視聴・閲覧 | 0.5～1.0時間 |
| ・事後学習：小レポート／その他の課題 | 2.0～2.5時間 |

**学習項目9・10：各12.0時間**

| | |
|---|---|
| ・オンライン学習：Web上コンテンツでの学習 | 7.0時間 |
| ・対面学習（模擬授業含む） | 3.0時間 |
| ・事後学習：小レポート/その他の課題 | 2.0時間 |

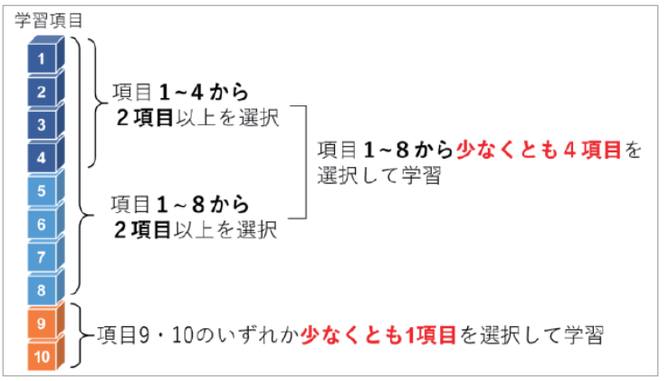
### 成績評価方法

各学習項目に用意された**3～5程度の課題**について予め公開された**合格基準によって評価**する。すべての課題の合格基準を満たすことで合格とする。

【履修方法】

③学習項目1～8から少なくとも4項目を選択して学習します。そのうち1～4から2項目以上を選択（選択必修）、1～8から残り2項目以上選択することができます。

④学習項目9・10のいずれか少なくとも1項目を選択して学習します（選択必修）。




## 1 基盤的 ID 論（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金） 【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

鈴木 克明
（熊本大学 教授）

IDの基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出します。
※**e-learning**

## 2 教材設計演習（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金） 【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

平岡 斉士
（熊本大学 准教授）

自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行います。
※**e-learning**

## 3 動機づけ理論活用演習（3.0 時間）

2021 年3 月1 日（月）～4 月30 日（金） 【課題提出】2021 年4 月30 日（金）23:59

郡竹 茂樹
（熊本大学 教授）

多様な事例に対してARCSモデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行います。
※**e-learning**

## 4　eポートフォリオ導入演習（3.0 時間）

2021年3月1日（月）～4月30日（金）【課題提出】2021年4月30日（金）23:59

松葉 龍一
（熊本大学 准教授）

久保田 真一郎
（熊本大学 准教授）

受講者自身のeポートフォリオを構成することで、eポートフォリオの設計や運用について習得します。
**※e-learning**

## 5　リベラルアーツ教育論（3.0 時間）

2021年3月1日（月）～4月30日（金）【課題提出】2021年4月30日（金）23:59

吉田 文
（早稲田大学 教授）

リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学びます。**※e-learning「大学カリキュラムの構造と編成原理」（動画視聴）**

## 6　STEM・文理融合教育論（3.0 時間）

2021年3月1日（月）～4月30日（金）【課題提出】2021年4月30日（金）23:59

山田 礼子
（同志社大学 教授）

米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策とSTEM教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考えます。
**※e-learning「STEM高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際STEMプログラム」（動画視聴，英語による講演・日本語字幕）**

## 7　産学連携教育論（3.0 時間）

2021年3月1日（月）～4月30日（金）【課題提出】2021年4月30日（金）23:59

吉本 圭一
（九州大学 名誉教授）

国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考えます。
**※e-learning「産学連携教育の国際動向―学術と職業を往還するWIL―」（動画視聴）**

## 8　教育質保証論（3.0 時間）

2021年3月1日（月）～4月30日（金）【課題提出】2021年4月30日（金）23:59

深堀 聰子
（九州大学 教授）

2000年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考えます。**※e-learning「世界における高等教育の質保証の到達点と課題」（動画視聴）**

## 9　大人の学びへと誘う教育改善演習（12.0 時間）

**2021年5月15日（土）13ー16時または9日（日）9ー12時**

学習目標、評価方法、授業方法の高度化・拡張のためのアイデアを提示し、それを用いた授業改善計画を提案する練習をします。

### 演習の概要

①オンライン学習：Web上コンテンツでの学習（学習時間：7時間）
　Web上のコンテンツの公開：　2021年4月23日（金）
②対面学習（模擬授業含む）（学習時間：3時間）
　対面学習の日時 ：　2021年5月8日（土）13ー16時または9日（日）9ー12時
③事後学習：小レポート/その他の課題（学習時間：2時間）
　課題の締め切り ：　2021年5月23日23:59（日）

### 評価方法

各学習項目に用意された3〜5程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。すべての課題の合格基準を満たすことで合格とします。
評価の詳細は、演習実施前に受講生に周知します。

## 10　既存のツールやサービスを活用した学習環境構築演習（12.0 時間）

**2021年5月15日（土）13－16時または16（日）9－12時**

既存のツールやサービスを活用した学習環境を構築の例を参考にして、学習者自身の授業設計を各種ツールやサービスで実現します。

### 演習の概要

①オンライン学習：Web上コンテンツでの学習（学習時間：7時間）
　Web上のコンテンツの公開：　2021年4月30日（金）
②対面学習（模擬授業含む）（学習時間：3時間）
　対面学習の日時 ： 2021年5月15日（土）13－16時または16（日）9－12時
③事後学習：小レポート/その他の課題（学習時間：2時間）
　課題の締め切り ：2021年5月30日23:59（日）

### 評価方法

各学習項目に用意された3～5程度の課題について、あらかじめ公開された合格基準によって評価します。すべての課題の合格基準を満たすことで合格とします。
評価の詳細は、演習実施前に受講生に周知します。

**対面／オンライン（同期）**

本科目は対面・集合型および
そのオンライン配信で実施します

【受講の流れ】

**新規の取組案を構想**

**対面（もしくはオンライン）指導**

**成果発表会**

**振り返り・講評**

**リフレクションレポートを作成**

# ④教育イノベーター実践演習科目

## 共通必修12時間

### 目的

これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、**教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営**できるようになる。
大学で授業を担当するのに必須となる**基礎的な知識・技能を修得**する。

### 学習目標

実践知と学術知の往還を意識しながら自律的に構想した**新規の取組案（授業、カリキュラム、プロジェクトの案等）の発表・討論**を行うとともに、**リフレクションレポートを作成**することを通じ、本プログラム全体の**学びと成長を振り返る**ことを目指す。

### 授業方法

①新規の取組案について**構想**（事前準備）
②構想した取組案について**対面**（もしくはオンライン）**指導**
③**成果発表会**
④**振り返り・講評**
⑤**リフレクションレポート**を作成し提出

### 学習所要時間：12時間

| | |
|---|---|
| ・事前準備 | 5.0時間 |
| ・対面もしくはオンライン指導 | 1.0時間 |
| ・成果発表会 | 3.0時間 |
| ・振り返り・講評 | 1.0時間 |
| ・リフレクションレポートの作成 | 2.0時間 |

### 成績評価方法

**成果発表会での発表内容を含むリフレクションレポート**について、到達度をルーブリック（p.32参照）で評価する。100点満点で採点し、**60点以上で合格**とする。

## 1　キャップストーン・プロジェクト（12.0 時間）

**2021年6月12日（土）～13日（日）終日　※2日間**

大森 不二雄
（東北大学 教授）

杉本 和弘
（東北大学 教授）

鈴木 克明
（熊本大学 教授）

戸田 真志
（熊本大学 教授）

受講生が自ら構想した新規取組案（授業、カリキュラム、プロジェクトの案等）について、①事前準備、②対面／オンライン指導、③成果発表会、④振り返り・講評を行った上で、⑤リフレクションレポートを作成・提出します。プログラムを通して修得した知識とスキルの統合と振り返りを行うことを通して「教育イノベーター」としての総まとめを行います。

### ①事前準備

**【発表要件】**

自らが構想した授業、カリキュラム、プロジェクト等の新規取組について、**下記の点を明らかにして10分間のプレゼンテーション**にまとめてください。発表時の順序は下記リストの順通りでなくて構いません。

- **構想した取組の名称**
- **目的**
- **背景、着想の経緯**
- **内容（対象となる学生像を含む）**
- **本プログラムでの学びをどう活かしたか**
- **実践時に予想される課題／今後の課題**

なお、プレゼンテーションに使用した**発表資料は、リフレクションレポートと一緒に成果物として提出する必要がある**ことに留意してください。

**【発表ツール】**

**対面もしくはオンラインのいずれでも対応できる**ようにしてください。（例：パワーポイント等）発表資料は成果物として**リフレクションレポートと共にPDF化して提出**できるように作成してください。

### ②対面もしくはオンライン指導

**【産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学提供コース）受講生】**

実施日程：2021年5月29日（土）～6月4日（金）予定
指導時間：1時間
実施方法：グループセッション

**【インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学提供コース）受講生】**

実施日程：2021年5月29日（土）～6月4日（金）予定
指導時間：1時間
実施方法：グループセッション

### ③成果発表会／④振り返り・講評

実施日程：2021年6月12日（土）～6月13日（日）
時間配分：**発表10分＋質疑応答10分**＝20分／人
　　成果発表3時間＋振り返り・講評1時間＝計4時間／セッション
受講要件：受講生は**自分が含まれる1セッション全体の参加必須**。それ以外は自由参加

## ⑤リフレクションレポートの作成・提出（成果発表会での発表資料を添付）

**【リフレクションレポートの設問】**
「本プログラムでは『学びと社会をつなぐ実践知・学術知往還及び学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する教育イノベーター』の育成を目的としています。この目的を念頭に置き、次の3点について**2,000字程度**（1,500～2.500字の範囲内）で記述してください」

**①本プログラムで得られたもの**
**②自身が目指す教育イノベーターの具体像**
**③そのために今後更にどのような研鑽が必要か**

**【提出方法】**
Moodle上で提出する。
ファイル形式：MSWordもしくはPDFのいずれか

**【提出締切】2021年6月21日（月）23:59**

**【リフレクションについて】**
リフレクションとは何か、どうすればよいのかについてのヒントは本ハンドブック「5-3. 参考資料（リフレクション・振り返りとは）」（p.38）を参考にしてください。

**【評価用ルーブリック】**
次ページ参照

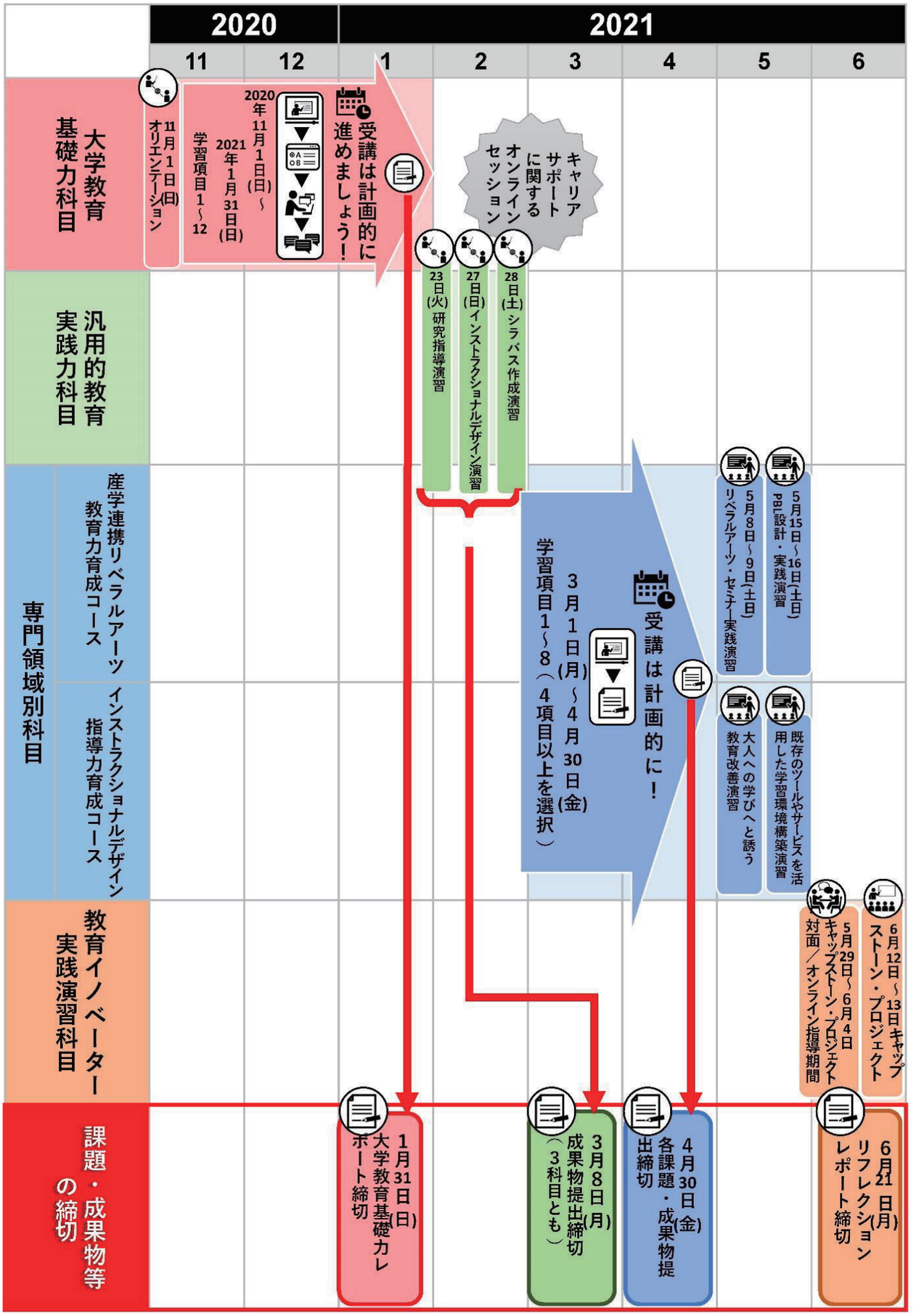
表．リフレクションレポートの評価用ルーブリック

| | 評価の観点 | S（10 点）<br>秀 | A（8 点）<br>優 | B（7 点）<br>良 | C（6 点）<br>可 | D（4 点）<br>大きな課題あり | E（0 点）<br>評価不可能 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成果発表（プレゼンテーション） | 構想した取組の目的、背景、着想の経緯 | 実務経験や社会的問題意識等から導き出された魅力的で意義の高い目的が設定されており、その背景や着想について論理的に説明することができている | 実務経験や社会的問題意識等から導き出された目的が設定されており、その背景や着想について概ね理解できる | 目的や背景、着想の経緯について一通りの説明がなされている | あいまいさや説明の過不足等の改善の余地はあるが、目的や背景、着想の経緯について最低限の説明がなされている | 目的、背景、着想の経緯が相互に関連しておらず、取組の意義を理解するのが容易ではない | 当該観点が発表に含まれていない |
| | 構想した取組の内容（対象となる学生像を含む） | 取組内容について客観的多角的な視点も交えた説明がなされており、革新的な手法や視点を取り入れている | 設定した目的に対し建設的で整合性のある具体的な取組内容が説明されており、実践のイメージが想起できる | 設定した目的に基づき具体的な取組の内容が説明されている | 整合性や一貫性等において改善の余地はあるが、設定した目的に基づいて取組の内容を説明している | 設定した目的や背景と取組内容がかみ合っていない。取組の内容にあいまいな点や説明の不足が多く理解できない | 当該観点が発表に含まれていない |
| | 本プログラムでの学びをどう活かしたか | 実務経験と学んだ理論・方法論等を結びつけて取組内容を設計しており、実践知と学術知の対話・循環が体現されている | 実務経験とプログラムでの学びを結びつけ、取組内容に根拠をもって適用されている | プログラムでの学びの経験をどのように取組内容に反映したか説明されている | 取組内容との関連は必ずしも明確になっていない点はあるが、プログラムでの学びについて触れられている | 取組内容の構想がプログラムを受講せずとも設計できる内容にとどまっており、受講の成果が確認できない | 当該観点が発表に含まれていない |
| | 実践時に予想される課題／今後の課題 | 教育変革を先導する教育イノベーターとしての実際の活躍がイメージできるようなビジョンが展開されている | 実際的な困難や課題が多面的かつ的確に検討されている | 実際的な困難や課題を提示することができている | 十分に現場の状況を想定できていない点があるが、課題を挙げることはできている | 取組内容と課題の内容に関連性がない。課題の内容が不適切である | 当該観点が発表に含まれていない |
| | 発表および質疑応答の作法 | 聴衆に配慮した発表資料が提示されており、創意工夫がちりばめられている。質問の意図を理解し、簡潔かつ的確に回答することができている | 聴衆がストレスなく発表内容を理解することができる提示方法、話し方ができている。質問の要点をとらえて回答することができている | フォントサイズや図表の視認性、話すペース等が概ね良好である。質問の意図を理解して回答しようと努力している | フォントサイズや図表の視認性等、発表の時間配分等に改善の余地がある。質問の要点をとらえておらず回答がかみあっていない | 発表に際し準備不足とみられる点が散見される。質問に対してあいまいな回答に終始したり、回答に時間をかけすぎたりしている | — |
| リフレクションレポート | 本プログラムで得られたもの | 大学教員として教育を担うための知識・技能・態度等について、自身の変容の様子等について多角的に考察している | 大学教員として教育を担うための知識・技能・態度等について、受講前の自身との比較などを含めながら考察している | 大学教員として教育を担うための知識・技能・態度等について、修得した内容を簡潔にまとめている | プログラムでの学びについて説明しているが、受講前と比較して何がどう変容したのかについて説明されていない | プログラムでの学習事項を表面的に列挙するのみにとどまっている | 当該観点がレポートに含まれていない |
| | 自身が目指す教育イノベーターの具体像 | 教育者、先導者、変革者のそれぞれの側面において自身が果たし得る役目や強みを論じることができている | 教育イノベーターの具体像を自分なりの解釈や表現で言語化できており、主張に一貫性がある | 教育イノベーターの具体像を自分なりの解釈や表現で言語化しようと試みている | 教育イノベーターの具体像があいまいで、表面的な内容にとどまっている | プログラムを受講せずとも論じられるような、ごく一般的でありふれた説明に終始している | 当該観点がレポートに含まれていない |
| | 今後必要な研鑽の検討 | さらに改善、高度化、ブラッシュアップが必要な点を見出し、プログラム修了後も学び続けていくための具体的な計画や方略について多角的に論じている | プログラム修了後も学び続けていくための具体的な計画や方略について、現実的で意義ある内容を論じている | プログラム修了後も学び続けていくための計画や方略を挙げることができている | プログラム修了後も学び続けていくための態度や計画が具体的に論じられているとはいえず、表面的な内容にとどまっている | 論じられている内容が、既にプログラム内で学習の機会が提供されている点や、ごくありふれた内容でしかない | 当該観点がレポートに含まれていない |
| | リフレクションの実践 | レポートの３つの要件について論じるうえで、自身の実務経験や受講前の知識、教育観等とプログラムでの経験や学びを結び付けたり比較したりしながら、多様な見方、かつ批判的な検討が実践できている | レポートの３つの要件について論じるうえで、自身の実務経験や受講前の知識、教育観等とプログラムでの経験や学びを結び付けたり比較したりしながら俯瞰できており、分析的かつ統合的な検討が実践できている | レポートの３つの要件について論じるうえで、自身の実務経験や受講前の知識、教育観等とプログラムでの経験や学びを結び付けたり比較したりすることができているが、分析の視点は単一的である | レポートの３つの要件について論じるうえで、自身の学びの経験について表面的な印象や感想を描写するにとどまっている | レポートの３つの要件について論じるうえで、今後の教育活動に活かすためのリフレクションが実践された様子は読み取れず、単に学んだことを列挙するのみにとどまっている | 当該観点がレポートに含まれていない |
| | 表記方法と文体、引用等の作法 | 読み手に配慮した構成や表記方法がとられており、誤字・脱字がなく、引用方法も模範的である | 文章の構成、文体、引用方法等が統一されており、適切である | 若干の修正や改善の余地はあるものの、引用等における最低限のルールは守られている | 文体のゆれ、誤字・脱字等が散見される。引用方法等が統一されていない | 文体のゆれ、誤字・脱字等が多く、明らかな準備不足がうかがえる。引用方法等が不適切である | — |

# 3　プログラムの日程

| 科目 | 実施日（期間） | 時間 | | 学習項目 | 実施方法 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大学教育基礎力科目 | 2020 年 11 月 1 日（日） | 13:30<br>開始 | 1 | オリエンテーション | オンライン（同期） |
| | 2020 年 11 月 1 日（日）<br>～2021 年 1 月 31 日（日） | | 2 | 大学教育制度論 | オンライン（非同期） |
| | | | 3 | 学生・学習支援論 | |
| | | | 4 | カリキュラムマネジメント | |
| | | | 5 | インストラクショナルデザイン | |
| | | | 6 | 授業設計論 | |
| | | | 7 | 教育改善論 | |
| | | | 8 | 大学における倫理 | |
| | | | 9 | 学習評価論 | |
| | | | 10 | オンライン授業実践論 | |
| | | | 11 | ICT 等先端技術活用教育論 | |
| | | | 12 | 実務家教員論 | |
| | 大学教育基礎力レポートは<br>2021 年 1 月 31 日（日）23:59 提出締切 | | | 大学教育基礎力レポート | レポート |
| オプション | 大学教育基礎力科目終了後以降 | 未定 | | キャリアサポートに関するオンラインセッション | オンライン |
| 汎用的教育実践力科目 | 2021 年 2 月 23 日（火祝）<br>➡2021 年 3 月 8 日（月）23:59 成果物提出締切 | 13:30<br>開始予定 | 1 | 研究指導演習 | オンライン（同期） |
| | 2021 年 2 月 27 日（土）<br>➡2021 年 3 月 8 日（月）23:59 成果物提出締切 | 13:30<br>開始予定 | 2 | インストラクショナルデザイン演習 | |
| | 2021 年 2 月 28 日（日）<br>➡2021 年 3 月 8 日（月）23:59 成果物提出締切 | 13:30<br>開始予定 | 3 | シラバス作成演習 | |
| 専門領域別科目（産学連携リベラルアーツ教育力育成コース） | 2021 年 3 月 1 日（月）<br>～4 月 30 日（金）<br>➡2021 年 4 月 30 日（金）23:59 成果物提出締切 | | 1 | リベラルアーツ教育論 | オンライン（非同期） |
| | | | 2 | STEM・文理融合教育論 | |
| | | | 3 | 産学連携教育論 | |
| | | | 4 | 教育質保証論 | |
| | | | 5 | 基盤的 ID 論 | |
| | | | 6 | 教材設計演習 | |
| | | | 7 | 動機づけ理論活用演習 | |
| | | | 8 | e ポートフォリオ導入演習 | |
| | 2021 年 5 月 8 日（土）<br>～9 日（日）※2 日間 | 終日 | 9 | リベラルアーツ・セミナー実践演習 | 対面（東京：予定）<br>&<br>他地域とオンライン<br>（同期） |
| | 2021 年 5 月 15 日（土）<br>～16 日（日）※2 日間 | 終日 | 10 | PBL 設計・運営演習 | |
| 専門領域別科目（インストラクショナルデザイン指導力育成コース） | 2021 年 3 月 1 日（月）<br>～4 月 30 日（金） | | 1 | 基盤的 ID 論 | オンライン<br>（非同期） |
| | | | 2 | 教材設計演習 | |
| | | | 3 | 動機づけ理論活用演習 | |
| | | | 4 | e ポートフォリオ導入演習 | |
| | | | 5 | リベラルアーツ教育論 | |
| | | | 6 | STEM・文理融合教育論 | |
| | | | 7 | 産学連携教育論 | |
| | | | 8 | 教育質保証論 | |
| | 2021 年調整中 | | 9 | 大人の学びへと誘う教育改善演習 | 対面（東京：予定）<br>&<br>他地域とオンライン<br>（同期） |
| | 2021 年調整中 | | 10 | 既存のツールやサービスを活用した<br>学習環境構築演習 | |
| 教育イノベーター実践演習科目 | 2021 年 6 月 12 日（土）<br>～13 日（日）※2 日間<br>➡2021 年 6 月 21 日（月）23:59<br>リフレクションレポート提出締切 | 終日 | | キャップストーン・プロジェクト | 対面（東京：予定）<br>&<br>他地域とオンライン<br>（同期） |

※新型コロナウイルス感染症の影響にかんがみ、実施方法や日程・会場の変更を行う可能性があります。


2020
2021
11
12
1
2
3
4
5
6
大学教育
基礎力科目
汎用的教育
実践力科目
専門領域別科目
産学連携リベラルアーツ
教育力育成コース
インストラクショナルデザイン
指導力育成コース
教育イノベーター
実践演習科目
課題・成果物等
の締切
11月1日(日)
オリエンテーション
2020年11月1日(日)～
2021年1月31日(日)
学習項目1～12
受講は計画的に
進めましょう！
キャリア
サポート
に関する
オンライン
セッション
23日(火)研究指導演習
27日(日)インストラクショナルデザイン演習
28日(土)シラバス作成演習
受講は計画的に！
3月1日(月)～4月30日(金)
学習項目1～8（4項目以上を選択）
5月15日～16日(土日)
PBL設計・実践演習
5月8日～9日(土日)
リベラルアーツ・セミナー実践演習
既存のツールやサービスを活
用した学習環境構築演習
大人への学びへと誘う
教育改善演習
5月29日～6月4日
キャップストーン・プロジェクト
対面／オンライン指導期間
6月12日～13日キャップ
ストーン・プロジェクト
1月31日(日)
大学教育基礎力レ
ポート締切
3月8日(月)
成果物提出締切
（3科目とも）
4月30日(金)
各課題・成果物提
出締切
6月21日(月)
リフレクション
レポート締切

本プログラムの受講日程をカレンダーで示すと以下のようになります。自身の業務の繁忙期などを十分考慮に入れたうえで、無理なく計画的に学習を進めましょう。

**2020 年 11 月**

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23/30 | 24/31 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |

**2020 年 12 月**

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

**2021 年 1 月**

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |

**2021 年 2 月**

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| | | | | | | |

**2021 年 3 月**

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |

**2021 年 4 月**

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 21 | 20 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |

**2021 年 5 月**

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24/31 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

**2021 年 6 月**

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | | | | |

1 黒太字日付＝対面／同期型

課題提出締切日

大学教育基礎力科目

汎用的教育実践力科目

専門領域別科目

教育イノベーター実践演習科目

# 4　学習システムへのログイン方法

本プログラムで皆さんが利用する**学習システムは、Moodle（ムードル）**です。Moodleは世界中で広く利用されているオープンソースのLMS (Learning Management System) です。

## 4-1　ログイン画面へのアクセスとログイン

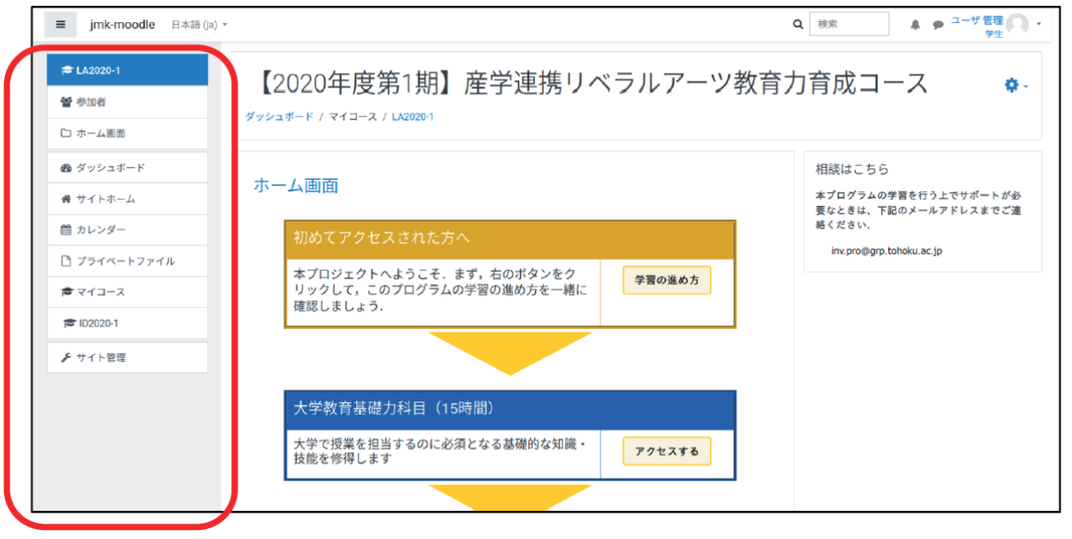
https://jmoodle.cica.jp/

にアクセスすると、下のような画面が表示されます。別途送付されたユーザ名とパスワードでログインしてください。

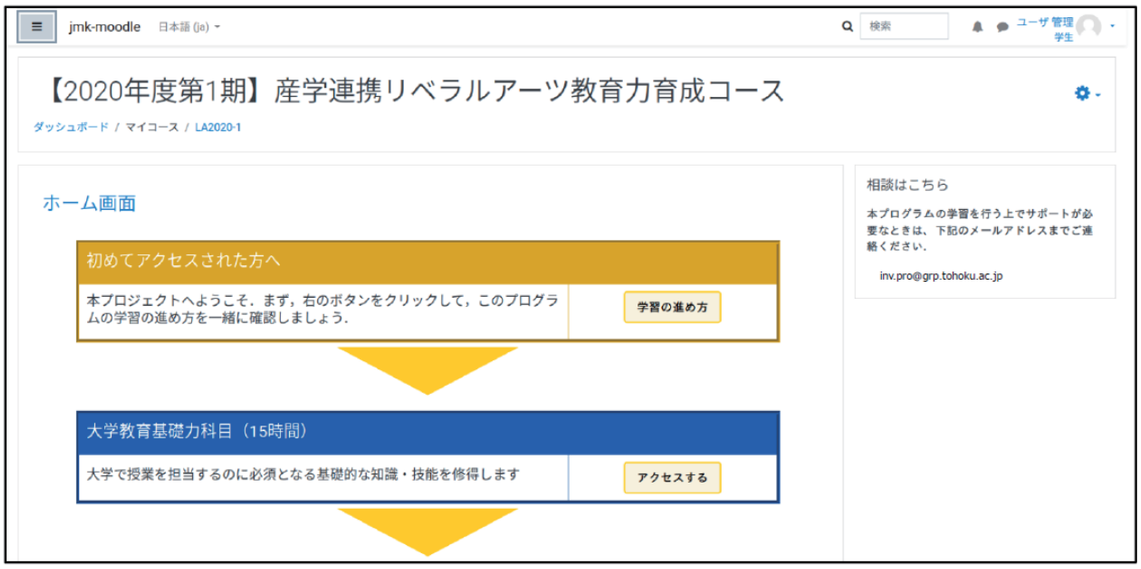
ログイン後に表示される「コース概要」に、**【2020年度第 1期】産学連携リベラルアーツ教育力育成コース** または **【2020年度第 1期】インストラクショナルデザイン指導力育成コース** のどちらかが表示されていますので、クリックして、コースの中に入ると、 下図 のような画面になります。画面上の説明にしたがって学習を進めてください。

## 4-2　アコーディオンメニューについて

Moodleの画面の左端には、初期状態では、アコーディオンメニュー（下図において赤で囲った部分）が表示されています。




アコーディオンメニューは、その上の ☰ のボタンを押すことで、出したりしまったりすることができます。学習を進めるにあたって画面を広く使いたいときは、☰ のボタンを押して、下図のようにアコーディオンメニューをしまってください。
（基本的に、アコーディオンメニューをしまったままの状態でも、学習を進めることができます。）



# 5　学習のための参考情報

## 5-1　リフレクション・振り返りとは

本プログラムのキャップストーン・プロジェクト（p.30）では、プログラムでの学びをリフレクションし、レポートとしてまとめる課題が設定されています。また、模擬授業などの実践においても振り返りを行う時間が設けられています。

### リフレクションとは何か？

リフレクションは、日本語では「内省」「省察」「振り返り」などと翻訳されますが、分野によってさまざまな定義がなされています。

**自分自身の考えや行動に関して、意図的に吟味するプロセス**（認知科学辞典 2002）

**自分の行動や思考を再検討し、それらを生み出した知識を再構成する活動**（平嶋ら 2004）

**さまざまな経験を繰り返す過程で、その活動の論理を引き出す思考**（教育心理学新辞典 1996）

つまり、リフレクションとは、**自身の経験をもとにした学びの方法論**であるといえます。

### リフレクションのプロセス

リフレクションにおける思考のプロセスは、多くの研究者によって多数のモデルが提唱されています。その一例として、Gibbs（1988）のリフレクティブ・サイクルを下記に示します。リフレクションのプロセスは、**何が起こったのかの描写→それに対する感情→評価→分析→結論付け→今後の対処法の創出→**…であると説明されています。自身のリフレクションのプロセスを見直すヒントになるかもしれません。

### なぜリフレクションを重視するのか

教員養成（教師教育）の文脈では、リフレクションの重要性について次のように説明されています。

今後のキャリアにおいて直面するであろう**すべての種類の状況に適応できるように養成することは不可能**である（Harrington, Quin-Leering & Hodson 1996）

**学び方を学び、適応し変化し続ける方法を学び、安定した知識などない**ことを知り、**知識を求め続ける**ことだけが安定性の基盤となりうることを知った人間だけが教養ある人間であるとされる（Rogers 1969）

このように、変動する社会において我々は、自身の経験から学ぶ意思の強い姿勢を発達させることが必要であると考えられています。教員がこの姿勢を身につけ、リフレクションを通して自分たちの経験から学ぶスキルを獲得したなら、いわゆる**「成長し続ける力」**を持つことになるといえます（Korthagen et al. 2001）。

大学教員が対応すべき状況、学生はそれぞれ多様です。リフレクションを通して、**新たな課題に直面した時にも、その経験から学び、その結果を以降の実践にも活かすことのできる姿勢を養う**ことで、プログラム期間終了後にも、学び続けることのできる教員としての下地作りになると考えています。

## 5-2　参考資料

大学教育について考えるうえでぜひ活用してもらいたい資料を紹介します。

**■大学教職員のための推薦図書リスト**
**（http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/files/booklist_2016.pdf）**

これから大学教員を目指す方に向けて、有用な書籍を「大学人としての教養」、「大学教員の仕事」、「学生理解」、「授業設計」、「学習論／心理学」、「研究室指導」、「高等教育」、「大学マネジメント力」、「比較の視点」の9つのカテゴリーに分けて紹介しています。

**■PDブックレット**
**（http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/report/pdbooklet/）**
**Vol.9 授業参観のすすめ**

東北大学において実施された「大学院生と若手教員が先輩教員の授業を参観する取組み」をまとめたものです。授業を公開した先輩教員の率直な思いと、授業を参観した若手教員らの学びの軌跡をたどることができます。

## 5-3　メールマガジン

大学教育基礎力科目提供期間中に、受講生の学習のペースメーカー、動機づけ、リマインダーとなるような内容を掲載したメールマガジンを発行します。受講アドバイザー等からのメールを是非ご参照ください。

## 4.3　産学連携教育イノベーター育成プログラム通信

**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.01**　　2020年11月6日（金）

□■━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.01**
□■━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━■□
産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの今野（東北大）、張（熊本大）です。
1日（日）のオリエンテーション、大変お疲れ様でした。
その後の学習の進捗状況はいかがでしょうか？

オリエンテーションでも告知しておりました通り
受講アドバイザーによる学習サポートの一環として
大学教育基礎力科目の提供期間中に、週1回のペースで
「産学連携教育イノベーター育成プログラム通信」を
配信いたします。

受講生の皆さまにとっての学習のペースメーカー、動機づけ、
リマインダーの機能を果たせるメルマガになるよう
受講アドバイザーが心を込めてお送りしますので
ぜひお目通しください！

記念すべきvol.01は
**①これってどうするの？～今週のFAQ～**
**②ここに注意！～受講アドバイザーの知恵袋～**
**③みんなどのくらい進んだ？～学習進捗状況レポ～**
**④各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。

+++―――――――――――――――――――　+++

### ①これってどうするの？～今週のFAQ～

オリエンテーションからこれまでに寄せられた質問としては
やはりMoodleの使い方に関するものが多くありました。
寄せられた質問とその回答については、
Moodleの使い方サポート
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066
に掲載しております。
Q:　オリエンテーションの課題をすべて終了したのに学習進捗が「未完了」なのはどうして？
Q:　講義動画を拡大してみたいときはどうすればいい？
Q:　プロフィール写真を設定したいけれど、どうすればできる？
といった質問とその回答が掲載されております。
同様の疑問をお持ちの方は、ぜひご参照ください。

また、上記以外のMoodleの使い方に関するご質問を直接書き込んで
スタッフから回答を得ることもできますので、ぜひご活用ください。

+++―――――――――――――――――――+++

### ②ここに注意！～受講アドバイザーの知恵袋～

**【オリエンテーションの課題について】**

学習項目１：オリエンテーションの課題は
・掲示板への自己紹介の投稿
・クイズで60点以上を獲得
の2点です。
この2点が完了していないと、以降の学習項目がMoodle上に表示されません。
「あれー終わったはずなのになぁ～まだ更新されないな～」という方は
上記2点の条件を満たしていないということになりますのでご注意ください。

特に、オリエンテーション当日の投稿練習用のデモ掲示板と正式な掲示板を混同し
「テスト」や「投稿練習」を学習項目１の掲示板に投稿している方がいらっしゃいます。
今後の交流の為にも、ぜひ「正式な」自己紹介を投稿してください。
また、「他の参加者の投稿に対して必ず１つコメントする」ことも要件に

含まれておりますので、まだの方はぜひ！

なお、クイズは60点以上を獲得しないと修了要件を満たしたことになりません。
ぜひ60点以上が取れるように何度もチャレンジしてみてください。

**【学習項目2以降の掲示板投稿について】**
投稿には
**（１）受講して得たこと**
**（２）疑問点と疑問点について調べたこと**
が含まれていること、そして
**（３） 他の参加者の投稿に対して必ず１つ以上コメント**
**（同意できる理由、異なる見解など）**
することが必要です。

「調べたこと」は、ご自身が抱いた「疑問」について調べてください。
「疑問」と「調べたこと」が関連していない投稿が見受けられます。
また、必ずしも「疑問点」が明確に示されていなかったり
「調べたこと」について論じる際に「自身の主観、意見」と「調べて得たこと」の
切り分けが不十分で、どこまでがご自身の主張なのか読み取りずらいケースもあるようです。

投稿の際は、どうかご注意を！

+++————————————————————+++

## ③みんなどのくらい進んだ？～学習進捗状況レポ～

「1月まで、孤独な戦いです…」という声もちらほら聞こえてきますが
皆さまの頑張りは受講アドバイザーがしっかりと見守っています！
「あら、こんな時間まで！」「おー！ここから取り掛かったのか～！」など
皆さまの進捗を日々確認しております。

11月6日（金）0:00時点の学習進捗状況は・・・
- ◆75.0% の受講生が**学習項目１を修了**しました
- ◆12.5% の受講生が**2つ目の学習項目を修了**しました
- ◆ 8.9% の受講生が**3つ目の学習項目を修了**しました
- ◆最も学習の進んでいる受講生は**7つの学習項目を修了**しました

1月31日の大学教育基礎力レポートの提出を目指すには、少なくとも週に1項目の
ペースで学習を進めていくことが必要です。今から無理のないスケジュールを立て
ぜひ計画的に学びを進めていきましょう！

+++————————————————————+++

## ④各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp.2に記載しております。
各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。

産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.01はいかがでしたか？
ご質問はもちろんのこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！
受講アドバイザー：今野、張

□■―――――――――――――――――――――――――――――――――■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.02**
□■―――――――――――――――――――――――――――――――――■□

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの 今野（東北大）、張（熊本大）です。
オリエンテーションの開催からもうそろそろ2週間が経過しようとしています。
Moodleの使い方、学習の進め方に慣れてきた方も多くいらっしゃるのでは
ないかと思います。この辺りでペースをつかめてくるといいですね。

学習は、まとまった時間がある時に！とお考えの方も、どうか学習項目１の
自己紹介とクイズをできるだけはやく修了することをおすすめします。
これが終わらないと、以降の学習項目が表示されず、科目の全容が
把握できないまま、時間だけが経過していくことになります。
お忙しいとは存じますが、今後のためにもぜひ実施してみてください！

今号では
**①これってどうするの？～今週のFAQ～**
**②ここに注意！～受講アドバイザーの知恵袋～**
**③みんなどのくらい進んだ？～学習進捗状況レポ～**
**④各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。

+++――――――――――――――――――――――――+++

## ①これってどうするの？～今週のFAQ～

**【書誌情報の示し方について】**
今週は、**投稿時の書誌情報の示し方**についての質問が寄せられました。
特に「調べたこと」を記述する際に、参考にした文献の書誌情報を
明記することは自身の学びの軌跡を残す意味でも、読者の学びにとっても、
そして評価者が論述内容を評価するうえでも非常に重要です。

書誌情報の記載方法については、いくつかタイプがあり、**学問領域によって
記載項目の順序や方式が若干異なります**。
したがって、ご自身の所属学会の規定や論文の（場合は）提出先の規定に
合わせる必要があります。

例えば、自然科学の分野の方法は、下記の資料に詳しく解説されています。

**独立行政法人　科学技術振興機構『参考文献の役割と書き方』**
https://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf（2020年11月11日参照）.

参考文献をどのように表記するかは、**キャップストーン・プロジェクトの
リフレクションレポート等でも評価対象となる項目**ですので、ぜひ
今のうちからその方法に慣れておくことをおすすめします！

これを機会に、ご自身の関連分野の学会誌や書籍における書き方を参照し
一貫性を持って記載できるようにしておきましょう！

**【必読文献の再アップロード（画質改善）について】**
以下の必読文献について、PDFの画質が必ずしもよくなかったため
質を改善したPDFファイルをアップロードしました。
必要に応じてダウンロードしてください。

・学習項目２大学教育制度論
大森不二雄（2018）「第11章 大学のガバナンス」、東京大学大学経営・政策コース編
『大学経営・政策入門』東信堂、pp. 209-232
※11月12日16:08更新

・学習項目４カリキュラムマネジメント
中留武昭（2012）『大学のカリキュラムマネジメント　－理論と実際－』

東信堂（必読箇所は「序説－カリキュラムマネジメントの基本的思惟」pp.3-19）
※11月10日18:53更新

・松下佳代（2012）「２　　大学カリキュラム」，京都大学高等研究開発推進センター編『生成する大学教育学』ナカニシヤ出版，pp.25-57
※11月13日9:01更新

+++――――――――――――――――――――――――――+++

## ②ここに注意！～受講アドバイザーの知恵袋～

**【投稿要件、ちゃんと満たしていますか？】**
各学習項目の投稿要件は
**（１）受講して得たこと**
**（２）疑問点と疑問点について調べたこと**
が含まれていることです。

注意喚起のトピックを投稿いたしましたが、**上記が含まれていない投稿は修正し、再投稿してください**。

これらは、大学教育基礎力科目の集大成として提出する**「大学教育基礎力レポート」のレポート課題に密接にかかわってきます**。本レポートでは、学習項目から３つを選んで「受講して得たこと」「疑問点と調べたこと」を論述したうえで、それらを「どのように実践に活かすか」を述べる必要があります。

**毎回の投稿時に、しっかりと上記の点を論述することができていればレポートは非常にスムーズに執筆できるはず**です。

特に「受講して得たこと」が
_____について学んだ
_____について知った
レベルにとどまっている投稿が散見されます。
これでは、あとから読み返したときに、その項目の何がどう自身の学びになったのかが読みとれません。また、このような記述では、最終レポート執筆時に役立ちません。
他の受講生の投稿の中で、良質の論述がなされている例などを参考にしながらぜひご自身の糧になるような学びの軌跡を積み上げて行ってください！

+++――――――――――――――――――――――――――+++

## ③みんなどのくらい進んだ？～学習進捗状況レポ～

コメントのやりとりも活発になってきましたね。
皆さまの頑張りは受講アドバイザーがしっかりと見守っています！

11月13日（金）0:00時点の学習進捗状況（3クラス合計）は・・・
◆83.9 % の受講生が**学習項目１**の投稿とクイズを終えました
◆33.9 % の受講生が**2つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆19.6 % の受講生が**3つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆最も学習の進んでいる受講生は　**12**の学習項目の投稿とクイズを終えました

上記の数値は、投稿要件の判定前のものです。投稿の内容によっては再投稿を求められ、必ずしも学習修了とはならない点にご注意ください。
無理のないスケジュールを立て、ぜひ計画的に学びを進めていきましょう！

+++――――――――――――――――――――――――――+++

## ④各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp.2に記載しております。
各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.02はいかがでしたか？
ご質問はもちろんのこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

受講アドバイザー：今野、張

## 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.03　　2020年11月20日（金）

□■―――――――――――――――――――――――――――――――――■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.03**
□■―――――――――――――――――――――――――――――――――■□

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの 張（熊本大）、今野（東北大）です。
オリエンテーションの開催からもうそろそろ３週間が経過しようとしています。

先週のメルマガでも伝えておりましたが、学習項目１の自己紹介とクイズを修了できていない方が数名いらっしゃいます。学習項目１を修了しないと、他の学習項目に進むことができません。お忙しいと思いますが、是非お時間を作って学習項目１を修了させてください。

今号では
**①これってどうするの？～今週のFAQ～**
**②自分の学習スケジュールをどう管理するか？～受講アドバイザーの知恵袋～**
**③みんなどのくらい進んだ？～学習進捗状況レポ～**
**④各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。

+++――――――――――――――――――――――――――――+++
**①これってどうするの？～今週のFAQ～**
今週は、**大学教育基礎力科目の最後に提出するレポートについて字数制限や分量についての質問**が寄せられました。
**大学教育基礎力レポートでは、特に字数制限は設けておらずハンドブックp.14に示す課題の要件が満たされていることを重視**します。
目安があった方が執筆しやすい、という方には「A4で2ページ分程度」を想定していることをお伝えしています。
もちろんそれ以外の分量でも、要件を満たしていれば問題ありません。

今のうちから、最終レポートの要件、構成を見据えて掲示板への投稿、議論を積み上げていけるといいですね！

+++――――――――――――――――――――――――――――+++
**②自分の学習スケジュールをどう管理するか？～受講アドバイザーの知恵袋～**
**学習目標とスケジュールを立てましょう！**
・自分のライフスタイルに合わせて、学習のスケジュールを立てる。
・３か月内に12の学習項目と最終課題を終えるために、自分の全体の修了予定日を決める；
・各学習項目の修了予定日を決める；
・各学習項目の修了予定日までに学習が進むように、具体的なタスク（いつ、何をするかなど）を決める；
・余裕を持ってスケジュールを調整する

**学習しやすい環境を自分で整えましょう！**
例えば：
・自分にとって集中しやすい時間帯や空間
・具体的なタスクを可視化する

+++――――――――――――――――――――――――――――+++
**③みんなどのくらい進んだ？～学習進捗状況レポ～**
11月20日（金）9:00時点の学習進捗状況（3クラス合計）は・・・
◆89.2% の受講生が**学習項目１**の投稿とクイズを終えました

◆57.1 % の受講生が**2つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆35.7% の受講生が**3つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆2名の受講生は **12**の学習項目の投稿とクイズを終えました

無理のないスケジュールを立て、ぜひ計画的に学びを進めていきましょう！

+++――――――――――――――――――――+++

**④各種問い合わせ窓口**

各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp. 2に記載しております。各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.03はいかがでしたか？
ご質問はもちろんのこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

受講アドバイザー：張、今野

## 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.04　　2020年11月27日（金）

□■――――――――――――――――――――――――――――■□

**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.04**

□■――――――――――――――――――――――――――――■□

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま
受講アドバイザーの 今野（東北大）、張（熊本大）です。
早いものでもう11月も月末です…。プログラム受講期間の最初の一か月が
終了しようとしていますが学習の進捗はいかがでしょうか？

今号では

**①受講アドバイザーからのお知らせとご案内**
**・必読文献PDFの差し替えについて**
**・オリエンテーション実施報告動画公開！**
**②学習進捗状況レポ**
**③各種問い合わせ窓口**

のラインナップでお送りします。

【産学連携教育イノベーター育成プログラム Moodle】
→ https://jmoodle.cica.jp/

+++――――――――――――――――――――+++

### ①受講アドバイザーからのお知らせとご案内

**【必読文献の再々アップロード（落丁修正）について】**

vol.02でも必読文献の画質改善再アップロードについてご案内いたしましたが
下記の文献にて**落丁およびページの重複が確認されましたので、修正のうえ再々アップロード**いたしました。重ね重ねご迷惑をおかけし大変申し訳ございません。
必要に応じてダウンロードのうえご活用ください。

・学習項目２大学教育制度論
大森不二雄（2018）「第11章　大学のガバナンス」、東京大学大学経営・政策コース編『大学経営・政策入門』東信堂、pp.　209-232
※11月26日更新
https://jmoodle.cica.jp/course/view.php?id=10&section=3#s1

**【オリエンテーション実施報告動画公開！ 】**

産学連携教育イノベーター育成プログラムのウェブサイトに
11月1日に実施したオリエンテーションの報告動画が掲載されました！
https://jitsumuka.jp/innovator/2020/11/16/2020orientation/

こうした動画は本プログラムのプレゼンスを高める目的でも使用されます。
今後も随時公開予定です。お楽しみに！

+++――――――――――――――――――――――――+++

### ③学習進捗状況レポ

先の３連休には多くの受講生のみなさんがMoodleにログインし
学習を進めている様子が確認されました！深夜まで熱心に学習している方も
いらっしゃいます。どうか健康管理には十分気を付けて、無理なく学習を
進めてください！

11月27日（金）1:00時点の学習進捗状況（3クラス合計）は・・・
- ◆94.6 % の受講生が**学習項目１**の投稿とクイズを終えました
- ◆66.6 % の受講生が**2つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
- ◆50.0 % の受講生が**3つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
- ◆42.9 % の受講生が**4つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
- ◆最も学習の進んでいる受講生は大学教育基礎力レポートの提出を終えました

大学教育基礎力レポートの提出までたどりついた方もいらっしゃいますね！
**ぜひハンドブックp.14の課題内容を十分に確認し、チェックリストで何が**
**評価対象となっているのかを踏まえたうえで、執筆・提出**するようにしてください。

レポートは、単に科目に合格するためだけのものではありません。
**ご自身の学習の成果、軌跡をまとめて言語化し、後に振り返って読み直す**
**価値のある内容を残すチャンス**です！大学教員のポストへの就職活動には
教育の抱負や大学教育に関する自身の考え方をまとめて提出することが
求められる場面が多々あります。そうした際にも役立てられるように
しっかりと言語化しておく絶好の機会です。

+++――――――――――――――――――――――――+++

### ③各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp.2に記載しております。
各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.04はいかがでしたか？
ご質問はもちろんのこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

受講アドバイザー：今野、張

## 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.05　　2020年12月4日（金）

□■――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.05**
□■――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――■□

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの張（熊本大）、今野（東北大）です。
今年のカレンダーも残すところ一枚となりました。皆さん、今週の学習進捗はいかがでしょうか？

今号では
**①これってどうするの？～今週のFAQ～**
**②受講アドバイザーからのお知らせとご案内**
**・IDポータルの紹介**
**③学習進捗状況レポ**
**④各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。
【産学連携教育イノベーター育成プログラム Moodle】
→https://jmoodle.cica.jp/

+++――――――――――――――――――――――――+++
**①これってどうするの？～今週のFAQ～**

（１）なぜ「返信」のボタンが表示されていないの？
**他の受講生が提出した投稿に返信をしようとした時に、「返信」のボタンを見つからなかった質問**がありました。
掲示板上のコメント機能は、自分の属するグループの投稿しかコメントできません。自分のグループ以外のグループの投稿を閲覧する時に、「返信」のボタンは表示されません。
コメントを書く際に、「可視グループ」には自分が属しているグループかどうかご確認ください。

（２）別途メモ帳等で作成した文章をどのように掲示板上にきれいに張り付けるか
**別途メモ帳等で作成した文章を掲示板上に張り付けると改行がおかしくなった**質問がありました。このような場合、以下の内容をチェックし、修正してください。
・メモ帳の段階で、文章が行の途中で改行されていないか、をチェックします。
・Moodleにペーストした後に、改行した内容を整えます。
・ブラウザによって改行部分（行と行の間）に差がありますので、ご注意ください。
・掲示板で投稿をする際に、画面を整えるのに少し時間がかかるときがあり、少し待ってから貼り付けるとうまくいく場合もあります。

文字サイズは、投稿欄にペーストしてから、Moodleのエディタを使って書式を整えることができます。
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

+++――――――――――――――――――――――――+++
**②受講アドバイザーからのお知らせとご案内**
**【IDポータルを紹介します】**
熊本大学教授システム学研究センターでは、IDを学ぶ人を応援するためのIDポータルを設けています。ID ポータルは、IDって何？という初心者から、IDの研究者・実践者まで、日本でIDを学ぶすべての方の「入口」となる情報提供サイトです。このサイトでは、以下のコンテンツを用意しています。
・イベント ： ID関連イベント情報を掲載しています。
・ID関連文献等 ： IDに関する論文などのデータベースです。
・IDマガジン ： 不定期メーリングリスト「IDマガジン」のバックナンバーを掲載しています。
・お悩み解決 ： 教育や学習に関するお悩みに、IDの観点からお答えします。
・実力チェック ： あなたのID基礎力を診断するツールを紹介しています。
・作業支援ツール ： 主に、IDの初学者用の書籍「教材設計マニュアル」「授業設計マニュアル」「研修設計マニュアル」に関連したツールを紹介しています。

詳しくはこちらから：https://idportal.gsis.jp/about.html

今回は、「ID関連文献等」を紹介します。「ID関連文献等」は、年度別、種類（学術論文、修士・博士論文、書籍など）で検索することができ、論文やサイトに飛ぶリンクも充実です。

時系列で並んでいるので、どのようなID研究の動向があるのかが一見でわかります。
論文など文献をダウンロードすることができます。
豊富な情報を把握することができるため便利です。
ぜひご活用ください。

+++――――――――――――――――――――――――+++
**③学習進捗状況レポ**

12月4日（金）9:00時点の学習進捗状況（3クラス合計）は・・・
◆96.4% の受講生が**学習項目１**の投稿とクイズを終えました

◆69.6% の受講生が**2つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆53.6% の受講生が**3つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆42.9% の受講生が**4つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆最も学習の進んでいる受講生は大学教育基礎力レポートの提出を終えました

師走に入り，何かと慌ただしい時期ですが、年末年始を迎える前に少しでも学習の時間を確保して目標に向かって進んでいきましょう。

+++――――――――――――――――――――――――+++
**④各種問い合わせ窓口**
各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp. 2に記載しております。

各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。
**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.05はいかがでしたか？
ご質問はもちろんのこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

受講アドバイザー：張、今野

## 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.06　　2020年12月11日（金）

□■――――――――――――――――――――――――――――――――■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.06**
□■――――――――――――――――――――――――――――――――■□
産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの 今野（東北大）、張（熊本大）です。
学習の進捗はいかがでしょうか？最終レポートの提出まで到達した方や
そろそろ後半戦に差し掛かってきた受講生の方々がいらっしゃるようで
何よりです。お仕事との両立で容易ではない側面も多々あるかと思いますが
どうか無理せず、有意義な学びの時間を積み重ね
いっていただければという思いで見守っております。

今号では
**①受講アドバイザーの知恵袋**
**・受講者交流フォーラムが活用されています**
**・大学教育基礎力レポート執筆時の注意点**
**・掲示板の投稿要件を今一度確認しましょう！**
**②学習進捗状況レポ**
**③各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。

【産学連携教育イノベーター育成プログラム Moodle】
→ https://jmoodle.cica.jp/

+++――――――――――――――――――――――――+++
### ①受講アドバイザーの知恵袋

**【受講者交流フォーラムが活用されています】**
先日ご案内した　受講者交流フォーラムが活用され始めています。
**IDコースでは早速、情報交換会が企画された模様**です。

**受講者交流フォーラム**
大学教育力基礎力科目→科目トップ→受講者交流フォーラム（テキストリンク）

https://jmoodle.cica.jp/course/view.php?id=10&section=1

改めての説明になりますが…受講者交流フォーラムでできることは
◆フォーラムに投稿すると、**投稿内容がクラス内の他受講生にメールで送付**されます
◆投稿方法は、**通常の掲示板投稿と同様**です
◆投稿から**約30分後**にメールが配信されます

他クラスの投稿は、「可視グループ」のプルダウンメニューで閲覧したい
クラス名を選択することで表示可能です。ぜひご活用ください。

**【大学教育基礎力レポート執筆時の注意点】**
大学教育基礎力レポートの執筆に取り組まれる際には、
必ず**ハンドブックp.14の課題内容を十分に確認したうえで**
**評価用チェックリストで何が評価対象となっているのかを**
**踏まえ、執筆・提出**してください。

**大学教育基礎力レポートの形式**は、
（１）選択した学習項目（３項目）ごとに項を立てる（学んだこと、疑問点と調べたこと）
（２）総合考察の項を立てる　　（（１）の全体を踏まえて総合的に考察すること）
→3つの項目から学んだことをどう実践に活かすかについて論述する
という構成が必要です。

ハンドブックに記載されているように、要件を満たしていない
レポートは再提出が求められます。十分に注意してください。

**【掲示板の投稿要件を今一度確認しましょう！ 】**
メルマガや掲示板上でも何度か注意喚起を行ってきましたが
掲示板への投稿の際には、**要件をしっかり満たした投稿を実施**して
ください。すでにご自身で気が付いて修正投稿を実施してくださった
方々もいらっしゃいます。お疲れさまでした！
今一度、過去の投稿／これからの投稿について、下記の要件が
満たされているかをご確認ください！
**★投稿の要件★**
**（１）受講して得たこと**
**（２）疑問点と疑問点について調べたこと**　が含まれていること
**★ほかの受講者の投稿へのコメントの要件★**
**（３）同意できる理由、異なる見解など**

特に投稿の要件は、そのまま大学教育基礎力レポートの課題内容と
直結しています。**一つ一つの学習項目における投稿をしっかり**
**まとめることができていれば、その中からベストな３項目を選び**
**総合考察を付すことでレポートが完成**します！

+++――――――――――――――――――――――――+++
**③学習進捗状況レポ**

12月12日（金）0:00時点の学習進捗状況は・・・
◆96.4% の受講生が**学習項目１**の投稿とクイズを終えました
◆75.0% の受講生が**2つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆62.5% の受講生が**3つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆51.8% の受講生が**4つ目の学習項目**の投稿とクイズを終えました

掲示板上での投稿では、ご自身の経験や立場から得られた知見を
活かした返信や、ほかの学習者のコメントを受けての発展的な議論など
質の高い議論も垣間見られます。オンラインでの学習は孤独な側面も
あるかもしれませんが、ぜひ他者の視点も十二分に活用して
ご自身の学びを深めていってもらえたら何よりです。

+++――――――――――――――――――――――――+++
## ③各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp.2に記載しております。
各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.06はいかがでしたか？
受講生の皆さまからのご質問はもちろんのこと、本通信に関するご感想などもお待ちしております！ぜひお寄せください。

受講アドバイザー：今野、張

## 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.07　　2020年12月18日（金）

□■―――――――――――――――――――――――――――――――――■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.07**
□■―――――――――――――――――――――――――――――――――■□

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの張（熊本大）、今野（東北大）です。
早いもので、本年も残すところわずかになりました。
皆さん、今週の学習進捗はいかがでしょうか？

今号では
**①受講アドバイザーからのご案内**
**・IDポータルのIDマガジン**
**②学習進捗状況レポ**
**③各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。

【産学連携教育イノベーター育成プログラム Moodle】
→https://jmoodle.cica.jp/

+++――――――――――――――――――――――――+++

### ①受講アドバイザーからのご案内

**【IDポータルのIDマガジンを紹介します】**
Vol.05では、IDポータルの「ID関連文献等」を紹介しましたが、今回は「ヒゲ講師の活動日誌」を紹介します。
IDポータルでは、IDマガジンの「ヒゲ講師の活動日誌」が掲載されています。2004年から今年まで16年間の連載です。

以下は、最新の日誌です。
No.84: 学習支援のトップ10デザイン原理：メリル・ライゲルース対談@AECT2020
No.83: ノマド生活再開するもオンラインの嵐は続く
No.82: グリーンブック第4巻日本語版、発刊される
No.81: with新型コロナの「ニューノーマル」をデザインする

受講アドバイザーの張が日誌（No.84）の感想をシェアします。

メリルとライゲルースの英語対談の内容を日本語でわかりやすく整理され、２人の巨匠のID原理の相違についてより明確に区別できるようになりました。

特に、興味深かったのは、デザイナーがデザインする際の考えに関するヒゲ講師の分析でした。
・メリルは、**どのよう要素に注目して、何を入れるべきか**、を注目しています。
・ライゲルースは、デザイナーが何をするのではなく、**デザインされたものにどのような特徴が入っているか**、を重視しています。

↑の相違について、ヒゲ講師は、最初は両方が（青写真）の要素を並べており相違がないという考えを示したが、その次にはメリルは「何を入れようとすべきかという優先順位を大事にしている」と分析しました。

ID原理への理解と応用は人の理解によって変わりますが、大きなズレが生じてしまうと適切にその原理を応用することできなくなります。IDマガジンの内容を読むことで、丁寧に原理の主張者の考えを吟味することの大切さを痛感し、２人の巨匠の理論を調べ、分析したくなりました。

ご興味がある方、是非読んでみてください。
https://idportal.gsis.jp/magazine/serialization/diary/

+++――――――――――――――――――――――――+++

## ②学習進捗状況レポ

12月18日（金）9:00時点の学習進捗状況（3クラス合計）は・・・
◆96.4% の受講生が**学習項目 1** の投稿とクイズを終えました
◆75.0% の受講生が**学習項目2**の投稿とクイズを終えました
◆60.7% の受講生が**学習項目3**の投稿とクイズを終えました
◆50.0% の受講生が**学習項目4**の投稿とクイズを終えました
◆46.4% の受講生が**学習項目5**の投稿とクイズを終えました
◆42.8% の受講生が**学習項目6**の投稿とクイズを終えました
◆2名の受講生は大学教育基礎力レポートの提出を終えました

寒さが厳しい季節ですが、体調管理に気を付けて少しずつでも学習を進めていきましょう。

+++――――――――――――――――――――――――+++

## ③各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp. 2に記載しております。
各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.07はいかがでしたか？
ご質問はもちろんのこと、ご意見、ご感想などもお待ちしております！

受講アドバイザー：張、今野

# 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.08　　2020年12月25日（金）

□■――――――――――――――――――――――――――――――――■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.08**
□■――――――――――――――――――――――――――――――――■□

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの 今野（東北大）、張（熊本大）です。
週一でお送りしております本メルマガも、早いもので年内最後の配信となりました。
年末年始のお休み中に集中して学習を進めるご予定の方も多くいらっしゃることと
思います。どうか無理のないスケジュールで有意義な学習が実施できますように！

今号では
**①受講生の皆さまへのクリスマスプレゼント発送のご案内**
**②ID入門書と作業支援ツールのご紹介**
**③学習進捗状況レポ**
**④各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。

【産学連携教育イノベーター育成プログラム Moodle】
→ https://jmoodle.cica.jp/

+++――――――――――――――――――――――――――+++

## ①受講生の皆さまへのクリスマスプレゼント発送のご案内

本日12月25日はクリスマス！コロナ禍で例年とは異なる年末年始になりそうですが
日頃よりお仕事その他活動の傍ら、本プログラムに取り組まれている
**受講生の皆さまに、クリスマスプレゼント**をお送りします！
本日レターパックにて発送いたしましたので、**早くて26日以降にポスト投函**にて
配送される予定でございます。ぜひ到着をお楽しみに！

気になる（？）プレゼントの中身は…東北大学高度教養教育・学生支援機構が
刊行している「PDブックレット」＋αです。（PD＝Professional Development）
PDブックレットでは、大学教員の能力開発に関連するテーマを取り上げ
読みやすく冊子としてまとめています。今回は現在までに発刊されている全12巻の
中から下記の4冊（＋α）をお送りいたします。

**①PDブックレットVol.2「大学の授業を運営するために」**
認知心理学を専門とする大学教員である筆者が、自身の授業運営上の経験や
失敗談などもおりこみながら、**よりよい授業運営を目指している人たちへ**
**エール**を贈る内容となっている一冊です。
ぜひ模擬授業の実践前に一読されることをお勧めします！

**②PDブックレットVol.6「大学教員のブレーク・スルー」**
今までの教員生活で教育や研究、また、ワイフ・ワーク・バランスも含めて
**どのように課題をクリアし乗り越えてきたのか**について、各分野の大学教員らの
実例が収録されています。

**③PDブックレットVol.8「授業参観のすすめ」**
東北大学で実施した授業参観の取組みについて、**参観した側のリフレクションの**
**内容とともに、参観された教員側の率直な気持ち**がまとめられた一冊です。
授業参観の疑似体験とともに、教員側の想いが伝わったら嬉しいです。

**④PDブックレットVol.10「研究倫理マネジメントの手引き」**
『科学技術社会と大学の倫理』（東信堂）のもとになった一冊です。
ウェブでもPDF公開はされていないので、入手できたあなたはラッキー！

**⑤「大学教職員のための推薦図書」**
ハンドブック内でもご紹介している推薦図書リストです。
9つのカテゴリー別に推薦者の一言とともに文献を紹介しています。

ちなみに、PDブックレットシリーズは下記のページに詳細が掲載されています。
**東北大学 大学教育支援センター PDブックレット**
http://www.ihe.tohoku.ac.jp/CPD/report/pdbooklet/

PDFで公開されている巻もありますので、上記以外のブックレットにも
ご興味があればぜひアクセスしてみてください。お知り合いの方へのご紹介にも
活用していただければ嬉しいです！
皆さまに楽しんでいただけますように！

## ②ID入門書と作業支援ツールのご紹介

Vol.07の続きとして、今回は**「教材設計マニュアル」とIDポータルの**
**オンラインツール**を紹介します。

「教材設計マニュアルー独学を支援するためにー」は**インストラクショナルデザインを**
**用いた教育設計の入門書**であり、**1時間程度の学習内容を題材にし、学習目標・評価の**
**設定から学習に必要となる前提・事前・事後テスト、そして紙媒体の教材（テキスト）を**
**作成までの**ハンズオン学習ができるようになっています。Amazonでの説明では
「学校や大学・企業などで教えることに携わっている人、これから携わろうとしている人に
向けての教材作成入門。教材のイメージ作りから改善までを一歩ずつ進めることが
できるように(各章はそれぞれ,学習目標・背景・キーワード・事例・まとめ・練習問題・
フィードバックの7つで)構成。教材を見極める力もつけられる」と書かれています。

この本では、ただ読むだけではなく、**実際に教材を作ることを通じて教材設計やIDを**
**学ぶ作り**になっています。

IDポータルには、この本での教材作成を支援するジョブエイドとしてのツールが
提供されており、これらを使うことでより効果的・効率的に教材作成ができます。
（１）教材企画ツール
（２）教材企画書点検ツール
（３）指導方略ツール
（４）報告書作成報告書ツール
サイト：https://idportal.gsis.jp/tool/teaching/

「教材設計マニュアル」でしっかり学ぶためには、**上のオンラインツールを活用して**
**実際に教材を作成してみる**ことをおすすめします。

+++――――――――――――――――――――――――+++

## ③学習進捗状況レポ

12月25日（金）0:00時点の学習進捗状況は・・・
◆96.4% の受講生が**学習項目１**の投稿とクイズを終えました
◆78.6%　の受講生が**２つ以上の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆73.2%　の受講生が**３つ以上の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆64.3%　の受講生が**４つ以上の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆53.6%　の受講生が**５つ以上の学習項目**の投稿とクイズを終えました
◆50.0%　の受講生が**６つ以上の学習項目**の投稿とクイズを終えました

学習進度にかなりのバラつきがでてきました。
年末年始にまとめて学習を進めようとお考えの方は、ぜひ計画通り
スムーズに学習が捗るよう、**休みに入る前にシステム操作に不明な点が**
**ないかどうか確認しておくこと**を強くお勧めします。

+++――――――――――――――――――――――――+++

## ③各種問い合わせ窓口

各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp.2に記載しております。
各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.08はいかがでしたか？
手前味噌ではありますが、クリスマスプレゼントの企画、発送手続きのすべてに
おいて尽力してくれたスタッフに心からの感謝の意を表したいと思います！
本通信には受講アドバイザーの名前しか出ていませんが、配信までの間には
内容の確認や修正、アイデア出しなどに多くのスタッフ、教員の皆さまからの

ご協力をいただいております。受講生の皆さまにとって有意義な通信になっていますように！

ご質問はもちろんのこと、本通信に関するご感想などもお待ちしております！
ぜひお寄せください。

それでは、皆さま、どうぞよいお年を！

受講アドバイザー：今野、張

## 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.09　　2020年1月8日（金）

□■―――――――――――――――――――――――――――――――――■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.09**
□■―――――――――――――――――――――――――――――――――■□

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの 張（熊本大）、 今野（東北大）です。
あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。
皆さん、年末年始はいかがお過ごしでしたか。
今年は丑年ですね。牛の様に一歩一歩確実に学習も進めて行きたいですね。

今号では
**① 大学教育基礎力レポートの提出締切目前！★注意喚起★**
**② 受講アドバイザーからのご案内**
**③ 学習進捗状況レポ**
**④ 各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。

【産学連携教育イノベーター育成プログラム Moodle】
→https://jmoodle.cica.jp/

+++――――――――――――――――――――――――+++
**① 大学教育基礎力レポートの提出締切目前！★注意喚起★**
ハンドブック（p.33～34）に掲載しているとおり、**1月31日23:59**が大学教育基礎力レポートの提出締め切りです。
また、すべての学習項目において**「クイズで6割以上正解すること」（クイズ）と「掲示板へ投稿すること**、ならびに**他者の投稿にコメントをすること」（議論）**が、大学教育基礎力レポートの提出前に充たさなければならない前提条件です。

現在、各コースに進捗が遅れている方がいらっしゃいます。締め切りまであと**3週間**しか残っておりません。

皆さん、お仕事と学習を両立するのはなかなか大変なことだと思いますが、計画を立て集中して学習すれば大学教育基礎力科目を期限内に終わらせるのは、まだ可能だと思われます。

もし諸事情で期限内に修了できない場合は、**長期履修の検討**が必要になります。ご不明な点や相談は、受講アドバイザーまでご連絡ください。

+++――――――――――――――――――――――――+++
**② 受講アドバイザーからのご案内**

熊本大学教授システム学研究センターでは、IDを深く学びたい人に【公開科目】を設けています。【公開科目】は、ここでどのような学習ができるのかを科目ごとに体験するサイトです。

以下の６つの科目の情報を用意しています。
- ◆特別研究Ⅰ： 博士課程前期課程で研究をしようとする際に、テーマの決め方、研究計画書の立て方について学びます。
- ◆基盤的教育論 ： 教育の原理・方法論・心理学のエッセンスと教授設計理論の基礎について短期間でカバーできるように学習します。
- ◆eラーニング概論：任意のｅラーニング事例を取り上げ、指定された分析の視点から事例の分析・複数の改善点を提案できるようになります。
- ◆基盤的情報処理論： ｅラーニング教材の開発に必要な情報処理基礎知識（特にWeb活用）を修得します。
- ◆インストラクショナル・デザインⅡ：eラーニングを組み入れた教授システムの青写真と導入プロセスの提案、現状システムの改善計画の提案ができるようになります。
- ◆教授システム学研究総論：博士後期課程の導入科目であり、教授システム学分野における研究動向の全体像を俯瞰できるよう、

各専任教員が専門性を持つテーマごとに研究動向を概観します。

詳しくはこちらから：https://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/outgoing/opencourses/

今回は、教授システム学研究総論の第7回、「**学び方の個人差を考える：学習スタイル研究**」について紹介します。

**Felder-Silvermanモデル**によると、人が学習スタイルは、以下の4分野から分類できます。
（１） アクティブ・内省タイプ
（２） 理性・本能タイプ
（３） 視覚・言語タイプ
（４） 順序・全体タイプ

自分（張）は、どのような学習スタイルかなと興味が湧いたので、テストを受けてみました。以下はテストの結果です。

項目に回答する事によって、自分の学習の各側面を振り返るようになり、改めて自分の学習スタイルを理解することができました。

このようなチェックの結果は、参考程度に過ぎないかもしれませんが、自分の学習スタイルに合わせて学習の方法を工夫することができれば、e-learningの効果を高められるかもしれません。

ご興味がある方は、自分の学習スタイルをチェックしてみてください。
リンクはこちらです：https://kyoten2.cica.jp/moodle/mod/page/view.php?id=184

+++――――――――――――――――――――――――+++
**③ 学習進捗状況レポ**
1月8日（金）9:00時点の学習進捗状況は・・・
◆55名の受講生が学習項目１の投稿とクイズを終えました
◆85.7% の受講生が２つ以上の学習項目の投稿とクイズを終えました
◆78.6% の受講生が３つ以上の学習項目の投稿とクイズを終えました
◆75.0% の受講生が４つ以上の学習項目の投稿とクイズを終えました
◆69.6% の受講生が５つ以上の学習項目の投稿とクイズを終えました
◆60.7% の受講生が６つ以上の学習項目の投稿とクイズを終えました

大学教育基礎力レポートを提出したのは**３名**です！
多くの方が年末年始の期間を利用して、複数の学習項目を修了しました。寒い日が続きますが、体調管理をしながら残り３週間を頑張りましょう。

+++――――――――――――――――――――――――+++
**④ 各種問い合わせ窓口**
各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp. 2に記載しております。
各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。
**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp
**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp
**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.09はいかがでしたか？
ご質問はもちろんのこと、本通信に関するご感想などもお待ちしております！ぜひお寄せください。

受講アドバイザー：張、今野

## 産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.10　　2020年1月15日（金）

□■――――――――――――――――――――――――――――――――■□
**産学連携教育イノベーター育成プログラム通信　vol.10**
□■――――――――――――――――――――――――――――――――■□

産学連携教育イノベーター育成プログラム受講生の皆さま

受講アドバイザーの 今野（東北大）、張（熊本大）です。
1月も中旬になりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

緊急事態宣言の発令など、何かと気の休まらない日が続いているかと
思いますが、学習の進捗、大学教育基礎力レポートの執筆状況は
いかがでしょうか？

年末年始のお休みと先の３連休で、一気に学習が進んだ方もいらっしゃるようです。
大変お疲れ様です！月末の締め切りまで、あともう少し！
どうか無理のないスケジュールで有意義な学習が実施できますように。

今号では
**①大学教育基礎力レポートの提出前にもう一度確認を！**
**②ハンドブックのデジタルブック版を公開**
**③学習進捗状況レポ**
**④vol.09「受講アドバイザーからのご案内」に関する訂正**
**⑤各種問い合わせ窓口**
のラインナップでお送りします。

【産学連携教育イノベーター育成プログラム Moodle】
→ https://jmoodle.cica.jp/

+++――――――――――――――――――――――――+++

## ①大学教育基礎力レポートの提出前にもう一度確認を！

1月31日の提出締切を前に、着々とレポートが提出されています。
一方で、レポートに不備があり、再提出が求められるケースが少なくありません。
ぜひ、提出前に下記の点を十分に確認しましょう。

**【レポートには名前を書きましょう】**
レポート本文に提出者の名前が記載されていないケースがあります。
掲示板等の投稿では、自動で名前が表示されるため意識されにくいかもしれませんが
ドキュメントファイル等で提出される**レポートには、必ず名前を記載してください**。
かろうじてファイル名に名前が記載されている場合もありますが、本文にも
どうかお忘れなく！基本的なことですが、改めてご確認を！

**【チェックリストを活用しましょう】**
ハンドブックやメルマガで再三注意喚起しているレポートの「要件」について
これが満たされていないことで再提出が求められるケースが多くあります。
ハンドブックp.14に掲載しているレポートの要件と、チェックリストを
最大限に活用し、**提出前にチェックリストを使って自己採点してみる**ことを
強くおすすめします。

## ②ハンドブックのデジタルブック版を公開

オリエンテーションに際して皆さまに配布いたしました
産学連携教育イノベーター育成プログラム ハンドブックの**デジタルブック版**を
公開いたしました。更新事項も随時反映される予定です。
PDFとしてダウンロード可能ですので、ぜひご活用ください！
**産学連携教育イノベーター育成プログラム　ハンドブック（デジタルブック版）**
https://jmoodle.cica.jp/mod/url/view.php?id=1184

なお、今後のハンドブック上の記載内容の更新は、このデジタルブック版に
反映していく予定です。ご承知おきください。

+++――――――――――――――――――――――――+++

## ③ 学習進捗状況レポ

1月15日（金）0:00時点の学習進捗状況は・・・
**◆48.2% の受講生が12の学習項目を終えました**
◆53.6%　の受講生が**10以上の学習項目**の投稿とクイズを終えました

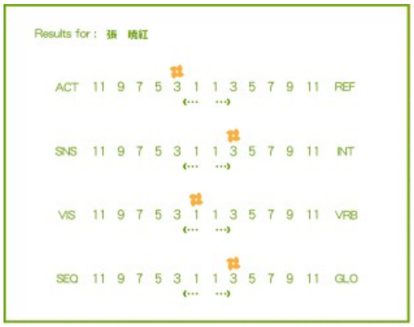
年末年始の休みを利用して学習を進められた受講生が多くいらっしゃいました。
半数近くの受講生が、残すところあとレポートのみ、というところまで進んでいます。
残りの学習項目についても、ぜひ計画的に学習を進められますように！
+++――――――――――――――――――――――――+++

## ④vol.09「受講アドバイザーからのご案内」に関する訂正

プログラム通信 vol.09にて、Felder-Silvermanモデル、学習スタイルの自己診断について
紹介しましたが、自己診断の図を添付しておりませんでした。
下記、訂正しお詫び申し上げます。

**Felder-Silvermanモデル**によると、人が学習スタイルは、以下の4分野に分類できます。
（１） アクティブ・内省タイプ
（２） 理性・本能タイプ
（３） 視覚・言語タイプ
（４） 順序・全体タイプ

自分（張）は、どのような学習スタイルかなと興味が湧いたので、テストを受けてみました。
以下はテストの結果です。




訂正内容については、以上です。

+++―――――――――――――――――――――――+++
**⑤各種問い合わせ窓口**
各種問い合わせ窓口については、ハンドブックp.　2に記載しております。
各コースの学習内容や進め方、欠席の際の連絡等は、各大学のコース担当者へご連絡ください。

**産学連携リベラルアーツ教育力育成コース（東北大学）**
inv.pro@grp.tohoku.ac.jp

**インストラクショナルデザイン指導力育成コース（熊本大学）**
inv.pro@rcis.kumamoto-u.ac.jp

**Moodleの使い方についての質問受付**
https://jmoodle.cica.jp/mod/forum/view.php?id=1066

。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。・。
産学連携教育イノベーター育成プログラム通信 vol.10はいかがでしたか？
年末にお送りしたクリスマスプレゼント企画について、うれしい反響があり
スタッフも喜んでおります。繰り返し手に取っていただけるお気に入りの
一冊が見つかれば幸いです！

また、レポート提出期限が近づき、寄せられる質問数も増えてきました。
ハンドブックやメルマガ上でも、質問の回答にあたる情報を掲載している
ケースがありますが、一通りお調べになっても不明な場合は、遠慮なく
お問い合わせください。

ご質問はもちろんのこと、本通信に関するご感想などもお待ちしております！
ぜひお寄せください。

受講アドバイザー：今野、張

# キャリアサポートに関する オンラインセッション

産学連携
教育イノベーター
育成プログラム
2020

## 第 1 回

2021 年 2 月 20 日（土）13:30～15:00

JREC-IN Portal/researchmap の概要および基本的な
使い方の紹介（実際に操作をして実習も行います）

対象：プログラム受講者で JREC-IN Portal/researchmap を
ご存知ではない方。
「初めてご利用の方」を想定した内容です。

実施方法：Web 会議（ZOOM）

## 第 2 回

2021 年 3 月 6 日（土）13:30～16:30

先達実務家教員によるミニ講演と交流会

〈ミニ講演①〉 松野 弘 氏
（大学未来総合研究所 所長）

〈ミニ講演②〉 網野 俊賢 氏
（関西国際大学 学長特別補佐兼客員教授）

〈 交流会 〉 ファシリテーター：宇野 健司 氏
（株式会社大和総研　調査本部副部長）

対象：プログラム受講者（任意）

実施方法：Web 会議（ZOOM）

# 産学連携
# 教育イノベーター
# 育成プログラム
# 2020

## 第 3 回

**第 1 部 【パネルディスカッション】**

先達実務家教員によるパネルディスカッション

2021 年 3 月 9 日（火）
（60 分程度、時間帯は追って告知）

パネリスト：熊本大学 教授システム学 研究センター
実務家教員 2-3 名

実施方法：ライブ配信・オンデマンド配信

**第 2 部 【交流会】**

パネルディスカッションの内容
（ライブ配信もしくはオンデマンド配信視聴）
を前提とした、Q&A 中心の交流会

2021 年 3 月 13 日（土）
午前中（60 分程度）

実施方法：Web 会議（ZOOM）

## 第 4 回

2021 年 3 月 20 日（土）10:00～17:30

大学改革を担う実務家教員フェア

内容：〈第 1 部〉 日本実務教育学会設立シンポジウム
「実務家教員と研究者教員の境界線はどこにあるのか？」

〈第 2 部〉「大学教員を目指す社会人のための基礎講座」

〈第 3 部〉「実務家教員育成プログラム」受講のススメ

実施方法：Web 会議（ZOOM）

## 4.5 産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020　受講者属性

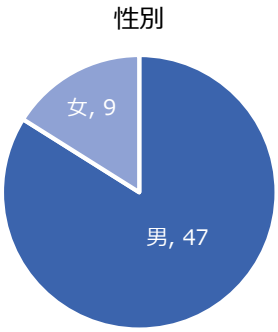
### （1）受講者数

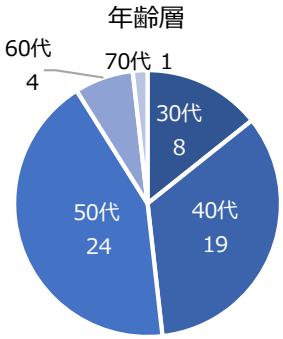
| コース | 人数 |
|---|---|
| 産学連携リベラルアーツ育成コース（LA）<br>東北大学提供 | 41 |
| インストラクショナルデザイン指導力育成コース（ID）<br>熊本大学提供 | 15 |
| 計 | 56 |

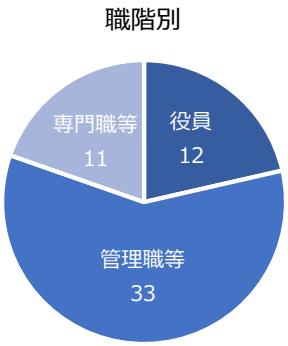
内、企業派遣：6 社より計 7 名（LA3 名、ID4 名）

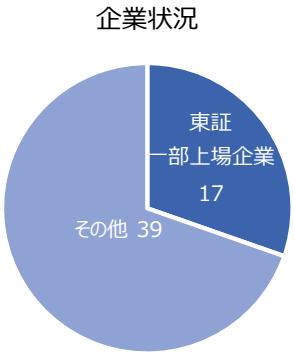
【参考値】2021 年度～KPI：受講者　100 人（4 コース分）／（≒2020 年度　KPI：受講者 50 人）

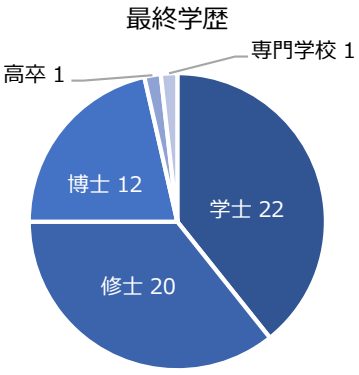
### （2）2020 年度 受講者属性（N=56）

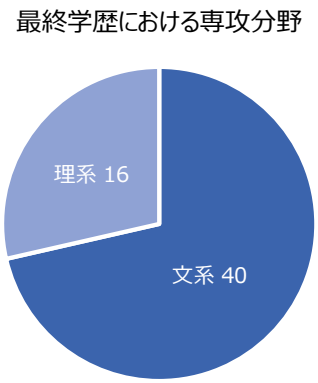


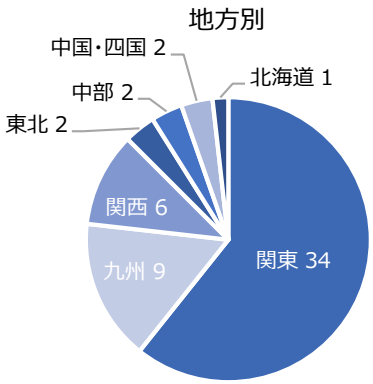






### （３）現職の属性

（人）

| 業種 | 全体 | 比率 | LA | ID |
|---|---|---|---|---|
| 製造業 | 13 | 23 | 8 | 5 |
| 教育学習支援業 | 9 | 16 | 5 | 4 |
| 学術研究,専門・技術サービス業 | 8 | 14 | 5 | 3 |
| 情報通信業 | 5 | 9 | 5 | 0 |
| 公務 | 5 | 9 | 5 | 0 |
| サービス業 | 4 | 7 | 3 | 1 |
| 金融業,保険業 | 3 | 5 | 3 | 0 |
| 運輸業,郵便業 | 2 | 4 | 2 | 0 |
| 卸売業・小売業 | 2 | 4 | 2 | 0 |
| 医療,福祉 | 2 | 4 | 1 | 1 |
| 建設業 | 1 | 2 | 0 | 1 |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 1 | 2 | 1 | 0 |
| 生活関連サービス業,娯楽業 | 1 | 2 | 1 | 0 |
| 計 | 56 | 100 | 41 | 15 |

## 4.6　産学連携教育イノベーター育成プログラム2020　受講者アンケート

産学連携教育イノベーター育成プログラム 2020

大学教育基礎力科目
受講者アンケート結果

### 回答者数

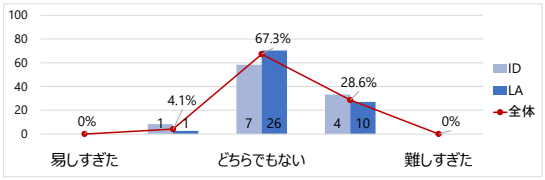
| コース名 | 当初受講者数 | 基礎力科目修了者数 | 回答者数 | % |
|---|---|---|---|---|
| IDコース | 15 | 14 | 12 | 85.7% |
| LAコース | 41 | 36 | 37 | ※102.8% |
| 合計 | 56 | 50 | 49 | 98.0% |

※2重回答／コース名の入力間違いの可能性あり…

### 大学教育基礎力科目の学習項目について



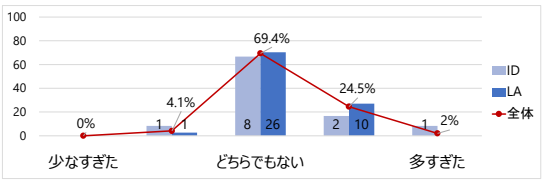
①大学教育基礎力科目の**【難易度】**は、自身の理解を深め、見識を広めるのに適切でしたか（N=50）




- 67.3%の回答者が難易度はちょうどよいものだったと評価
- 「易しすぎた」「難しすぎた」とする評価はなかった



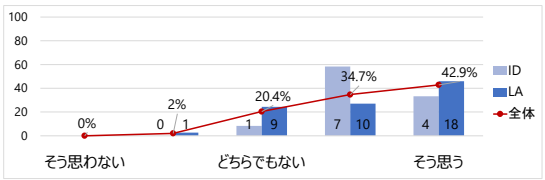
②大学教育基礎力科目の**【分量】**は、自身の理解を深め、見識を広めるのに適切でしたか（N=50）




- 69.4%の回答者が分量はちょうどよいものだったと評価
- 「多すぎた」との回答は1名（IDコース）

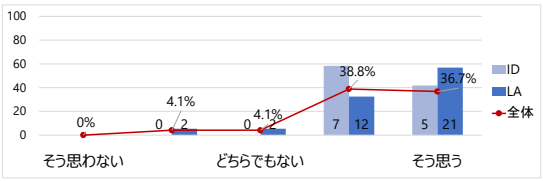


③大学教育基礎力科目の**内容や学習方法は自身のニーズに合致するものだった**と思いますか（N=50）




- ID:33.3%, LA:45.9%が「ニーズに合致」と評価

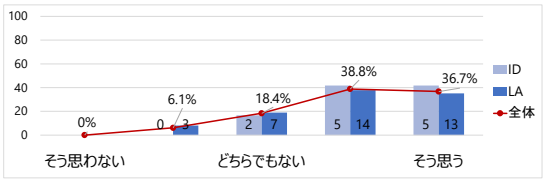
## ④大学教育基礎力科目の受講を通して、**知的好奇心が刺激され、自身の意欲が高まった**と思いますか（N=50）




- 75.5%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と評価
- ID:41.7%, LA:56.8%が「そう思う」と評価



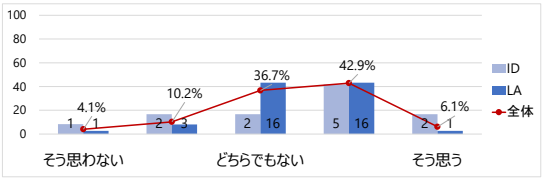
## ⑤自身の**業務経験を活用**して各課題について考えることができたと思いますか（N=50）




- 75.5%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と評価



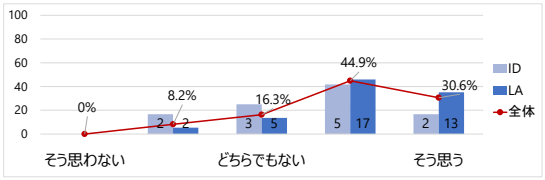
## ⑥他受講生の**投稿からの学びやディスカッションに積極的に参加**することができたと思いますか（N=50）




- 肯定的評価が49.0%、「どちらでもない」以下が51.0%



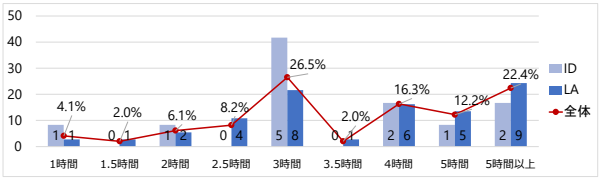
## ⑦他受講生の**投稿の閲覧やコメントの付与といった活動は有意義**であったと思いますか（N=50）




- 75.5%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と評価



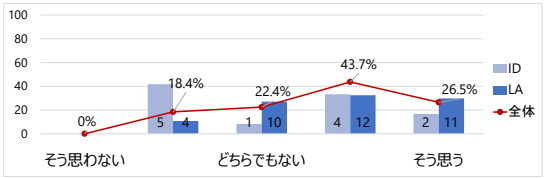
## ⑧各学習項目の**学習にどの程度の時間**がかかりましたか（平均時間を回答）（N=50）




- 5時間以上かかった回答者が22.4%
- 1時間で学習できた回答者は4.1%（2名）

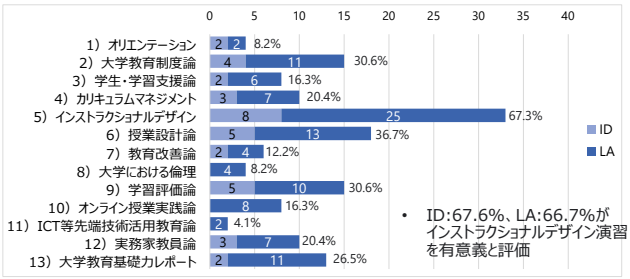


## ⑨履修期間として**3か月間の設定は適切**だったと思いますか（N=50）




- ID:41.7%が「どちらかというと適切だと思わない」と回答
- ID:50.0%、LA:62.2%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と評価

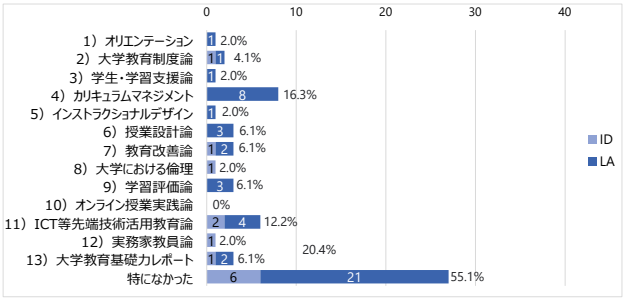
## ⑩特に**有意義**だったと思う学習項目を３つ挙げてください（N=50）




- ID:67.6%、LA:66.7%がインストラクショナルデザイン演習を有意義と評価

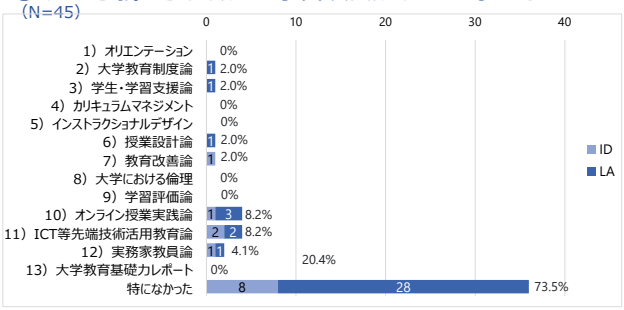


## ⑪**わかりにくかった**学習項目があれば、挙げてください（N=46）



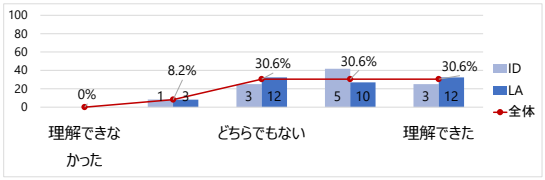



## ⑫あまり意義を感じなかった学習項目があれば、挙げてください（N=45）






## ⑬大学教育基礎力レポートの課題内容や書き方については、よく理解できましたか（N=50）

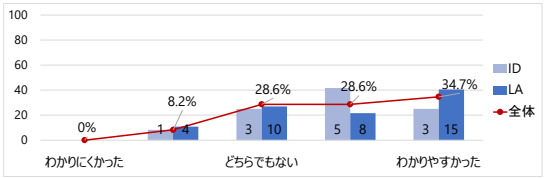



- 61.2%が「どちらかというと理解できた」「理解できた」と回答

# Moodleの操作性について

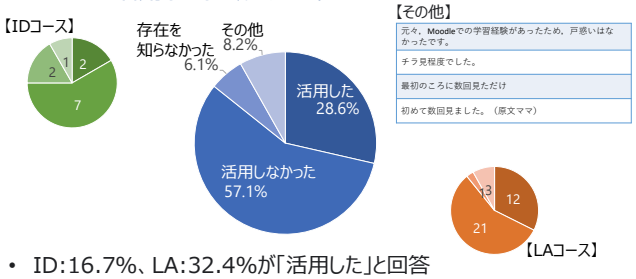


## ①オリエンテーションでのMoodleの使い方の説明はわかりやすかったですか（N=50）




- 63.3%が「どちらかというとわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答

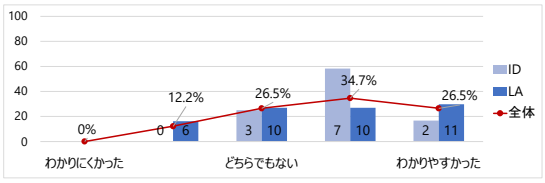
## ②Moodle上で提供されているMoodleの使い方に関するページを活用しましたか（N=50）




- ID:16.7%、LA:32.4%が「活用した」と回答



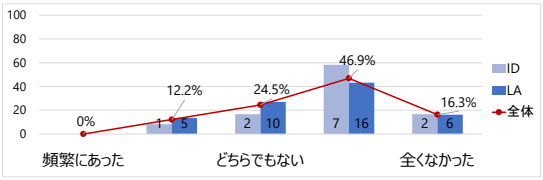
## ③Moodle上のコンテンツの構成（見た目、何がどこにあるのか）はわかりやすかったですか（N=50）




- 63.3%が「どちらかというとわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答
- LAコースの12.2%が「どちらかというとわかりにくかった」と回答



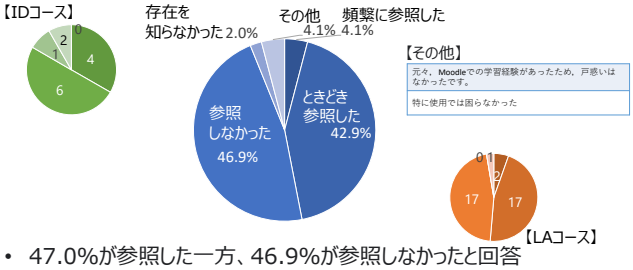
## ④Moodleの使い方について困ることはありましたか（N=50）




- 12.2%が「困ることがあった」と回答



## ⑤Moodle上でわからないことがあった時にはハンドブックを参照しましたか（N=50）

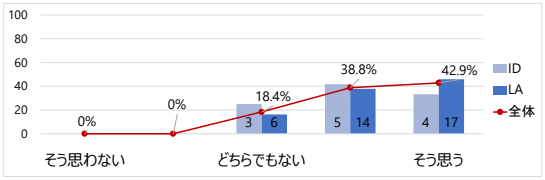



- 47.0%が参照した一方、46.9%が参照しなかったと回答

# 受講者支援について

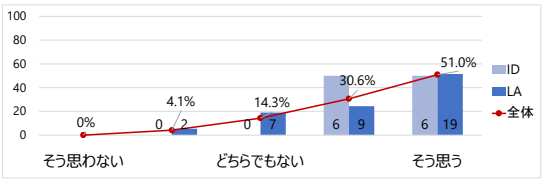


## ①産学連携教育イノベーター育成プログラム ハンドブックは受講に役立ったと思いますか（N=50）




- 81.6%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と回答

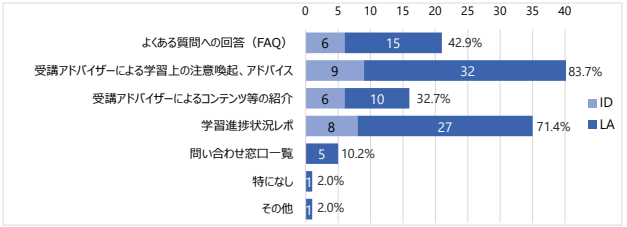
## ②産学連携教育イノベーター育成プログラム通信（メルマガ）は受講に役立ったと思いますか（N=50）




- 81.6%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と回答



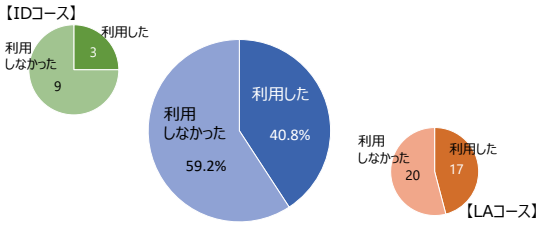
## ③有意義だと感じた通信の内容を選択してください（複数回答可）




【その他】定期的な連絡で、学習中のリズムが感じられた



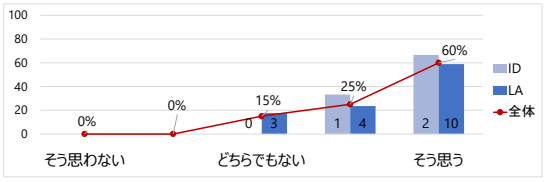
## ④受講アドバイザーへの問い合わせを利用しましたか（N=50）




- ID:25.0%、LA:45.9%が受講アドバイザーへの問い合わせを利用



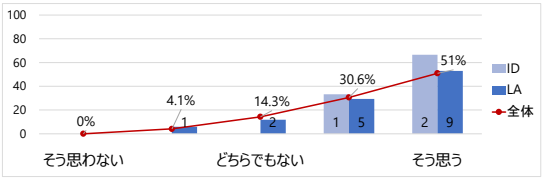
## ④ーA:(受講アドバイザーによる)質問への回答や不具合への対応の【質】は適切だったと思いますか（N=20）




- 85.0%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と回答



## ④ーB:(受講アドバイザーによる)質問への回答や不具合への対応の【タイミング】は適切だったと思いますか（N=20）




- 81.6%が「どちらかというとそう思う」「そう思う」と回答

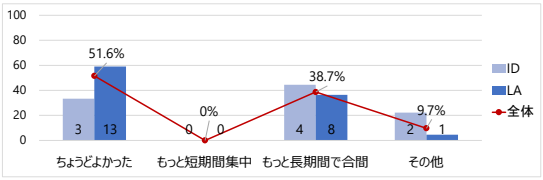
# 汎用的教育実践力科目
# 受講者アンケート結果

## 回答者数

| コース名 | 当初受講者数 | 汎用科目修了者数 | 回答者数 | % |
|---|---|---|---|---|
| IDコース | 15 | 13 | 9 | 69.2% |
| LAコース | 41 | 35 | 22 | 62.9% |
| 合計 | 56 | 50 | 31 | 64.6% |

学習項目の開講期間について

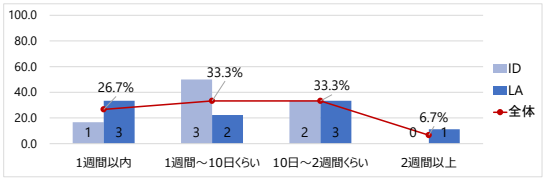
### 1-①. 汎用的教育実践力科目の実施期間についてどう感じましたか
（予習・復習・レポート作成に必要となる時間を踏まえてお答えください） （N=31）




- 「ちょうどよかった」とした回答者が51.6%

学習項目の開講期間についての意見

### 1-②. 一学習項目あたりの予習復習・レポート作成のための理想的な学習実施期間はどのくらいですか（N=15）




- 理想的な学習実施期間については1週間から2週間前の間で回答にばらつきあり

## 4.7　産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム規約

令和２年　７月　１日
産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム運営委員会

### 第１章　総則

（名称）

第１条　この規約により設立する団体は、産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム（以下、「本コンソーシアム」という。）と称する。

（目的）

第２条　本コンソーシアムは、大学（専門職大学を含む）、短期大学（専門職短期大学を含む）、高等専門学校、及び大学共同利用機関法人（以下、「大学等」という。）と企業、地方公共団体、その他の団体、国又は地方公共団体（独立行政法人又は地方独立行政法人を含む）の設置する機関等（以下、「企業等」という。）が連携して人材育成に取り組むことにより、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現及び創造と変革を先導する人材の輩出に貢献することを目的とする。

（活動）

第３条　本コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次に掲げる活動を行う。

（１）大学等の実務家教員を育成する研修プログラムの企画立案・実施への参画・協力
（２）実務家教員の活用をはじめ、産学等の境界を超えて人材と知の循環を推進する取組への参画・協力
（３）大学等が開発する社会人向け又は学生向けの教育プログラムの企画立案・実施への参画・協力
（４）大学等が行う教育に実践的な観点を反映させる取組への協力
（５）リカレント教育、インターンシップ及びキャリア教育を含む産学連携教育を推進・普及していくための意見交換及び情報共有
（６）産学連携教育の推進・普及のためのフェア等イベントの企画・開催への参画・協力
（７）大学等、企業等、学生、研修受講者等の交流の場の企画・開催への参画・協力
（８）その他前各号に掲げる活動に附帯又は関連する活動

（活動年度）

第４条　本コンソーシアムの活動年度は、毎年４月１日から始まり翌年３月３１日までの年１期とする。ただし、設立初年度は、設立日から翌年３月３１日までとする。

### 第２章　会員

（会員）

第５条　本コンソーシアムの会員は、本コンソーシアムの目的を理解し活動に賛同する大学等及び企業等をもって構成する。
２　本コンソーシアムの設立当初の会員は、別表に掲げる通りとする。

（入会）
第６条　会員になろうとする大学等又は企業等は、所定の様式により本コンソーシアムに対して入会の申込を行うものとする。
２　前項の申込があったときは、本コンソーシアムは、第１０条に規定する運営委員会の議決によってその諾否を決定し、申込者に通知する。
３　会員は、本コンソーシアムへの参加に係る責任者１名を第１０条に規定する運営委員会の委員として定め、入会と同時に本コンソーシアムに届け出るものとする。
４　会員は、その名称、責任者の氏名又は住所の変更のあったときは、遅滞なく、書面にて本コンソーシアムに届け出なければならない。

（会費）
第７条　本コンソーシアムの会費は、第１０条に規定する運営委員会の決議をもって別に定める。ただし、本コンソーシアムの設立当初から当分の間は無料とし、運営委員会の決議により会費の導入を決定したときは各会員に本コンソーシアムへの参加継続の意思確認を行うものとする。
２　前項に定めるもののほか、本コンソーシアムの特定の活動の実施に関し必要があるときは、運営委員会の決議により会員に協賛金を募ることができる。ただし、本コンソーシアムの設立当初から当分の間は、協賛金を募らないものとする。
３　既納の会費及び協賛金は、これを返還しない。ただし、運営委員会が認めた場合については、この限りでない。

（退会）
第８条　本会の会員は、いつでも退会することができる。ただし、退会の１か月以上前に本コンソーシアムに対して書面により通知するものとする。

（除名）
第９条　本コンソーシアムの会員が、本コンソーシアムの名誉を毀損し、若しくは本コンソーシアムの目的に反する行為をし、又は会員としての義務に違反するなど、除名すべき正当な事由があるときは、第１０条に規定する運営委員会の決議によりその会員を除名することができる。

## 第３章　組織

（運営委員会）
第１０条 本コンソーシアムに、運営委員会を置く。
２　運営委員会は、全ての会員をもって構成し、各会員は、第６条第３項に規定する責任者を運営委員会委員（以下、「委員」という。）として運営委員会の審議及び議決に参加させるもの

とする。
3　委員が、やむを得ない事情により運営委員会に出席できないときは、あらかじめ委員本人又は委員の所属する会員の代表者からの届出により代理出席を認めることとする。ただし、代理出席する者（以下、「代理出席者」という。）は、委員本人と同一会員に所属するものに限る。
4　運営委員会は、定時運営委員会として毎活動年度の終了後３か月以内に開催するほか、次条に規定する事業実施会議が必要と認めたときに臨時運営委員会として開催する。また、必要に応じて、書面又は電子メールによる開催とすることができる。
5　運営委員会は、事業実施会議の決議に基づき事業実施会議が招集する。また、委員は、事業実施会議に対し、招集の理由を示して、運営委員会の招集を請求することができる。
6　運営委員会は、次条に規定する事業実施会議から必要な報告を徴し、本コンソーシアムの活動及び運営の基本的事項について審議し、決議する。
7　運営委員会は、委員の過半数の出席（代理出席者及び委任状を含む。）をもって成立する。
8　運営委員会の議事は、出席者（代理出席者及び委任状を含む。）の過半数の同意をもって決するものとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
9　運営委員会の議長は、運営委員会において出席者（代理出席者を含まない。）の中から選出する。
10　委員は、無報酬とする。
11　運営委員会への出席に係る旅費その他の費用は、各会員が支弁するものとする。

（事業実施会議）
第１１条　本コンソーシアムに、事業実施会議を置く。
2　事業実施会議は、文部科学省の補助事業である「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において選定された「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」の事業を共同で実施する東北大学、熊本大学、大阪府立大学及び立教大学（以下、「事業実施大学」という。）をもって構成し、各事業実施大学は、第６条第３項に規定する責任者を事業実施会議委員として事業実施会議の審議及び議決に参加させるものとする。
3　事業実施会議委員が、やむを得ない事情により事業実施会議に出席できないときは、あらかじめ事業実施会議委員本人又はその所属する事業実施大学の代表者からの届出により代理出席を認めることとする。ただし、代理出席する者（以下「代理出席者」という。）は、事業実施会議委員本人と同一の事業実施大学に所属するものに限る。
4　事業実施会議は、原則として年１乃至２回開催するほか、次条に規定する事務局が必要と認めたときに開催する。また、必要に応じて、書面又は電子メールによる開催とすることができる。
5　事業実施会議は、事務局が招集する。また、事業実施会議委員は、事務局に対し、招集の理由を示して、事業実施会議の招集を請求することができる。
6　事業実施会議は、次条に規定する事務局から必要な報告を徴し、本コンソーシアムの活動及び運営に係る事項について審議し、決議する。
7　事業実施会議は、事業実施会議委員全員の出席（代理出席者及び委任状を含む。）をもって

成立する。
8　事業実施会議の議事は、出席者（代理出席者及び委任状を含む。）の過半数の同意をもって決するものとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
9　事業実施会議の議長は、事業実施会議において出席者（代理出席者を含まない。）の中から選出する。

（事務局）
第１２条　本コンソーシアムに、事務局を置く。
2　事務局は、当分の間、東北大学に置く。
3　事務局は、本コンソーシアムの事務を処理する。

（顧問）
第１３条　本コンソーシアムに顧問を若干名置くことができる。
2　顧問は、会員が推薦し、運営委員会の議決を経て、選任する。
3　顧問の任期は、２年を超えない範囲において、運営委員会が前項の規定による議決において定めることとし、必要に応じて再任することができる。
4　顧問は、運営委員会に出席することができる。
5　運営委員会、事業実施会議及び事務局は、顧問に対して、本コンソーシアムの活動及び運営について助言を求めることができる。

（経費の負担）
第１４条　第１２条に規定する事務局の運営に要する経費は、東北大学が負担するものとする。
2　前項の規定による場合を除き、本コンソーシアムの運営に要する経費は、事業実施大学が負担するものとし、各事業実施大学の負担割合については、事業実施会議において決定するものとする。
3　本コンソーシアムの活動への会員の参加に要する費用は、当該会員が負担するものとする。

## 第4章　雑則

（細則）
第１５条　この規約に定めるもののほか、本コンソーシアムの運営上必要な細則は、運営委員会の議決を経て別に定める。

（解釈等）
第１６条　この規約及び細則の内容等に関し疑義が生じたときは、その都度事務局を通じて事業実施会議に説明を求めるものとする。
2　前項に規定する事業実施会議による説明によっても疑義が解消されない場合は、運営委員会における協議事項として取り扱うものとし、運営委員会において決定するものとする。
3　会員は、本規約の定めのほか、日本の関係法令を遵守するものとする。

４　この規約は、日本法に準拠し、日本法に従って解釈されるものとする。

（改正）

第１７条　この規約は、運営委員会の決議により改正することができる。

附則

１　この規約は、令和２年７月１日から施行する。

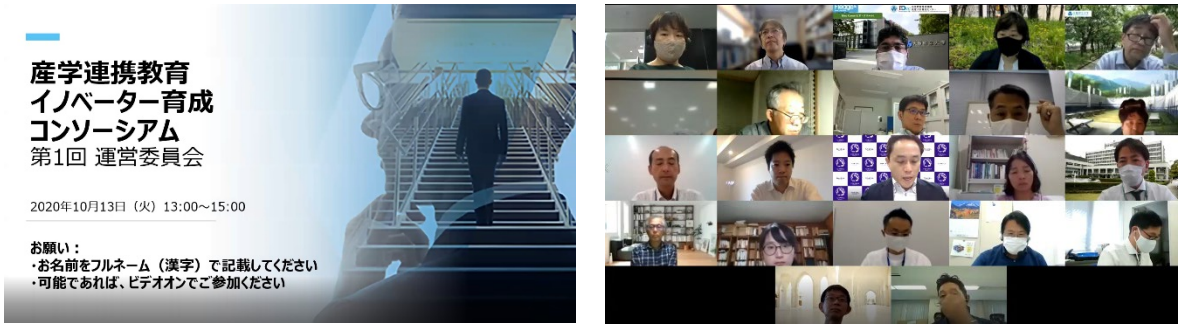
別表

設立当初の会員

| | |
|---|---|
| 事業実施大学 | 国立大学法人東北大学 |
| | 国立大学法人熊本大学 |
| | 公立大学法人大阪 大阪府立大学 |
| | 学校法人立教学院 立教大学 |
| 企業 | 株式会社イノベスト |
| | 株式会社ＡＳＡ ＱＡ |
| | 株式会社ＫＥＩアドバンス |
| | 株式会社七十七銀行 |
| | 株式会社ディスコ |
| | 株式会社中九州クボタ |
| | 株式会社パフ |
| | 株式会社福井製作所 |
| | 株式会社プロアシスト |
| | 株式会社ベネッセｉキャリア |
| | 株式会社履修データセンター |
| | サンライトヒューマンＴＤＭＣ株式会社 |
| | 全日本空輸株式会社 |
| | 損害保険ジャパン株式会社 |
| | 三菱電機株式会社 |
| | ＥＹ新日本有限責任監査法人 |
| | ＰｗＣコンサルティング合同会社 |
| 地方公共団体 | 仙台市 |
| | 豊島区 |
| | 宮城県 |
| その他の団体 | 一般社団法人 経済同友会インターンシップ推進協会 |
| | 一般社団法人 埼玉県経営者協会 |

### 4.8　産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム運営委員会

開催日：2021 年 10 月 13 日（火）13:00～15:00
場所：オンライン会議（Zoom）
議題：　（１）令和 2（2020）年度活動報告（年度計画を含む）
　　（２）研修プログラムについて（参加者数、進捗状況、課題等の共有）
　　（３）顧問の選出・承認
　　（４）令和 3（2021）年度に向けた意見交換
　　（５）その他
参加者：延べ 49 名（大学関係者 32 名、企業自治体等 17 名）、他 委任状 9 名



運営委員会の様子

### 4.9　大学改革を担う実務家教員フェア 2020

実施期間：2021 年 3 月 21 日（土祝）10:00～17:30
開催方法：ウェブ上にて期間限定で公開
参加者数：362 名（第一部 282 名、第二部 267 名、第三部 196 名）

# 大学改革を担う実務家教員フェア2021

## 2021年3月20日（土祝）10:00～17:30
## Zoomによるオンライン開催

大学改革が進む近年、産学共同による人材育成の担い手として「実務家教員」への期待が高まっています。社会的要請を受けて実践的教育の導入を目指す大学にとって、現場で培った高度な実務能力を有し、実践で得た知識や経験を大学教育にもたらしてくれる実務家教員は、社会で育まれた実践知と、大学が創出する学術知とを架橋し、新たな大学教育の可能性を拓く存在と言えます。しかし同時に、そうした実務家教員をいかに育成し、その質保証を図っていくのか、産学が連携して取り組むべき課題も少なくありません。

そこで、第2回目となる「大学改革を担う実務家教員フェア2021」では、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に選定され、実務家教員育成プログラムを開発・運営する 4 つの拠点が一堂に会し、大学や企業で活躍する専門家も交えて、学びと社会をつなぐ「実務家教員」のあるべき姿や求められる役割について議論を行います。また、実務家教員を目指す社会人を対象に、4拠点で進められている実務家教員育成プログラムの取り組みについてもご紹介します。

【参加費】無料

【申込み】HP「jitsumuka.jp」のイベント申込にて参加申込してください。もしくは右のQRコードへ

【主　催】文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校
創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム（代表校：東北大学）／PBLと多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム（代表校：名古屋市立大学）
実務家教員COEプロジェクト（代表校：社会情報大学院大学）／KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システム（代表校：舞鶴工業高等専門学校）

【後　援】文部科学省、一般社団法人 日本経済団体連合会

【問合せ】東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター　Tel. 022-795-4471
Email. innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp　URL. www.ihe.tohoku.ac.jp

# 大学改革を担う実務家教員フェア 2021

## 10:00-10:20　開　会

開会挨拶　服部 正（文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画官）
来賓挨拶　長谷川 知子（一般社団法人 日本経済団体連合会 常務理事、SDGs 本部長）

## 10:20-12:00　〈第 1 部〉日本実務教育学会設立記念シンポジウム「実務家教員と研究者教員の境界線はどこにあるのか？」

主催：日本実務教育学会
共催：文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

実務家教員の養成のありかた、実務家教員による教育実践や研究実践を考える日本実務教育学会の設立に際し、そもそも実務家教員と研究者教員を分けてとらえる必要性はいかなる場合に生じるのか、どのような場合に両者は統合してとらえられるべきかを、高等教育や実務家教員養成の専門家をパネリストに迎え、議論します。

10:20-10:30　日本実務教育学会設立の趣旨・学会活動予定の説明
　　富井 久義（社会情報大学院大学 准教授）
10:30-10:35　イントロダクション―公開研究会の報告と本シンポジウムの趣旨説明
　　川山 竜二（社会情報大学院大学 プロボスト）
10:35-10:55　登壇者自己紹介
10:55-11:30　パネルディスカッション
　　パネリスト：吉武 博通（情報・システム研究機構 監事、東京家政学院 理事長）、稲永 由紀（筑波大学 大学研究センター 講師）、佐藤 浩章（大阪大学 全学教育推進機構教育学習支援部 准教授）
　　モデレーター：川山 竜二
11:30-11:55　フロアからの質疑応答とまとめ
　　川山 竜二
11:55-12:00　入会案内
　　富井 久義

## 13:00-16:00　〈第 2 部〉「大学教員を目指す社会人のための基礎講座」

主催：文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

2020 年に『「社会人教授の大学論』( 青土社 ) を上梓された宮武久佳 東京理科大学教授を迎え、大学における実務家教員や社会人学生の役割についてお話しいただきます。さらに、実際に大学の教壇に立っている実務家教員の方々から、経験を踏まえた「実務家教員論」を展開していただき、議論を行います。

13:00　第 2 部開会
13:05-13:45　講演　『「社会人教授」の大学論』
　　宮武 久佳（東京理科大学 理学部 教授）
13:45-14:10　話題提供 1『実務家教員の役割と可能性（1)』
　　森　紀人（株式会社 ANA 総合研究所）
14:10-14:40　話題提供 2『実務家教員の役割と可能性（2)』
　　髙橋 修一郎（株式会社リバネス代表取締役社長 COO）
14:40-15:05　話題提供 3『実務家教員の役割と可能性（3)』
　　宇野 健司（株式会社 大和総研 調査本部 副部長）
15:05-16:00　パネルディスカッション
　　パネリスト：宮武 久佳、森 紀人、宇野 健司
　　モデレーター：大森 不二雄（東北大学 教授）
16:00　第 2 部閉会

## 16:15-17:30　〈第 3 部〉「実務家教員育成プログラム」受講のススメ

主催：文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」実施校

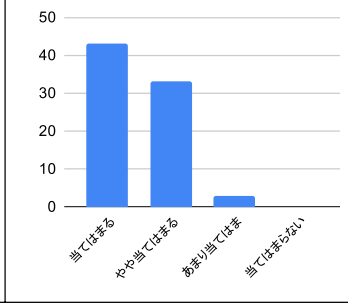
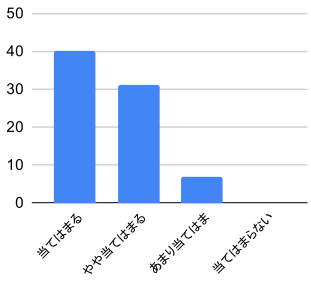
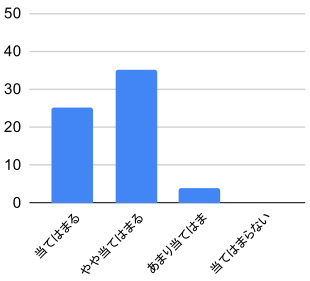
実務家教員を目指す社会人を対象に、2019 年度に文部科学省事業に採択され、実務家教員育成プログラムの開発や提供を進めてきた全国 4 つの拠点の取り組みやこれまでの成果を紹介します。

16:15-16:25　第 3 部開会　「実務家教員育成プログラム」について
16:25-16:55　セッション 1　※下記 1～4 から一つ選択してください。
　　1. 産学連携教育イノベーター育成プログラム（代表校：東北大学）
　　2. 進化型実務家教員養成プログラム（代表校：名古屋市立大学）
　　3. 実務家教員養成課程（代表校：社会情報大学院大学）
　　4. 実務家教員育成研修プログラム（代表校：舞鶴工業高等専門学校）
16:55-17:00　（ブース入れ替え）
17:00-17:30　セッション 2 ※セッション 1 に同じ。関心のある他のプログラムを選択してください。
17:30　　第 3 部終了・閉会

## ■参加者数

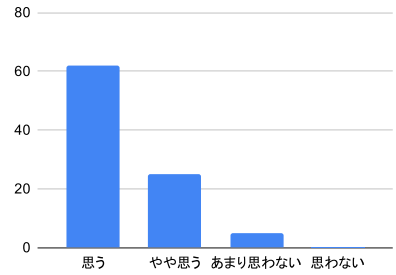
| | 関係者 | 一般申込者 | 小計 | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| （人） | 57 | 217 | 274 | 88 | 362 |
| うち大学等 | 44 | 82 | 126 | | |
| うち一般（企業等） | 13 | 135 | 148 | | |

## ■アンケート集計結果

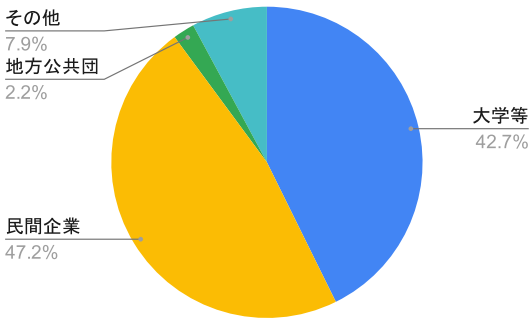
| | 〈第1部〉日本実務教育学会設立記念シンポジウム「実務家教員と研究者教員の境界線はどこにあるのか？」 | 〈第2部〉「大学教員を目指す社会人のための基礎講座」 | 〈第3部〉「実務家教員育成プログラム」受講のススメ | 全体（延べ） |
|---|---|---|---|---|
| 参加者数（人） | 282 | 267 | 196 | 362 |
| アンケート回収数（人） | 79 | 78 | 64 | 92 |
| 回収率 | 28.01% | 29.21% | 32.65% | 25.41% |
| 満足度（4件法） | 3.51 | 3.42 | 3.33 | |
| 満足度分布 |  |  |  | |



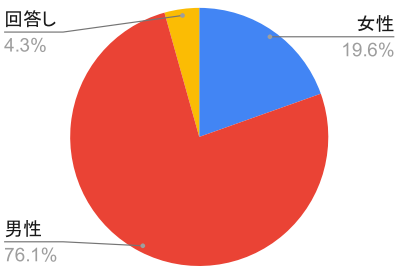
**このフェアを継続して提供すべきだと思いますか**
思う+やや思う：94.57%



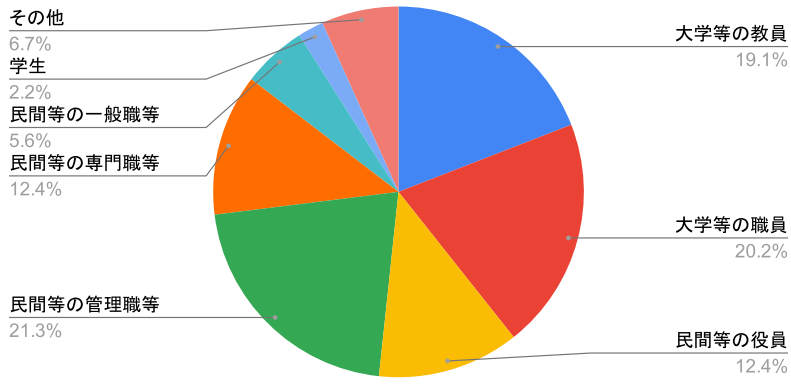

**区分**




**性別**



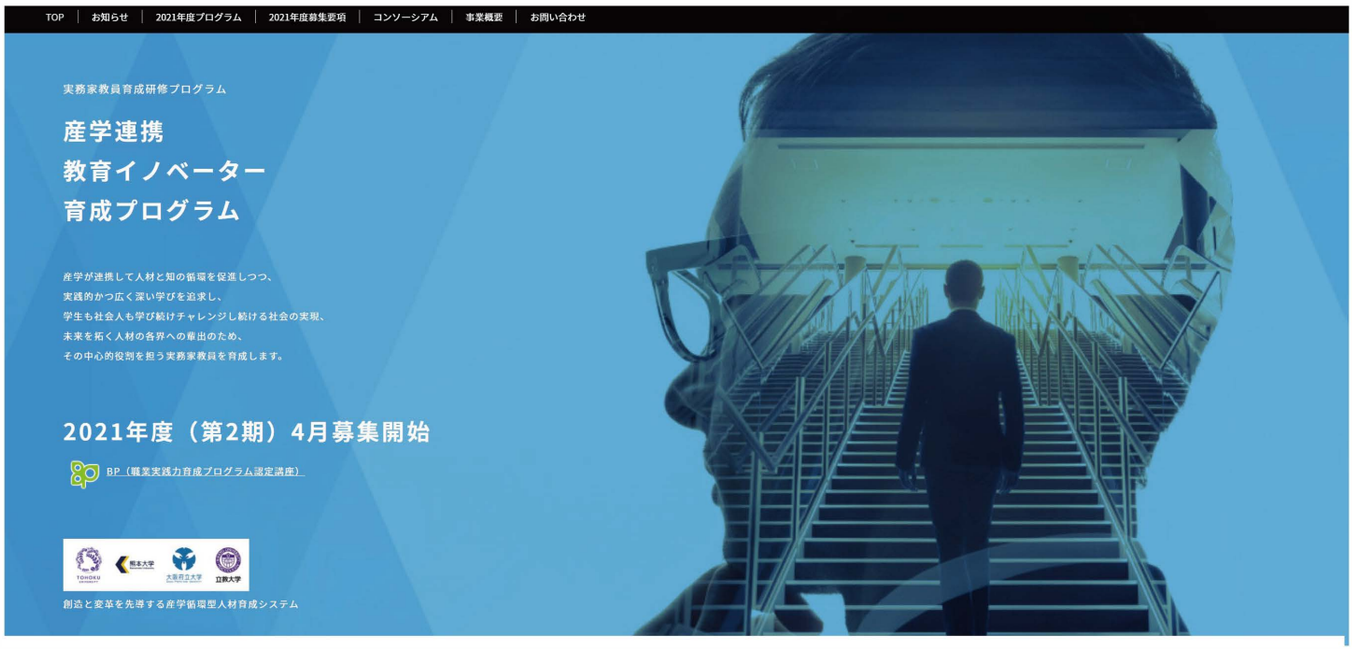

**職階**



## 4.10　持続的な産学共同人材育成システム構築事業 HP

### ●運営拠点ホームページ

●中核拠点ホームページ




## 大学教育イノベーションを先導する実務家教員を育成

**産学連携教育イノベーター育成プログラム**は、
産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、
学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、
その中心的役割を担う**実務家教員**を育成することを目的としています。

### Q 産学連携教育イノベーターとは？

A 産業界の知見と教育実践力を併せ持つ、ハイブリッド人材

実務経験を学習可能な知に転換し
プロの教育力（教え方＝学ばせ方）を獲得

学びと社会をつないで学生の心に火を点け
社会人の学び直しにも貢献

**ガラパゴス化した人材育成を変革し、日本を元気にする人材＝産学連携教育イノベーター**

**ガラパゴス化した人材育成を変革し、日本を元気にする人材＝産学連携教育イノベーター**

### プログラムの特徴

**社会人の学びやすさ**

いつでもどこでも学べるオンライン研修、実践的な演習や
模擬授業等は土日に開講するなど、社会人も受講しやすい
プログラム設計

**ニーズに合わせた在籍期間**

自身の環境や状況に応じて、プログラムの在籍期間（上限
3ヶ年）を選択することが可能

**多彩な講師陣**

大学という「現場」をよく知る多彩な講師陣が、教育に関
するあらゆる知識・スキルを教示

**履修証明プログラム**

体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラム。
総学習時間60時間以上の履修を経て、修了者には学校教育
法105条に基づき履修証明書※を交付

※履修証明制度は、教育機関等における学習成果を職業キャリア形成に活かす観点から、現在政府全体で検討・推進している「ジョブ・カード制度」においても、「職業能力証明書（ジョブ・カード・コア）」として位置付けられています。履修証明プログラムを各種資格の取得と結び付けるなど、目的・内容に応じて職能団体や地方公共団体、企業等と連携した取組も期待されています。

### 2021年度プログラム募集について

募集要項公開: 2021年3月22日（月）
募集期間: 2021年4月26日（月）～5月17日（月）
受講者決定: 2021年6月中旬
受講者決定: 2021年7月18日（日）

2021年度プログラム詳細

## 4.11 事業実施会議及び関係組織打合せ

| 日時 | 場所 | 内容 | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 2020 年<br>5 月 11 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学 10 名 |
| 5 月 18 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学 10 名 |
| 6 月 8 日 | オンライン（Zoom） | 2021 年度履修証明プログラム | 大阪府立大学・東北大学 14 名 |
| 6 月 9 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学 7 名 |
| 6 月 12 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学 10 名 |
| 6 月 17 日 | オンライン（Zoom） | 2021 年度履修証明プログラム | 大阪府立大学・東北大学 14 名 |
| 6 月 18 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学 7 名 |
| 6 月 19 日 | オンライン（Zoom） | 2021 年度履修証明プログラム | 立教大学・東北大学 8 名 |
| 6 月 23 日 | オンライン（Zoom） | 2021 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学 |
| 6 月 30 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学 5 名 |
| 7 月 28 日<br>（第 1 回事業実施会議） | オンライン（Zoom） | 2021 年度履修証明プログラム | 事業実施会議構成員･関係者 33 名 |
| 9 月 1 日 | オンライン（Zoom） | | 熊本大学・東北大学 14 名 |
| 9 月 1 日<br>（臨時事業実施会議） | オンライン（Zoom） | 2021 年度履修証明プログラム | 事業実施会議構成員･関係者 22 名 |
| 12 月 23 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学 |
| 2021 年<br>1 月 25 日<br>（第 2 回事業実施会議） | オンライン（Zoom） | 2021 年度履修証明プログラム | 事業実施会議構成員･関係者 28 名 |
| 2 月 8 日 | オンライン（Zoom） | デジタルバッチ | 熊本大学・東北大学 14 名 |
| 3 月 1 日 | オンライン（Zoom） | 産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム | デジタルハリウッド大学・東北大学 5 名 |
| 3 月 20 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学･東北大学 8 名 |
| 3 月 22 日 | オンライン（Zoom） | 2020 年度履修証明プログラム | 熊本大学・東北大学等 8 名 |

### 4.12　運営拠点としての関係組織打合せ

| 日時 | 場所 | 内容 | 参加者 |
|---|---|---|---|
| 2020 年<br>8 月 21 日 | オンライン（Zoom） | 人材エージェントシステム | 熊本大学・東北大学 11 名 |
| 10 月 16 日 | オンライン（Zoom） | 運営拠点･中核拠点の取組状況 | 文科省専門教育課･東北大 11 名程 |
| 11 月 30 日 | オンライン（Zoom） | 人材エージェントシステム（JREC-IN 及び researchmap 等） | JST・熊本大学・東北大学 10 名 |
| 12 月 7 日 | オンライン（Zoom） | 人材エージェントシステム、キャリア支援 | 熊本大学・東北大学 13 日 |
| 12 月 18 日 | オンライン（Zoom） | 人材エージェントシステム（JREC-IN 及び researchmap 等） | JST・熊本大学・東北大学 9 名 |
| 1 月 4 日 | オンライン（Zoom） | 広報、キャリア支援 | 熊本大学･東北大学 9 名 |
| 1 月 28 日 | オンライン（Zoom） | 人材エージェントシステム | 教育人材開発機構･社会情報大学院大学･熊本大学・東北大学 13 名程 |
| 2 月 18 日 | オンライン（Zoom） | 人材エージェントシステム（JREC-IN 及び researchmap 等） | JST・熊本大学・東北大学 7 名 |
| 3 月 9 日 | オンライン（Zoom） | 広報、キャリア支援 | 熊本大学・東北大学、業者 10 名 |

## 4.13　広報関係（一部抜粋）

2020 年 6 月 28 日（日）朝日新聞（全国・朝刊）記事

朝日新聞　2020年(令和2年)6月28日(日)　13版　教育　24

# 「実務家教員」進む養成

## 豊富な仕事経験　教育・研究に生かす

企業などでの実務経験を生かして高等教育機関で教育・研究にあたる「実務家教員」への関心が高まっている。国は大学や専門職大学での登用を促す政策を推進。文部科学省は昨年、国公私立の四つの大学や高等専門学校（高専）を代表校とする実務家教員の養成拠点を選定した。

実務家教員が注目される理由の一つは、2019年から開校した専門職大学の存在だ。先にできた専門職大学院と共に、「専攻分野における概ね5年以上の実務の経験」と「高度の実務の能力」を有する人材を実務家教員としており、専門職大学では専任教員中に4割以上置かれる。今春から始まった「高等教育の修学支援新制度」では、対象となる大学の要件に、実務家教員による授業科目が標準単位数の1割以上配置されていることをあげる。

### 確かな教育観

「大学の現状に一家言を持っている人は多いですが、皆さんは持論の根拠となるしっかりした高等教育観を養ってください」

6月18日の午後7時、社会情報大学院大学（東京都新宿区）。川山竜二教授の「高等教育論」のオンライン授業が始まり、大学に関する歴史や制度を講義した。18年10月に始めた「実務家教員養成課程」の一コマで、平日夜と土曜日に開講している。4カ月で、シラバス作成や教育評価の方法、論文執筆の基本や模擬授業など、計81時間学ぶ。これまでの4期で136人が修了。大学や専門学校の教員になった人のほか、企業の研修担当として活躍する人もいるという。

「実務家教員養成課程」のオンライン授業＝18日、東京都新宿区の社会情報大学院大学

■持続的な産学共同人材育成システム構築事業に選定された取り組み

| 代表校 | 共同申請校 | 名称 |
|---|---|---|
| 東北大 | 熊本大、大阪府立大、立教大 | 創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム |
| 名古屋市立大 | 岐阜薬科大、高知県立大、中京大 | PBLと多職種連携を活用した進化型実務家教員養成プログラム構築事業 |
| 社会情報大 | 日本女子大、武蔵野大、事業構想大学院大 | 実務家教員COEプロジェクト |
| 舞鶴工業高等専門学校 | 福島工業、長岡工業、福井工業、香川の各高専、放送大 | KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築 |

### 知識を体系化

実務家教員には、実践的な教育で学生の学習意欲を高める効果や、社会人の「リカレント教育」での活躍が期待される一方、人材の質にバラツキがあると指摘されることも。川山教授は「実務経験は大事だが、授業で再現性のない武勇伝を話すのは論外。必要なのは実践で得た知識を体系化し、共有可能な理論として教えることだ」と話す。

### 国、4事業選定

文科省は実務家教員の養成プログラムを開発する「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」で、社会情報大学院大のほか、東北大学、名古屋市立大学、舞鶴工業高専専門学校を代表校とする4拠点のプログラムを選定＝表。19年度から5年間の補助事業で、教育内容の企画立案には企業や自治体なども協力する。

名古屋市立大を代表校とするプログラムは21年度から開講。今年度はモニター受講者向けに授業を行う。

複数の実務領域にまたがる問題の解決に実務家教員の貢献できる教員を育てるため、「PBL（課題解決型学習）」と、様々な職種間での連携を重視する。基本コースの履修後に学ぶ、経営実務、減災・医療など四つの専門コースも設ける。責任者の鵜飼宏成教授は「本学には理論と実践の結びつきが強い医学部や薬学部での蓄積があり、大学院経済学研究科では社会人学生を多く受け入れてきたことも開講の背景にある。この地域で活躍してくれる有為な人材を育てたい」。

東北大では、今夏から自校が代表校のプログラムで受講生を募集するほか、4拠点のプログラムの修了者と大学などをマッチングする機能も担う。修了者から許諾が得られた範囲内で、受講時の成績や職歴・学歴などの情報をデジタル化する「eポートフォリオ」も整備する。責任者の大森不二雄教授は「優秀で志が高い方に各プログラムを受講してもらえるよう、修了後の『出口』の制度は重要だ。実務家教員に限らず大学教員の採用には運と巡り合わせの要素も大きいが、採用側が信頼できる質の高い研修を行っていくことが欠かせない」と話す。（佐藤則志）

◆感想や、教育に関する情報をお寄せ下さい。edu@asahi.comまたはＦＡＸ03・3542・4855へ。

2020 年 7 月 7 日日本経済新聞（全国・朝刊）広告

## 5 参考資料

「2019 年度 大学教育再生戦略推進費 Society 5.0 に対応した高度技術人材育成事業『持続的な産学共同人材育成システム構築事業～リカレント教育等の実践的教育の推進のための実務家教員育成・活用システムの全国展開～』公募要領」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/05/08/1414934_01_1.pdf（2020 年 3 月 30 日確認）

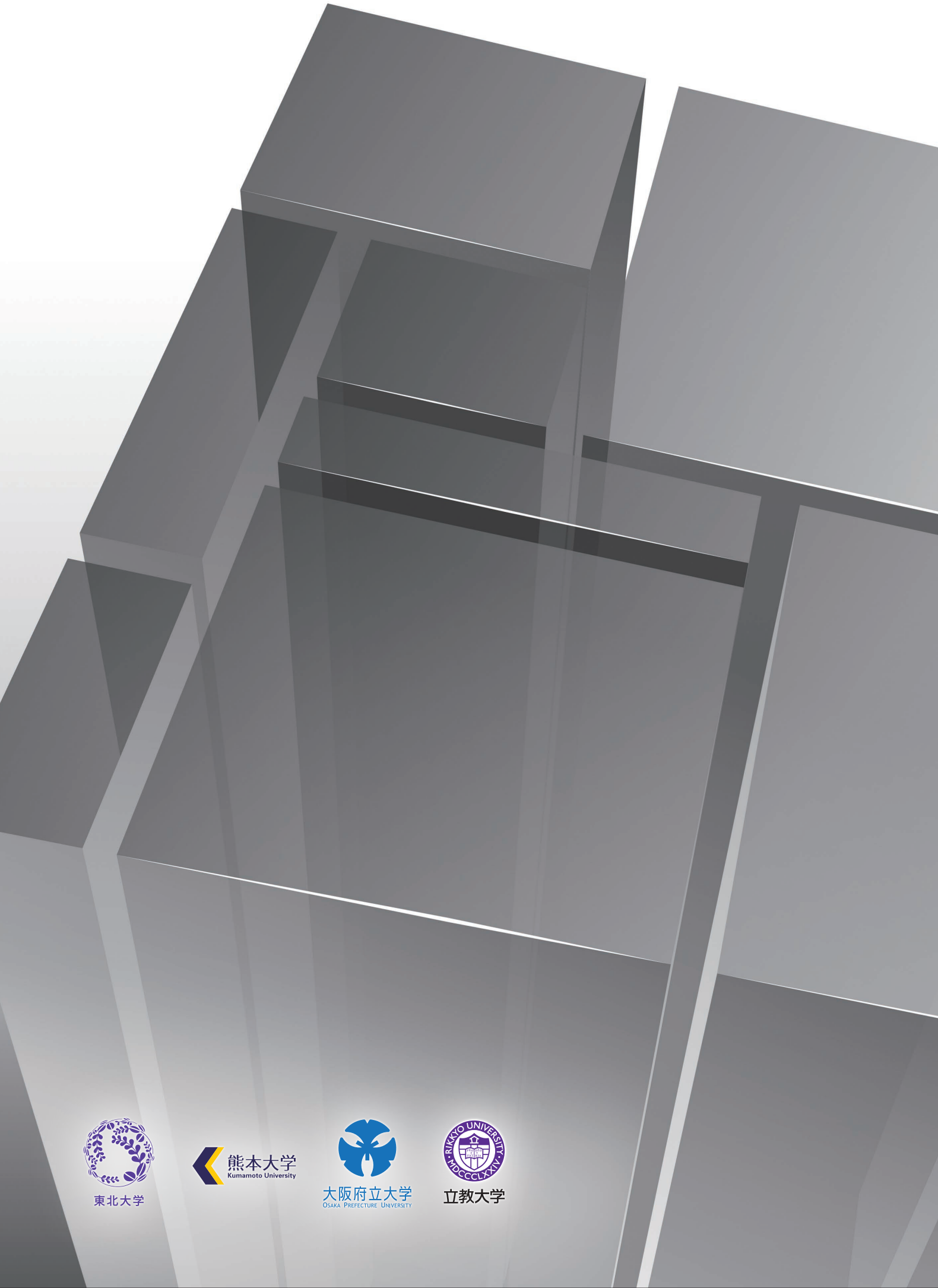
「2019 年度 大学教育再生戦略推進費 Society 5.0 に対応した高度技術人材育成事業『持続的な産学共同人材育成システム構築事業』申請書」（2020 年 6 月, 東北大学, 熊本大学, 大阪府立大学, 立教大学）

『月刊 先端教育』2021年3月号, p72-73.

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」運営・中核拠点
創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム
2020 年度事業報告書

2021 年 3 月発行

編集・発行　創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム実施校
（東北大学・熊本大学・大阪府立大学・立教大学）
事務局 東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41
Tel 022-7995-4472・4473
Email innovator.jitsumuka@grp.tohoku.ac.jp
URL https://jitsumuka.jp/



東北大学

熊本大学
Kumamoto University

大阪府立大学
Osaka Prefecture University

立教大学